考古学財団

ISSN 1342-6834

研究紀要 14

かながわの考古学

2009.3

財団法人 かながわ考古学財団

研 究 紀 要 14

かながわの考古学

2009.3

財団法人 かながわ考古学財団

はじめに

今年度も、各時代の研究プロジェクトチームから提出された共同研究の成果を研究紀要14「かながわの考古学」に掲載することができました。

旧石器時代、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、近世の各研究プロジェクトチームはこれまで設定してきたテーマを継続し、弥生時代研究プロジェクトチームは「神奈川県内出土の弥生時代金属器」を、中世研究プロジェクトチームは「神奈川の中世城館」を新たなテーマとして研究を進めました。

今後ともこのような基礎的な共同研究を進めることによって、職員の資質向上が図られ、より充実した発掘調査に反映されることを期待しております。

本書が県内各地における埋蔵文化財の調査や考古学研究に広く活用されることを願うとともに、皆様方の一層のご指導とご教示を賜りますようお願い申し上げます。

2009年3月

財団法人　かながわ考古学財団
理事長　伊　藤　啓　三

目　　次

神奈川県における旧石器時代の遺物分布(その２)　－L1S層～L1H層(２)－
旧石器時代研究プロジェクトチーム …… 1

神奈川における縄文時代文化の変遷Ⅶ
－後期初頭期　称名寺式土器文化期の様相　その４　文化的様相(２)－
縄文時代研究プロジェクトチーム …… 17

神奈川県内出土の弥生時代金属器(１)　－鉄器集成－
弥生時代研究プロジェクトチーム …… 31

考古学の先駆者 赤星直忠博士の軌跡(６)
－通称「赤星ノート」の古墳時代資料の紹介－
古墳時代研究プロジェクトチーム …… 43

神奈川県における集落遺跡出土の瓦の様相(２)
奈良・平安時代研究プロジェクトチーム …… 59

神奈川の中世城館(１)　中世研究プロジェクトチーム …… 81

近世民家の集成(６)　近世研究プロジェクトチーム …… 97

例　　言

1．本書は、財団法人かながわ考古学財団職員で構成する研究プロジェクトチームが、時代ごとに計画的に共同研究を行った結果を掲載する。

2．各研究プロジェクトチームの構成は以下のとおりである（五十音順）。

・旧石器（先土器・岩宿）時代研究プロジェクトチーム

井関文明・大塚健一・加藤勝仁・栗原伸好・砂田佳弘・長澤邦夫・畠中俊明・三瓶裕司・吉田政行・脇　幸生

・縄文時代研究プロジェクトチーム

阿部友寿・天野賢一・井辺一徳・岡　稔・小川岳人・近藤匡樹・松田光太郎・宗像義輝

・弥生時代研究プロジェクトチーム

飯塚美保・池田　治・櫻井真貴・新開基史・戸羽康一・渡辺　外

・古墳時代研究プロジェクトチーム

植山英史・柏木善治・小西絵美・新山保和・林雅恵・吉田映子

・奈良・平安時代研究プロジェクトチーム

加藤久美・齊藤真一・相良英樹・高橋　香・中田　英・宮井　香・依田亮一・渡辺清史

・中世研究プロジェクトチーム

鈴木絵美・松葉　崇・宮坂淳一・吉田智哉

・近世研究プロジェクトチーム

市川正史・木村吉行・澁谷正信

神奈川県における旧石器時代の遺物分布（その２）

—L1S 層～ L1H 層 (2) —

旧石器時代研究プロジェクトチーム

はじめに

昨年度に引き続き当該出土層位の分布状態を集成した。

県内のL1S(ソフトローム)層は台地から丘陵において広く分布するが、岩相は相模川を挟みその東西で大きく様相を違えている。出土遺物は縄文時代草創期から旧石器時代最末期に該当し、風化土壌の給源である富士箱根山系に近づくに従い、層厚の漸増と、スコリア粒の肥大化と相まって、FB(富士黒色土)層最下底からL1S層は漸次硬化する。その間の漸移層も不整合面の特徴を示しながら、「硬質の柔らかいローム層」という相矛盾したL1S層となる。とりわけ相模川以西ではL1S層からB0層への漸移層、B0層からL1H層への漸移層を上下層と同程度の層厚の分層が可能である。

今年度の集成は一覧表のみであり、次年度以降に集成した基礎データに基づき種々総括することとなる。項目名など表記の仕方は前年度の内容を継承継続している。

なお、集計は55遺跡、363ヶ所の集中地点、出土点数103,447点におよぶ。分布密度では、1.4㎡の範囲から394点の剥片・砕片が出土した藤沢市南鍛冶山遺跡の漸移層上部の密集度が最も高く、１㎡あたり292点を数える。分布密度100点以上では、細石刃ならびに槍先形尖頭器の製作址、あるいは残核や特定器種の集積といった状況を示す。

（砂田佳弘）

L1S ～ L1H 層の遺物分布（その２－１）

遺跡No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積(㎡)	各集中No.	分布範囲(m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成 ※1	石材組成 ※2	備考（共伴する遺構・など）
96	寺尾	L1S	I	1200	1	1.5×1.0	6	4.00	散漫	槍,斧,砕	凝,安	槍の製作場
96	寺尾	L1S	I	1200	2	3.5×1.0	5	1.43	散漫	リタッチャー、剥、砕	凝,安,珪岩	槍の中心的な製作場
96	寺尾	L1S	I	1200	3	1.3×1.0	51	39.23	密集	剥、砕	安	槍の製作場
96	寺尾	L1S	I	1200	4	2.2×2.0	45	10.23	やや密集	槍,MB,削、叩,剥、砕	凝,粘,安,珪岩	槍の製作場
96	寺尾	L1S	I	1200	5	2.0×1.5	21	7.00	やや密集	槍,剥、砕	チ,凝,粘,安,砂,黒	槍の製作場
96	寺尾	L1S	I	1200	6	2.0×1.0	12	6.00	散漫	槍,剥、砕	チ,凝,粘,安,砂,黒	槍の製作場
96	寺尾	L1S	I	1200	7	4.0×2.0	30	3.75	密集	槍,斧,剥、砕	チ,凝,粘,安,砂,黒	礫器3点が点在
96	寺尾	L1S	I	1200	8	1.0×0.6	8	13.33	散漫	砕	チ,凝,粘,安,砂,黒	11点中8点が同一母岩で接合
96	寺尾	L1S	I	1200	9	1.6×1.3	64	30.77	散漫	槍,砕	チ,凝,粘,安,砂,黒	
96	寺尾	L1S	I	1200	10	2.5×2.0	28	5.60	散漫	槍,砕	チ,凝,粘,安,砂,黒	礫石器の集積
96	寺尾	L1S	I	1200	11	4.5×4.5	53	2.62	散漫	槍,MB,砕	チ,凝,粘,安,砂,黒	槍の製作場
96	寺尾	L1S	I	1200	12	0.8×0.7	6	10.71	散漫	槍,砕	チ,凝,粘,安,砂,黒	
96	寺尾	L1S	I	1200	13	4.0×3.0	52	4.33	散漫	槍,MB,RF,砕	チ,凝,粘,安,砂,黒	
96	寺尾	L1S	I	1200	14	5.0×2.5	53	4.24	散漫	槍,UF,砕	チ,凝,粘,安,砂,黒	

L1S～L1H層の遺物分布（その２－３）

遺跡№	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積(㎡)	各集中№	分布範囲(m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	備考（共伴する遺構・など）
96	寺尾	L1S	Ⅰ	1200	15	1.0×0.5	7	14.00	散漫	砕	チ、凝、粘、安、砂、黒	
96	寺尾	L1S	Ⅰ	1200	16	1.2×1.2	56	38.89	密集	槍、砕	チ、凝、粘、安、砂、黒	槍の製作場
96	寺尾	L1S	Ⅰ	1200	17	2.5×1.5	31	8.27	散漫	槍、MB、砕	チ、凝、粘、安、砂、黒	
96	寺尾	L1S	Ⅰ	1200	18	4.5×2.2	60	29.33	密集	槍、斧、MB、剥、砕	チ、凝、粘、安、砂、黒	
96	寺尾	L1S	Ⅰ	1200	19	1.5×0.8	9	0.91	散漫	槍、砕	チ、凝、粘、安、砂、黒	
96	寺尾	L1S	Ⅰ	1200	20	5.5×3.2	473	26.88	密集	槍、斧、舟底、削、核、UF、剥、砕	チ、凝、粘、安、砂、黒	
96	寺尾	L1S	Ⅰ	1200	21	4.5×1.5	33	4.89	散漫	槍、剥、砕	チ、凝、粘、安、砂、黒	
96	寺尾	L1H	Ⅱ	1200	1	5.0×3.2	56	3.50	散漫	槍、削、RF、核、F、C	黒、チ、粘、硬砂、玄（安?）、凝	礫群3
96	寺尾	L1H	Ⅱ	1200	2	2.5×2.0	17	3.40	散漫	削、C	黒、チ、粘、硬砂、玄（安?）、凝	礫群3
96	寺尾	L1H	Ⅱ	1200	3	7.0×3.0	67	3.19	散漫	槍、RF、UF、核、F、C	黒、チ、粘、硬砂、玄（安?）、凝	礫群3
96	寺尾	L1H	Ⅱ	1200	4	8.0×2.0	55	3.44	散漫	槍、RF、UF、F、C	黒、チ、粘、硬砂、玄（安?）、凝	礫群3
96	寺尾	L1H	Ⅱ	1200	5	6.0×2.0	9	0.75	散漫	槍、ナ、削、RF、F、C	黒、チ、粘、硬砂、玄（安?）、凝	礫群3
97	報恩寺	L1S～B0	旧	120	1	2.0×1.0	5	2.50	散漫	MC、ナ？	不明	
97	報恩寺	L1S～B1	旧	120	2	12.0×9.0	478	4.43	密集	MB、MC、掻、錐、RF、UF、核	黒、チ、水、凝、砂、安	
98	宮久保	B0～L1H	－	26470	1	5.6×2.4	14	1.04	散漫	調整F、F	泥	G12区
98	宮久保	B0～L1H	－	26470	2	1.6×0.8	4	3.13	散漫	核、F	泥、砂、粘、黒	G13区
98	宮久保	L1H	－	26470	1	2.4×1.6	5	1.30	散漫	核、叩	泥、粘、花、結晶片岩	F11区、礫群
99	早川天神森	B0L～L1HL	Ⅱ	3850	1	3.0×2.0	10	10.00	散漫	F、C	黒、安	礫1、礫片7
99	早川天神森	B0L～L1HL	Ⅱ	3850	2	1.0×0.2	2	－	散漫	槍、C	黒、玄	
99	早川天神森	L1H～B1	Ⅲ	3850	1	3.0×1.0	1	0.33	点在	核	黒	槍の製作場　礫3　礫群
99	早川天神森	L1H～B1	Ⅲ	3850	2	6.0×4.0	22	0.92	密集	ナ、掻、F類、石槌	黒、粗粒凝	槍の製作場
100	吉岡Ａ区	FBL～漸移	－	31090	－	80.0×10.0	862	1.08	密集	槍F、打斧F、局磨F	凝、安、ホ、チ、頁、黒	製品主体の分布
100	吉岡Ａ区	L1SU	－	31090	1	20.0×10.0	26	0.13	散漫	槍未、槍作出F	凝、安	槍の製作場
100	吉岡Ａ区	L1SU	－	31090	2	190.0×210.0	10	－	散漫	槍未、槍作出F	凝、安	
100	吉岡Ａ区	L1H	－	31090	－	6.0×3.0	43	0.41	やや密	F、C、叩	黒、砂	
101	吉岡Ｂ区	L1SU	－	28690	1	4.0×3.0	3618	69.57	密集	槍、MB、MC、原材、調整F	黒	細石刃の製作跡
101	吉岡Ｂ区	L1SU	－	28690	2	4.0×3.0	3618	69.57	密集	槍、MB、MC、原材、調整F	黒	細石刃の製作跡
101	吉岡Ｂ区	L1SU	－	28690	3	4.0×3.0	3618	69.57	密集	槍、MB、MC、原材、調整F	黒	細石刃の製作跡
101	吉岡Ｂ区	L1SU	－	28690	4	4.0×3.0	3618	69.57	密集	槍、MB、MC、原材、調整F	黒	細石刃の製作跡

L1S ～ L1H 層の遺物分布（その２－３）

遺跡№	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積(㎡)	各集中№	分布範囲(m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	備考（共伴する遺構・など）
101	吉岡Ｂ区	FBL～漸移	草2	－	1	20.0×10.0	31	0.16	密集	槍,鏃,磨,RF、UF、F	凝,ホ,安、黒	
102	吉岡Ｃ区	FB～L1S	草	36000	1	4.0×3.0	7	0.58	散漫	槍,鏃,叩,RF、F、C	凝、ホ、頁,安、細粒閃緑岩	
102	吉岡Ｃ区	FB～L1S	草	36000	2	3.7×2.3	38	4.47	密集	槍,台、F、C	凝,ホ,頁	
102	吉岡Ｃ区	FB～L1S	草	36000	3	3.1×2.5	7	0.90	散漫	槍,F、C	凝、ホ、珪頁、細粒安	
102	吉岡Ｃ区	FB～L1S	草	36000	4	3.2×2.8	5	0.56	散漫	MB、槍,F	チ,ホ,黒頁,黒	
102	吉岡Ｃ区	FB～L1S	草	36000	5	2.7×1.3	8	2.28	散漫	槍,鏃,削,F,C	凝,チ,ホ,安、細粒安	
102	吉岡Ｃ区	FB～L1S	草	36000	6	5.4×4.9	15	0.57	散漫	槍,礫器,叩,台、F	凝,チ,ホ,黒頁	
102	吉岡Ｃ区	FB～L1S	草	36000	7	10.2×7.8	174	2.19	密集	槍,局磨,楔,錐,叩,礫器、台、UF、F	凝,チ,ホ,黒頁,珪頁、硬頁、安、細粒安、斑礪	
102	吉岡Ｃ区	FB～L1S	草	36000	8	3.2×2.2	21	2.98	散漫	槍,調整器、F、C	凝,チ,黒頁、珪頁、硬頁、砂岩	
102	吉岡Ｃ区	FB～L1S	草	36000	9	0.9×0.3	7	25.93	密集	槍,F、C	チ,黒頁、頁	
102	吉岡Ｃ区	FB～L1S	草	36000	10	1.8×1.6	15	5.21	密集	槍,F、C	凝,チ,黒頁、頁	
102	吉岡Ｃ区	FB～L1S	草	36000	11	9.1×8.5	552	7.14	密集	槍,RF,叩,F、C	凝,チ,ホ,黒頁,珪頁,硬頁,頁,安、細粒安、斑礪、流紋、細閃	
102	吉岡Ｃ区	FB～L1S	草	36000	12	2.2×1.2	7	2.65	散漫	F	チ,ホ,黒頁	
102	吉岡Ｃ区	FB～L1S	草	36000	13	1.8×0.3	5	9.26	散漫	槍,UF,F,C	凝,黒頁	
102	吉岡Ｃ区	FB～L1S	草	36000	14	2.6×2.0	8	1.54	散漫	槍,RF,叩,F	凝,チ,黒頁、頁	
102	吉岡Ｃ区	FB～L1S	草	36000	15	3.5×1.2	4	0.95	散漫	有舌,錐,叩,C	凝,安、細粒安	
102	吉岡Ｃ区	B0	B0	36000	1	3.9×2.3	35	3.90	密集	楔,核、叩、礫器、RF、F、C	凝,安,ホ,黒,閃	
102	吉岡Ｃ区	B0	B0	36000	2	4.9×3.7	20	1.10	散漫	核、礫器、礫器原形、台、F	凝,安,ホ,珪頁	
102	吉岡Ｃ区	B0	B0	36000	3	2.6×0.7	5	2.75	散漫	礫器、F	ホ,黒	
102	吉岡Ｃ区	B0	B0	36000	4	1.0×0.4	3	7.50	散漫	核、F	凝,ホ	
103	吉岡Ｄ区	FB	草	42810	1	4.6×4.1	4	0.21	散漫	槍,有,打斧、叩	ホ,凝,安	隆線文
103	吉岡Ｄ区	FB	草	42810	2	10.9×4.7	5	0.10	散漫	槍,削,F	凝,安	
103	吉岡Ｄ区	FB	草	42810	3	3.5×2.1	7	0.95	散漫	核,F	凝	
103	吉岡Ｄ区	FB	草	42810	4	4.1×0.9	6	1.63	密集	礫斧、礫、打斧、埋納蓋石	ホ、閃、凝灰角礫岩	埋納遺構、土坑、溝状遺構
103	吉岡Ｄ区	B0	B0	42810	1	6.3×3.6	17	0.75	散漫	MC,MB,F,C	珪頁、硬頁、チ、ホ	
103	吉岡Ｄ区	B0	B0	42810	2	2.6×1.3	10	2.96	散漫	MC,礫,F、C	凝,流,黒,珪頁	
103	吉岡Ｄ区	B0	B0	42810	3	7.4×6.0	52	1.17	密集	MC,MC素材、MB、掻,削片,UF,F,C、叩	凝、流、硬頁、珪頁、チ、ホ、珪質岩	
103	吉岡Ｄ区	B0	B0	42810	4	3.5×2.1	60	8.16	密集	MC素材、MB、削片、F、C	黒	
103	吉岡Ｄ区	B0	B0	42810	5	6.7×2.0	7	0.52	散漫	F,楔,UF,C	ホ,黒	

L1S～L1H層の遺物分布（その２－４）

遺跡№	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積(㎡)	各集中№	分布範囲(m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	備考（共伴する遺構・など）
103	吉岡Ｄ区	L1H	Ⅰ	42810	1	5.7×2.3	43	3.28	密集	ナ、MB,MC素材、削,鏃,UF,F,C、核	黒、安、チ、ホ	
103	吉岡Ｄ区	L1H	Ⅰ	42810	2	2.8×1.6	14	3.13	密集	MC素材、鏃、UF、F、C	黒	
104	吉岡Ｅ区	漸移～L1S	－	16550	－	200.0×250.0	2	－	散漫	礫器、磨石	硬細凝、安	
107	今田	Ⅴ～B0	Ⅰ	1400	1	2.2×2.0	10	2.27	散漫	槍1,ｽｸ1,F5、礫器3	砂3,凝2,黒1,チ1,泥1,他2	
109	代官山	FB～L1S	Ⅰ	18750	B	－	2	－	散漫?	F2	粘2	土坑1、礫群2、礫集中隆線文
109	代官山	FB～L1S	Ⅰ	18750	C	2.2×1.2	3	1.14	散漫?	F3	粘3	土坑1、礫群2、礫集中隆線文
109	代官山	FB～L1S	Ⅰ	18750	D	2.6×1.8	2	0.43	散漫?	槍1,残核1	安1,粘1	土坑1、礫群2、礫集中隆線文
109	代官山	FB～L1S	Ⅰ	18750	E	1.4×0.8	3	2.68	散漫?	F1,C2	粘3	土坑1、礫群2、礫集中隆線文
109	代官山	FB～L1S	Ⅰ	18750	G	1.4×0.6	2	2.38	散漫?	F2	粘2	土坑1、礫群2、礫集中隆線文
109	代官山	FB～L1S	Ⅰ	18750	I	0.9×0.9	2	2.47	散漫?	F2	粘2	土坑1、礫群2、礫集中隆線文
109	代官山	FB～L1S	Ⅰ	18750	K	7.0×2.4	3	0.18	散漫?	有1,F1,C1	粘2,珪頁1	土坑1、礫群2、礫集中隆線文
109	代官山	FB～L1S	Ⅰ	18750	L	4.0×1.0	3	0.75	散漫?	F2,C1	チ3	土坑1、礫群2、礫集中隆線文
109	代官山	FB～L1S	Ⅰ	18750	M	1.8×1.2	3	1.39	散漫?	礫器3	砂2,凝1	土坑1、礫群2、礫集中隆線文
109	代官山	FB～L1S	Ⅰ	18750	N	3.6×2.0	5	0.69	散漫?	掻1,F3,残核1	粘4,珪頁1	土坑1、礫群2、礫集中隆線文
109	代官山	FB～L1S	Ⅰ	18750	O	2.0×1.0	2	1.00	散漫?	F2	粘1,安1	土坑1、礫群2、礫集中隆線文
109	代官山	L1SL～B0U	Ⅱ	18750	A	1.4×0.8	2	1.79	散漫?	F2	凝2	礫群8
109	代官山	L1SL～B0U	Ⅱ	18750	B	4.0×3.0	32	2.67	やや密	MB5,MC1,UF4,F14,C7,残核1	粘11,安8,黒5,チ2,凝2,頁2	礫群8
109	代官山	L1SL～B0U	Ⅱ	18750	C	2.8×2.6	10	1.37	散漫?	MB4,MC1,F3,C2	安4,黒3,チ2,凝1	礫群8
109	代官山	L1SL～B0U	Ⅱ	18750	D	4.0×2.0	11	1.38	散漫?	ＭＢ２、ＭＣ１、RF1、F3、C3	粘3,凝3,黒1,安1,頁1,チ1	礫群8
109	代官山	L1SL～B0U	Ⅱ	18750	E	2.0×1.4	3	1.07	散漫?	F2,C1	凝2,粘1	礫群8
109	代官山	L1SL～B0U	Ⅱ	18750	F	5.2×1.2	3	0.48	散漫?	F2,C1	粘2,チ1	礫群（第2集中）と一部重複　礫群8
109	代官山	L1SL～B0U	Ⅱ	18750	G	4.4×1.6	4	0.57	散漫?	叩1,F3	安3,凝1	礫群（第8集中）と一部重複　礫群8
109	代官山	L1SL～B0U	Ⅱ	18750	H	2.6×2.0	5	0.96	散漫?	F1,C4	安5	礫群（第3集中）と一部重複　礫群8
109	代官山	L1SL～B0U	Ⅱ	18750	I	3.0×1.0	6	2.00	散漫?	RF1,F5	粘6	礫群（第4集中）と一部重複　礫群8
109	代官山	L1SL～B0U	Ⅱ	18750	J	2.4×1.0	2	0.83	散漫?	F2	頁1,安1	F：調整剥片1点を含む　礫群8
109	代官山	L1SL～B0U	Ⅱ	18750	K	1.0×0.9	2	2.22	散漫?	RF1,F1	安2	礫群（第1集中）と一部重複　礫群8
109	代官山	L1SL～B0U	Ⅱ	18750	L	1.5×1.0	2	1.33	散漫?	MB1,C1	黒2	礫群8
109	代官山	B0L～L1H	Ⅲ	18750	A	7.0×5.4	147	3.89	やや密集?	ＭＢ76、ＭＣ4、ＭＭ1、ＳＦ40、SC5、FF1、UF1、F5、C13	黒146	B2・C集中と接合
109	代官山	B0L～L1H	Ⅲ	18750	B1	3.0×3.0	151	16.78	密集?	ＭＢ97、ＭＣ3、ＭＭ1、ＳＦ24、SC1、F11、C15	黒152	B2・C・D集中と接合　礫群(第2集中)と重複

L1S ～ L1H 層の遺物分布（その２－５）

遺跡№	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積(㎡)	各集中№	分布範囲(m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	備考（共伴する遺構・など）
109	代官山	B0L～L1H	Ⅲ	18750	B2	3.0×2.8	231	27.50	密集?	MB72,MC14,MM2,MF1,RM2,SF79,SC6,FF7,UF1、UF1,F14,C32	黒231	A・B1・C・D・E集中と接合　礫群(第3集中と重複)
109	代官山	B0L～L1H	Ⅲ	18750	C	6.6×4.0	192	7.27	やや密集?	MB123,MC5,RM1,SF22,SC2,FF3,UF1,F6,C30	黒193	A・B1・B2・D集中と接合　礫群(第1集中と重複)
109	代官山	B0L～L1H	Ⅲ	18750	D	7.0×5.4	29	0.77	散漫?	ＭＢ１３、ＭＣ３、RM1、SF4、FF1、F2、C3	黒27	B1・B2・C集中と接合
109	代官山	B0L～L1H	Ⅲ	18750	E	2.4×2.0	14	2.92	散漫?	ＭＢ１２、ＲＭ１、SF1、C1	黒15	B2集中と接合
109	代官山	B0L～L1H	Ⅲ	18750	F	2.4×2.4	4	0.69	散漫?	RM2、SF1、C1	黒4	
109	代官山	B0L～L1H	Ⅲ	18750	G	4.8×3.8	71	3.89	散漫?	ＭＣ１、ＲＦ１、UF2、F12、C44、槍5、PC6	黒71	
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	A	3.0×2.0	4	(0.70)	散漫?	ナ1、槍2、CF1	黒4	B～E集中と隣接　D集中と一部重複　炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	B	5.6×3.6	202	(10.00)	密集？	ナ３、槍８、削1、Sr1、RF8、UF1、ＣＦ１、ＲＣ１３、F36、C129、残核1	黒200,凝1,頁1	A・C～E集中と隣接C集中と重複　炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	C	7.8×5.6	13	(0.30)	散漫?	錐１、礫器２、RF1、CF1、RC1、F2、C5	黒11,凝1,砂1	A・B・D・E集中と隣接B集中と重複　炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	D	4.4×2.4	15	1.42	散漫?	ナ1、槍2、CF3、RC2、F1、C6	黒15	A～C・E集中と隣接A集中と一部重複　炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	E	2.0×1.2	2	0.83	散漫?	ナ1、F1	黒2	A～D集中と隣接　炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	F	4.0×2.0	5	0.63	散漫?	ナ1、槍1、CF1、F1、C1	黒5	炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	G	2.8×1.6	7	1.56	散漫?	RF1、F2、C4	黒7	炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	H	3.2×1.2	4	1.04	散漫?	ナ2、掻1、叩1	黒1,珪頁1,凝1,砂1	I～L集中と隣接　礫集中1・4と隣接　炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	I	2.0×1.4	3	1.07	散漫?	F1、C2	黒3	H・J～L集中と隣接礫集中1・4と隣接　炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	J	3.2×2.4	19	(2.50)	やや散漫?	ナ2、RF2、UF2、CF1、F9、C3	黒18,頁1	H・I・K・L集中と隣接礫集中4・5と隣接　炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	K	5.4×2.8	15	0.99	やや散漫?	ナ4、削1、RF1、F8、C1	珪頁12,黒3	H～J・L集中と隣接礫集中4・5と隣接　炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	L	2.0×1.0	4	2.00	散漫?	ナ2,F2	黒2,頁1,珪頁1	H～K集中と隣接　炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	M	4.4×3.0	4	0.30	散漫?	CF1,F2,C1	珪頁4	炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	N	3.2×3.2	6	0.59	散漫?	ナ2,UF2,F1,C1	黒5,珪頁1	礫集中1・2と隣接　炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	O	3.8×3.8	4	0.28	散漫?	F4	頁4	礫集中2と隣接　礫集中3とは重複　炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	P	2.8×1.2	3	0.89	散漫?	F3	粘3	炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	Q	3.2×1.2	3	0.78	散漫?	RF1,UF1,F1	凝2,黒1	R～W集中と隣接　礫集中7～11と隣接　炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	R	(3.2)×(1.4)	26	(5.80)	やや散漫?	ナ1、叩1、RF1、CF1、F8、C14	凝23,黒3	Q・S～W集中、礫集中7～11と隣接・重複S～U・W集中間と接合関係　炭化物集中

L1S～L1H層の遺物分布（その２－６）

遺跡No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積(㎡)	各集中No.	分布範囲(m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	備考（共伴する遺構・など）
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	S	(2.8)×(1.4)	6	(1.50)	散漫?	ナ2,UF2,F2	頁4,黒1,凝1	Q・R・T～W集中、礫集中7～11と隣接・重複 R・T・U・W集中間と接合関係あり　炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	T	－	13	－	－	ナ2、叩1、UF4、F3、C2、残核1	黒7,凝2,頁2,チ1,砂1	Q～S・U～W集中、礫集中7～11と隣接・重複 R・S・U・W集中間と接合関係あり　炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	U	－	45	－	－	ナ2、叩2、RF4、RC2、F19、C15、残核1	黒30,凝5,頁5,珪頁3,砂2	Q～T・V・W集中、礫集中7～11と隣接・重複 R～T・W集中間と接合関係あり　炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	V	－	12	－	－	ナ3、掻1、UF3、CF1、F2、C1、残核1	黒10,凝1,頁1	Q～U・W集中、礫集中7～11と隣接・重複　炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	W	(2.0)×(1.4)	14	(5.00)	やや散漫?	ナ2,RF2,F6,C3、残核1	凝10,黒4	Q～V集中、礫集中7～11と隣接・重複　R～U集中間と接合関係あり 炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	X	4.4×2.4	3	0.28	散漫?	ナ1,槍1,掻1	黒2,凝1	炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	Y	3.4×1.6	3	0.55	散漫?	F2,C1	黒3	炭化物集中
109	代官山	L1HL～B1U	Ⅳ	18750	Z	－	(2)	－	やや散漫	(F1,残核1)	(安2)	炭化物集中
111	南鍛冶山	漸U	草	49700	1	1.5×0.9	394	291.85	密集	F142,C252	頁312、その他82	本集中内に1・2号住居状遺構、1～3号礫集中、1・2号配石、1・2号炭化物集中、集中あり 隆線文71
111	南鍛冶山	漸	草	49700	2	5.0×2.0	6	0.60	散漫	F6	チ6	
111	南鍛冶山	B0	先	49700	0507	8.1×3.0	20	0.82	やや散漫	MC1、削1、RF1、F10、C3、礫器1、石核1	黒13,凝頁2,珪頁1,チ1,千1	
111	南鍛冶山	B0	先	49700	0702	0.2×0.2	2	50.00	密集	F1,礫器1	砂2	
111	南鍛冶山	B0～L1H	先	49700	0201	6.8×4.4	15	0.50	やや密集	ナ3,F6,C5,石核1	黒12,珪頁3	礫集中と一部重複　炭化物の集中と隣接
111	南鍛冶山	B0～L1HU	先	49700	0202	4.1×2.3	5	0.53	散漫	F4,C1	黒4,頁1	2ヶ所の礫集中と重複
111	南鍛冶山	L1HM～L	先	49700	0203	7.4×4.4	31	0.95	やや密集	F30,石核1	珪頁30,流1	4ヶ所の礫集中、炭化材分布と一部重複
111	南鍛冶山	B0～L1H	先	49700	0402	4.8×4.6	12	0.54	散漫	ナ1,F10,C1	黒7,珪頁2,頁1,チ2	2ヶ所の礫集中のうち1ヶ所とほぼ重複、炭化物分布とも重複
111	南鍛冶山	L1H～B1	先	49700	0506	7.3×7.1	39	0.75	やや散漫	ナ2,F36,石核1	頁24,玄9,凝頁5,黒1	礫集中と重複
111	南鍛冶山	L1H～B1	先	49700	0505	27.8×21.2	962	1.63	密集	ナ38、削3、RF17、F634、C268、石核2	黒910,珪頁36,頁8,チ3,玄3,凝頁1,凝1	炭化物分布と重複
111	南鍛冶山	L1H～B1	先	49700	0401	10.2×8.5	1084	12.50	密集	ナ81、削3、RF19、F624、C350、石核7	黒1083,ホ1	礫集中と重複
111	南鍛冶山	L1H	先	49700	0504	3.8×0.9	4	1.17	散漫	ナ1、F1、C1、石核1	黒4	
116	南葛野	Ⅲa～Ⅲc(漸)	草	8425	1	8.0×5.0	34	0.85	やや密集	槍1、彫2、楔2、RF1、UF3、F7、C10、磨1、礫器1、石核2	頁,安,粘,チ,黒,凝頁,	1号炭化物集中と重複 1・2号土坑および2号炭化物集中と隣接　爪形文4

L1S ～ L1H 層の遺物分布（その２－７）

遺跡№	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積(㎡)	各集中№	分布範囲(m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	備考（共伴する遺構・など）
116	南葛野	Ⅲa～Ⅲc(漸)	草	8425	2	13.0×7.0	5	0.06	散漫	槍未1、植刃2、円掻2	凝1、粘2、黒2	縄文早期末の遺物分布と重複　爪形文3、撚糸側面圧痕文2
116	南葛野	L1S	草	8425	3	0.25×0.1	3	120.00	密集	石核3	頁3	
116	南葛野	L1H層下部～B1層上部	Ⅰ	1323	3−S1	9.0×7.0	41	0.65	密集	ナ５、削１、石刃５、石刃状Ｆ２、剥片2、RF3、F17、C3、叩1、石核1	黒35、チ1、硬砂1	
116	南葛野	L1H層下部～B1層上部	Ⅰ	1323	6−S1	8.5×4.0	59	1.74	やや密集	ナ３、削１、石刃1、RF5、F22、C27	黒59	I6−S2と接合
116	南葛野	L1H層下部～B1層上部	Ⅰ	1323	6−S2	9.0×6.5	350	5.98	密集	ナ22、削3、錐1、石刃15、ＲＦ6、F131、C168、石核1	黒345、凝頁1、チ1	I6−S1と接合
116	南葛野	L1H層下部～B1層上部	Ⅰ	1323	13−S1	8.0×5.6	7	0.16	散漫	RF1、F5、石核1	珪頁7	
118	慶應義塾藤沢校地内	B0L～L1HU	草1	38000	−	1.5×0.5	8	10.67	密集	削2、礫器1、F5	頁3、砂1、チ2、粘2	
118	慶應義塾藤沢校地内	ⅢbL～L1SU	草2	38000	A	28.3×22.5	353	0.55	密集	槍6、有15、削17、錐1、楔2、礫器2、叩3、石核1、F160、C39、加工礫10	珪頁66、頁58、泥33、砂23、凝頁10、玄10、黒9、チ2、凝泥8、蛇7、凝6、浮石質凝灰岩5、粘3、火礫凝3、溶結凝3、硬砂1、石閃1、花閃1、角閃安1	B～D遺物集中部と隣接　B遺物集中部と接合あり　住居状遺構1、ピット群1、炭化物集中4　隆線文
118	慶應義塾藤沢校地内	ⅢbL～L1SU	草2	38000	B	46.4×31.0	23	0.02	やや散漫	有2、礫器1、磨石類1、F17、C2	凝5、珪頁4、泥4、頁3、砂3、黒1、安1、輝緑凝灰岩1、凝灰質泥岩1	A・C・D遺物集中部と隣接　A遺物集中部と接合あり　住居状遺構1、ピット群1、炭化物集中4　隆線文
118	慶應義塾藤沢校地内	ⅢbL～L1SU	草2	38000	C	36.8×15.9	9	0.02	やや散漫	有4、F3、加工礫1	頁4、珪頁1、凝頁1、凝泥1、安1	A・B・D遺物集中部と隣接　住居状遺構1、ピット群1、炭化物集中4　隆線文
118	慶應義塾藤沢校地内	ⅢbL～L1SU	草2	38000	D	22.4×14.2	5	0.02	密集	礫器1、F1、C2、加工礫1	珪頁1、黒2、泥1、閃緑玢岩1	A～C遺物集中部と隣接　礫多量　住居状遺構1、ピット群1、炭化物集中4
118	慶應義塾藤沢校地内	ⅢbL～L1SU	草2	38000	E	27.9×27.0	8	0.01	散漫	打斧5、F2	凝3、珪頁2、泥2、頁1	住居状遺構1、ピット群1、炭化物集中4
118	慶應義塾藤沢校地内	ⅢbL～B0U	草2	53000	A	21.0×14.0	79	0.27	やや密集	槍1、有2、打斧3、削2、礫器3、台1、F40、C16、加工礫11	玄20、珪頁13、頁13、凝11、泥11、安4、凝灰質砂岩4、石英閃緑岩1、チ1、閃緑玢岩1	3・4号炭化物集中と重複　住居状遺構1、ピット群1、炭化物集中4
118	慶應義塾藤沢校地内	Ⅲb～L1S	草2	53000	B	15.0×12.0	25	0.14	やや密集	有1、打斧2、磨1、F5、C15、石核1	粘8、頁6、珪頁6、石英閃緑岩1、黒1、硬頁1、チ1、安1	住居状遺構と1・2号炭化物集中と重複　住居状遺構1、ピット群1、炭化物集中4
118	慶應義塾藤沢校地内	L1SU～漸	草2	53000	C	6.5×4.5	9	0.31	散漫	礫器2、叩1、F6	泥4、頁2、粘2、石英閃緑岩1	住居状遺構1、ピット群1、炭化物集中4
118	慶應義塾藤沢校地内	ⅢbL～L1S	草2	53000	B	12.0×9.0	60	0.56	やや密集	槍2、有2、削5、礫器1、叩1、F22、C24、加工礫3	珪頁22、頁20、凝頁4、凝3、安3、泥2、砂1、輝石安1、粘1、チ1、硬砂1、閃1	住居状遺構1、ピット群1、炭化物集中4

L1S～L1H層の遺物分布（その２－８）

遺跡No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積(㎡)	各集中No.	分布範囲(m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	備考（共伴する遺構・など）
118	慶應義塾藤沢校地内	ⅢbL～漸	草2	53000	C	32.5×21.0	5	0.01	やや散漫	削2,磨1,F2	泥2,頁2,珪頁1,凝灰質砂岩1	南東でD遺物集中部と接する　住居状遺構1、ピット群1、炭化物集中4
118	慶應義塾藤沢校地内	ⅢbL～L1SU	草2	53000	D	37.5×25.5	147	0.15	やや密集	槍5、有6、削5、叩1、F81、C35、石核4、加工礫10	凝泥42、頁40、珪頁16、泥11、凝8、凝砂8、砂6、安4、粘4、チ3、玄3、凝頁1、閃1	北西でC遺物集中部と接する　南東側にピット群あり　住居状遺構1、ピット群1、炭化物集中4
118	慶應義塾藤沢校地内	ⅢbL～L1SU	草2	53000	E	38.0×22.0	14	0.01	散漫	槍3,有1,削4,打斧1,F5	珪頁1,頁6,泥3,凝1,砂1,玄2	住居状遺構1、ピット群1、炭化物集中4
118	慶應義塾藤沢校地内	L1SL	Ⅰ	12308	1	4.2×3.6	12	0.79	やや散漫	槍1,F12	凝1,凝頁9,珪頁3	
118	慶應義塾藤沢校地内	L1HU？	Ⅰ	12308	2	2.6×2.5	4	0.62	散漫	MC1,F3	黒4	第３石器集中部と隣接　第１・２礫集中部と重複
118	慶應義塾藤沢校地内	L1HU	Ⅰ	12308	3	2.8×2.6	6	0.82	散漫	F6	黒6	第２石器集中部と隣接　第１・２礫集中部と重複
118	慶應義塾藤沢校地内	L1H	Ⅰ	12308	1	3.4×3.2	6	0.55	散漫	ナ2,RF1,F3	黒3	Fの石材は不明　炭化物集中
118	慶應義塾藤沢校地内	L1H	Ⅱ	12308	1	3.7×2.8	11	1.06	やや散漫	ナ1,F10	黒11	第1礫集中部と重複　炭化物集中
118	慶應義塾藤沢校地内	L1H	Ⅱ	12308	1	3.6×3.4	8	0.65	やや散漫	RF1,F7	黒、珪頁	第1～3礫集中部と近接　炭化物集中
118	慶應義塾藤沢校地内	L1H	Ⅱ	12308	2	6.4×5.4	66	1.91	密集	ナ1,叩1,F57,石核7	黒、珪頁、硬砂	第3・5石器集中部と接合あり　第1～3礫集中部と近接　炭化物集中
118	慶應義塾藤沢校地内	L1H	Ⅱ	12308	3	6.0×5.3	52	1.64	密集	ナ1,叩3,RF1,F44,石核3	黒,チ,硬砂,珪頁,砂質泥岩,凝頁	第2・4～6石器集中部と接合あり　第1～3礫集中部と近接　炭化物集中
118	慶應義塾藤沢校地内	L1H	Ⅱ	12308	4	4.4×2.0	8	0.91	散漫	F8	黒4,珪頁4	第6石器集中部と接合あり　第1～3礫集中部と近接　炭化物集中
118	慶應義塾藤沢校地内	L1H	Ⅱ	12308	5	6.6×5.8	112	2.93	密集	ナ3,RF2,F105,石核2	頁,珪頁,凝頁,黒	第2・3石器集中部と接合あり　炭化物集中
118	慶應義塾藤沢校地内	L1H	Ⅱ	12308	6	5.6×3.8	62	2.91	密集	ナ3、削2、RF1、F53、石核3	黒,珪頁,頁、凝頁	第3・4石器集中部と接合あり　第5礫集中部と近接　炭化物集中
118	慶應義塾藤沢校地内	L1H	Ⅱ	12308	7	3.4×2.6	6	0.68	散漫	ナ1,削1,F4	黒6	炭化物集中
118	慶應義塾藤沢校地内	L1H	Ⅱ	12308	8	4.4×4.4	19	0.98	やや散漫	ナ4,F15	黒19	炭化物集中
118	慶應義塾藤沢校地内	L1H	Ⅱ	12308	9	4.2×3.2	16	1.19	やや密集	ナ4,RF2,F9,叩1	黒15,砂1	炭化物集中
118	慶應義塾藤沢校地内	L1H	Ⅱ	12308	10	6.4×6.2	59	1.49	密集	ナ5,RF2,F50,石核2	黒,チ	炭化物集中
118	慶應義塾藤沢校地内	L1H	Ⅱ	12308	11	3.6×3.0	3	0.28	粗	F3	黒3	炭化物集中
118	慶應義塾藤沢校地内	L1H	Ⅱ	12308	12	8.6×6.8	120	2.05	密集	ナ2,RF3,F112,石核3	黒,凝,チ,珪頁	炭化物集中
118	慶應義塾藤沢校地内	L1H	Ⅱ	12308	1	3.4×2.6	10	1.13	やや密集	槍1,F9	黒,珪頁	第1礫集中部と近接　炭化物集中
118	慶應義塾藤沢校地内	L1H	Ⅱ	12308	2	2.8×2.6	4	0.55	粗	F3,石核1	珪頁3,チ1	炭化物集中
118	慶應義塾藤沢校地内	L1H	Ⅱ	12308	3	3.2×2.5	4	0.55	粗	F4	黒,珪頁	炭化物集中

L1S～L1H 層の遺物分布（その２－９）

遺跡№	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積(㎡)	各集中№	分布範囲(m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	備考（共伴する遺構・など）
118	慶應義塾藤沢校地内	L1H	Ⅱ	12308	4	2.6×2.6	3	0.44	粗	F3	チ、珪頁	第3礫集中部と近接炭化物集中
118	慶應義塾藤沢校地内	L1H	Ⅱ	12308	5	3.6×3.4	12	0.98	やや散漫	F11、石核1	珪頁、チ、凝頁、黒	第3礫集中部と近接炭化物集中
120	川尻	L1HM	Ⅲ	1080	1	11.0×11.0	4	0.03	点在	槍4、UF2、RF1	チ1、黒4、珪頁1、硬砂1	集中無し　礫群1
121	風間	B0	Ⅰa	1100	1	9.4×6.2	91	1.56	散漫	槍14、掻・削4、RF2、UF2、F65、叩3、他1	チ61、珪泥14、ホ9、安1、粘2、砂3、他1	
121	風間	B0	Ⅰa	1100	2	4.8×3.0	14	0.97	散漫	槍1、UF2、F11	チ10、ホ2、黒1、粘1	
121	風間	B0	Ⅰa	1100	3	10.0×8.4	36	0.43	散漫	槍６、掻・削３、RF1、UF1、F24、他1	チ17、珪泥1、凝1、黒9、安2、ホ5、他1	
121	風間	B0	Ⅰa	1100	4	4.2×2.4	11	1.09	散漫	槍１、掻・削３、RF2、UF1、F4	チ7、ホ1、凝2、砂1	
121	風間	B0	Ⅰb	1100	1	3.6×2.1	27	3.57	散漫	ＭＢ１、掻・削１、礫１、叩１０、磨2、RF1、UF1、他1	珪泥1、凝2、ホ2、粘1、チ3、黒6、砂11	礫群①4.2×2.9m 礫59（磨石・叩石片含む）
121	風間	B0	Ⅰb	1100	2	3.1×2.0	67	10.81	やや集中	ナ1、MB9、楔1、叩7、核1、RF1、UF2、F41、他4	凝2、ホ1、黒49、砂11、他4	礫群②4.2×2.4m　礫48（石核・叩石含む）
121	風間	B0	Ⅰb	1100	3	12.0×10.7	215	1.67	中央集中	槍6、MB8、MC1、楔４、掻・削12、礫５、叩１、磨5、RF7、UF23、F116、核12、台10、他5	珪泥6、泥1、凝27、ホ12、安1、チ75、黒52、砂21、花崗15、他5	礫群③12.2×8.5m 礫89（剥片、石核、礫器、磨石、台石転用含む）
125	宮ヶ瀬大野原	B0	Ⅱ	500	1	6.0×5.0	42	1.40	散漫	礫１、ＲＦ２、UF33、F5、台1	凝41、ホ1	配石
126	宮ヶ瀬中原	L1S	Ⅰ	8900	－	80.0	2	－	点在	削1、礫1	黒1、凝	
126	宮ヶ瀬中原	B0	Ⅱ	8900	1	4.5×1.8	19	2.30	散漫	礫3、叩2、F12、核2	凝15、安3、石英閃緑岩1	
127	宮ヶ瀬上原	B0	Ⅱ	6300	－	14.0	2	－	点在	礫2	凝1、斑1	
127	宮ヶ瀬上原	L1HL	Ⅳ	6300	1	3.2×1.2	246	64.10	中央密集	槍4、F3、C239	黒245、凝1	
127	宮ヶ瀬上原	L1HL	Ⅳ	6300	2	4.0×3.3	385	29.20	密集	槍2、RF1、F67、C311、核4	黒１５４、ガ安217、凝14	
127	宮ヶ瀬上原	L1HL	Ⅳ	6300	3	3.2×2.0	16	2.50	散漫	F9、C7	黒14、ガ安2	
128	宮ヶ瀬サザランケ	L1S	Ⅰ	5900	－	70.0×40.0	11	－	－	削1、礫7、叩1、F2	凝7、斑2、安1、ホ1	
128	宮ヶ瀬サザランケ	B0	Ⅱa	5900	－	65.0×40.0	7	－	点在	礫4、叩2、F1	凝4、安2、黒頁1	
128	宮ヶ瀬サザランケ	B0	Ⅱb	5900	1	5.0×4.0	221	11.10	密集	MB67、MC10、削2、UF12、叩2、他	黒219、頁1、砂1	
128	宮ヶ瀬サザランケ	B0	Ⅱb	5900	2	3.0×2.0	9	1.50	散漫	MC2、叩1、礫1、F２、黒曜石原材1、他	黒7、砂1、凝1	
128	宮ヶ瀬サザランケ	L1HM	Ⅲ	5900	1	6.0×4.0	1453	60.50	密集	槍２０、ＲＦ１、ＵＦ２、Ｆ３５４、C1076	ガ安1178、凝272、黒3	
128	宮ヶ瀬サザランケ	L1HM	Ⅲ	5900	2	3.5×3.0	728	69.30	－	槍１２、礫１、台1、RF2、F160、C552	ガ安726、凝1、安1	分布状況は3所に細分可　礫群
128	宮ヶ瀬サザランケ	L1HM	Ⅲ	5900	3	2.6×2.3	155	25.90	炉址中心集中	槍8、削4、UF2、F28、C112、磨痕礫1	ガ安148、流1、砂1	石囲炉、配石
128	宮ヶ瀬サザランケ	L1HM	Ⅲ	5900	4	3.3×1.6	483	91.50	密集	槍6、叩1、RF1、F136、C339	ガ安297、凝頁175、黒10、安1	石囲炉
128	宮ヶ瀬サザランケ	L1HL	Ⅳ	5900	1	2.2×1.0	23	10.50	散漫	槍2、削1、叩2、UF3、F8、C7	黒16、ガ安2、凝3、斑2	

L1S ～ L1H 層の遺物分布（その２－ 10）

遺跡No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積(㎡)	各集中No.	分布範囲(m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	備考（共伴する遺構・など）
128	宮ヶ瀬サザランケ	L1HL	Ⅳ	5900	2	3.0×1.8	155	28.70	やや密集	槍4、UF3、F48、C100	ガ安95、凝48、黒4、斑5、頁3	
128	宮ヶ瀬サザランケ	L1HL	Ⅳ	5900	3	2.7×1.6	441	102.10	密集	槍5、彫1、叩2、RF3、UF1、F43、C381、核5	黒２３４、ガ安184、頁15、凝7、斑1	
129	宮ヶ瀬北原No.10・11北	L1S	－	3900	1	8.8×5.0	510	11.60	中央密集	槍17、掻5、削4、錐1、礫1、叩4、RF2、UF7、核3、他	凝２８７、ガ安118、黒87、硬頁7、チ5、ホ3、他	礫群
129	宮ヶ瀬北原No.10・11北	L1S	－	3900	2	5.0×3.5	102	5.80	やや密集	槍8、掻2、礫1、磨4、RF2、UF4、他	ガ安79、凝16、黒3、他	礫群
129	宮ヶ瀬北原No.10・11北	L1S	－	3900	3	5.0×4.0	180	9.00	密集	槍5、掻1、F･C174	ガ安１６６、黒10、凝3、輝1	礫群　無文13
129	宮ヶ瀬北原No.10・11北	L1S	－	3900	4	4.0×2.5	96	9.60	やや密集	槍2、F･C94	ガ安93、黒2、輝1	礫群
130	宮ヶ瀬馬場No.6	L1S	－	8000	－	80.0×10.0	3	－	点在	礫3	凝3	
131	宮ヶ瀬馬場No.6	L1SM	－	700	1	1.8×1.8	11	3.40	散漫	RF1、RP1、F8、核1	凝10、粘1	
131	宮ヶ瀬馬場No.6	L1SM	－	700	2	1.4	2	－	点在	打斧1、叩1	凝2	
131	宮ヶ瀬馬場No.6	L1SM	－	700	3	1.0×0.3	6	20.00	直線状に分布	叩4、礫器素材2	凝6	
131	宮ヶ瀬馬場No.6	L1SM	－	700	4	6.0×3.2	111	5.80	密集	槍5、掻1、F72、C32、礫1、叩1、礫器素材2	ガ安94、凝15、粘1、黒1	
131	宮ヶ瀬馬場No.6	L1SM	－	700	5	2.0×1.2	7	2.90	散漫	槍1、F4、C1、礫器素材1	凝5、ガ安2	
131	宮ヶ瀬馬場No.6	L1SM	－	700	6	3.2×2.0	20	3.10	散漫	槍1、F14、叩3、磨2	凝15、ガ安3、粘2	
131	宮ヶ瀬馬場No.6	L1SM	－	700	7	2.0×2.0	26	6.50	散漫	槍1、削1、礫1、RF1、叩2、F20	凝23、ガ安2、粘1	
132	宮ヶ瀬南	L1SM	－	11700	1	6.0×3.0	5	0.30	散漫	槍1、F1、叩1、礫器素材2	凝4、ガ安1	
132	宮ヶ瀬南	L1SM	－	11700	2	5.0×5.0	147	5.90	密集	槍2、掻1、UF1、F141、C2	粘１２１、ガ安25、凝1	
132	宮ヶ瀬南	L1SM	－	11700	3	0.4×0.2	3	37.50	集積	叩3	凝3	
132	宮ヶ瀬南	L1SM	－	11700	4	5.0×3.0	10	0.70	散漫	礫1、台1、F8	凝7、ガ安3	
132	宮ヶ瀬南	L1SM	－	11700	5	2.0	2	－	点在	F2	凝2	
144	東大竹・山王塚	L1S～B0	旧	150	1	7.7×6.0	－	－	密集	槍1、槍未1、槍調整F1	不明	
144	東大竹・山王塚	L1S～B0	旧	150	2	5.0×3.0	－	－	散漫	槍未2	不明	
154	谷津山神	B0	旧	180	1	7.0×8.0	88	1.57	密集	礫8、磨2、礫刃調整F11、樋F1、調整F49、F17	凝87、安1	
154	谷津山神	B0	旧	180	2	3.5×2.0	7	1.00	散漫	礫4、礫調整F3	凝7	
163	上粕屋・川上(第一東海No. 5)	B0	旧	99	1	11.0×9.0	353	3.57	密集	MB56、MC6、MC原形1、ＭＣ打再F4、MC調整F9、削2、UF18、刃3、F・C254	黒１８４、ガ流91、ガ安23、珪頁22、凝14、ホ7、硬頁4、頁4、チ3、斑1	
164	上粕屋・三本松(第一東海No. 7)	B0	旧	73	1	4.6×3.5	17	1.06	散漫	ＭＣ３、ＭＣ打再F1、MC調整F2、RF2、UF1、F8	黒16、チ1	

L1S ～ L1H 層の遺物分布（その２－11）

遺跡No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積(㎡)	各集中No.	分布範囲(m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	備考（共伴する遺構・など）
165	上粕屋・上尾崎(第一東海No.10)	B0	Ⅱ	50	1	5.0×10.0	10	0.20	散漫	MB1、礫3、RF3、MC調整F2、F1	黒6、凝2、ホ2	
165	上粕屋・上尾崎(第一東海No.10)	L1HL	Ⅲ	150	1	10.0×15.0	23	0.15	散漫	槍2、槍調整F2、打再F1、刃5、F4、C9	黒23	
166	三ノ宮・下谷戸（第一東海No.14）	FB	Ⅰ	6420	1	35.2×14.0	53696	108.96	密集	台16、F52714、有343、槍未1、鏃9、槍59、楔12、削5、礫13、RF295、UF82、核36、叩15、掻10、錐3、C1、調整F3、打斧2	凝818、安31、細安2、ガ安52311、閃44、斑10、輝18、ガ流6、石1、碧20、流2、黒40、砂15、硬砂7、頁30、チ48、珪頁26、ホ250、硬頁12、結1、泥1、粘3	土坑1、礫群9　無文58
166	三ノ宮・下谷戸（第一東海No.14）	FB	Ⅰ	6420	2	51.0×10.0	209	0.41	散漫	台4、F162、槍1、楔1、核6、叩10、有1、掻2、礫5、RF8、UF1、鏃7、局磨1	凝11、ガ安142、泥1、粘1、砂11、ホ8、チ26、硬砂3、雲2、黒3、頁1	無文92
166	三ノ宮・下谷戸（第一東海No.14）	B0	Ⅲ	6420	1	40.0×19.0	3977	5.23	密集	F2732、MB818、楔16、削7、錐2、RF110、彫1、UF47、核52、台10、叩7、凹1、礫8、MC34、調整F132	凝287、安12、細安2、ガ安1259、閃22、斑110、輝4、ガ流7、碧2、黒2183、砂1、硬頁17、珪頁14、チ17、ホ40	礫群1
166	三ノ宮・下谷戸（第一東海No.14）	B0	Ⅲ	6420	2	51.0×15.0	33	0.04	散漫	MB7、MC1、調整F1、UF2、F21、掻1	黒32、チ1	
171	原口	漸	縄	59390	1	38.0×28.0	－	－	密集	槍、有、槍未他	ガ安、黒他	隆起線文
171	原口	漸	縄	59390	2	130.0×60.0	－	－	散漫	槍、有、槍未他	ガ安、黒他	隆起線文、爪形文、刺突文、多縄文系
171	原口	漸	縄	59390	3	5.0×1.0	－	－	散漫	槍	ガ安	
171	原口	漸	縄	59390	4	10.0×6.0	－	－	散漫	槍、F	ガ安、黒	
183	月見野ⅢA（相模野No.151）	L1H	－	156	a	7.0×9.0	約531	8.43	密集	ナ1、槍11、石刃11、掻1、彫1、核6、F・C約500	不明	大和市史7　508～510頁の記載に基づく
185	高座渋谷団地内	L1SL	Ⅰ	820	1	5.5×3.8	4	0.19	散漫	F4	凝、黒、安	礫群1
185	高座渋谷団地内	L1HM	Ⅲ	1520	1	4.6×2.0	7	0.76	散在	槍1、彫1、UF1、F3、核1	黒、凝、チャ、頁、ホ	礫群1
185	高座渋谷団地内	L1HM	Ⅲ	1520	2	7.0	2	－	点在	F2	チャ	
216	下森鹿島	L1S	Ⅰ	5900	1	5.2×4.9	22	0.86	－	掻・削2、礫1、UF1、F16、核2	黒8、チ2、砂2、安6、玄1、泥3	
216	下森鹿島	L1S	Ⅰ	5900	2	11.2×6.9	35	0.45	－	槍2、掻・削2、RF3、UF1、F25、核2	黒1、チ2、凝1、安11、泥20	
216	下森鹿島	L1S	Ⅰ	5900	3	11.0×10.3	22	0.19	－	掻・削2、礫2、UF1、F15、核2	チ2、砂1、安4、泥15	
216	下森鹿島	L1S	Ⅰ	5900	4	3.8×1.5	13	2.28	－	F12、核1	凝7、安1、泥5	
216	下森鹿島	L1S	Ⅰ	5900	5	9.0×1.5	8	0.59	散漫	掻・削1、UF1、F6	黒1、安5、泥2	
216	下森鹿島	L1S	Ⅰ	5900	6	2.5×2.0	7	1.40	－	礫1、RF1、F4、叩1	黒2、砂2、泥1、他2	

L1S ～ L1H 層の遺物分布（その２－ 12）

遺跡No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積(㎡)	各集中No.	分布範囲(m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	備考（共伴する遺構・など）
216	下森鹿島	L1S	I	5900	7	2.2×1.0	6	2.73	散漫	礫1、F3、核1、叩1	砂1、安2、泥1、他2	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	8	5.4×3.7	75	3.75	やや集中	RF3、UF3、F64、核4、叩1	チ1、凝3、砂3、安22、泥44、他2	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	9	7.8×4.4	65	1.89	－	槍1、掻・削1、礫1、楔2、RF5、UF1、F49、核5	黒4、チ6、凝13、砂2、安14、泥26	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	10	5.1×2.5	7	0.55	散漫	RF1、F4、核2	安1、泥5、他1	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	11	11.0×10.8	90	0.76	やや散漫	掻・削4、礫1、楔1、RF8、UF1、F64、核7、叩2、台2	黒1、チ3、凝11、砂4、安22、泥45、他4	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	12	5.4×3.7	93	4.65	密度濃い	掻・削4、礫1、RF5、UF2、F75、核4、叩1	凝14、砂4、安6、玄1、泥64、他4	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	13	4.7×1.0	21	4.47	やや集中	F20、核1	安5、玄1、泥14、他1	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	14	5.2×3.0	30	1.92	－	掻・削2、UF1、F20、核5、叩1、他1	チ1、凝1、砂2、安7、泥17、他21	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	15	3.7×2.6	8	0.83	散漫	掻・削1、RF1、F5、核1	凝2、砂1、安2、泥3	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	16	9.8×4.9	14	0.29	散漫	掻・削2、RF1、F8、核1、礫1、台1	砂1、安6、泥7	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	17	1.4×0.8	5	4.46	－	F3、核2	チ1、凝1、砂1、安1、泥1	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	18	11.5×7.8	29	0.32	散漫	槍1、掻・削2、RF3、UF1、F16、核5、叩1	黒1、チ2、凝1、砂5、安5、玄1、泥14	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	19	9.2×8.7	46	0.57	散漫	掻・削1、RF7、UF1、F26、核6、礫2、叩2、楔1	黒1、チ2、凝8、砂4、安6、泥24、他1	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	20	3.3×1.9	13	2.07	－	掻・削1、F11、核1	凝4、砂1、泥8	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	21	6.0×1.8	12	1.11	－	槍1、掻・削2、RF1、F6、核2	チ1、凝1、砂1、安3、泥6	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	22	1.5×0.7	9	8.57	－	RF1、F7、核1	泥9	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	23	7.4×3.3	22	0.90	やや散漫	掻・削3、楔1、RF3、UF2、F13	黒3、チ5、凝1、安3、泥9、他1	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	24	2.2×0.4	5	5.68	－	掻・削1、UF1、F3	安3、泥2	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	25	5.6×2.8	11	0.70	やや散漫	掻・削1、UF2、F8	チ1、凝4、安5、玄1	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	26	15.0×9.9	28	0.19	散漫	槍1、掻・削7、RF1、UF1、F15、核2、礫1	黒8、チ1、凝3、安6、泥10	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	27	11.3×6.8	11	0.14	散漫	掻・削1、RF1、UF1、F5、核3	凝1、安2、玄1、泥7	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	28	1.3×0.5	8	12.31	－	F8	泥8	
216	下森鹿島	L1S	I	5900	29	10.4×7.0	12	0.16	散漫	掻・削1、RF2、F8、核1	黒1、チ2、安2、泥7	
219	藤沢市No.419	L1S	草	1864	1	4.6×1.4	11	1.71	散漫	槍2,削1,F6,C2	不明	
219	藤沢市No.419	L1H～B1U	I	124	1	7.6×3.6	35	1.28	やや散漫	槍2、ナ2、ｽｸ5、RF1、UF2、F14、C8、石核1	黒、他	
219	藤沢市No.419第１地点	L1S	草	193	1	4.8×1.0	10	2.08	散漫	槍2,削1,F5,C2	凝5,ホ5	土坑2基が近接

L1S ～ L1H 層の遺物分布（その２－ 13）

遺跡No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積(㎡)	各集中No.	分布範囲(m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	備考（共伴する遺構・など）
219	藤沢市No.419第１地点	L1S～B1	Ⅰ	128	1	7.3×4.5	35	1.07	やや散漫	槍1、ナ3、ｽｸ4、RF1、UF3、F14、C8、石核1	黒29、凝2、珪質凝2、安2	
219	藤沢市No.419第５地点	L1HL	Ⅰ	26.5	1	0.15×0.1	2	133.33	密集	ｽｸ1、F1	黒2	
243	本入こざっ原	Ⅵ～Ⅷ(漸)	Ⅰ	6600	－	33.0×33.0	(19)	(0.02)	散漫	ナ1、槍1、有2、掻4、削2、楔1、F7、UC1	黒11、瑪1、硬細凝2、ガ黒安1、チ3、碧1	
243	本入こざっ原	L1S～B0	Ⅱ	324	－	8.2×6.5	123	2.31	密集	MC2、MB24、ナ1、削1、楔1、UF3、F7、UC2、C77、叩1、加工痕有礫4、打撃痕有礫3	黒、115、中粒凝6、砂2、ガ黒安1、斑1、細粒安1	礫集中と重複　器種・石材組成は一部石器集中外の資料を含む
325	月見野上野第５地点	FB	Ⅰ	790	1	－	2	－	疎	有舌1、F1	安1、凝1	
325	月見野上野第５地点	B0	Ⅱ	790	1	7.4×5.4	29	0.73	散漫	槍1、楔1、核4、MC1、F16、C6	安、黒	第1号礫群
325	月見野上野第５地点	L1HU	Ⅲ	790	1	10.6×3.2	404	11.91	求心的傾向	槍4、磨石1、礫1、核4、UF6、RF19、F170、C199	不明	第2号礫群　4･8Bと接合資料　1～5･7～10BでⅠ群を構成 ※3
325	月見野上野第５地点	L1HU	Ⅲ	790	2	8.0×5.0	195	4.88	求心的傾向	ナ1、槍4、礫2、核1、UF2、RF9、F70、C109	不明	3･4･5･7Bと接合資料 1～5･7～10BでⅠ群を構成
325	月見野上野第５地点	L1HU	Ⅲ	790	3	6.0×5.2	137	4.39	やや集中	槍4、叩1、磨石1、核4、UF3、RF8、F80、C36	不明	第６号礫群　2Bと接合資料　上野6地点Ⅰ5･10Bと接合資料　1～5･7～10BでⅠ群を構成
325	月見野上野第５地点	L1HU	Ⅲ	790	4	6.8×4.8	50	1.53	求心的傾向	槍3、磨石2、礫1、RF2、F37、C5	不明	第4号礫群　1･2Bと接合資料　上野6地点Ⅰ5Bと接合資料　1～5･7～10BでⅠ群を構成
325	月見野上野第５地点	L1HU	Ⅲ	790	5	6.6×4.5	166	5.59	求心的傾向	ナ1、槍9、UF1、RF13、F32、C109	不明	1号礫群　1･2Bと接合資料　第1～5･7～10BでⅠ群を構成
325	月見野上野第５地点	L1HU	Ⅲ	790	6	9.2×6.0	15	0.27	散漫	核2、F11、C2	不明	第7･8号礫群　6･11BでⅡ群を構成
325	月見野上野第５地点	L1HU	Ⅲ	790	7	4.2×3.4	37	2.59	求心的傾向	ナ1、UF1、RF1、F17、C17	不明	2Bと接合資料　1～5･7～10BでⅠ群を構成
325	月見野上野第５地点	L1HU	Ⅲ	790	8	3.2×1.6	7	1.37	やや散漫	ス1、F5、C1	不明	1Bと接合資料　1～5･7～10BでⅠ群を構成
325	月見野上野第５地点	L1HU	Ⅲ	790	9	3.4×2.4	9	1.10	散在	F9	不明	第1～5･7～10BでⅠ群を構成
325	月見野上野第５地点	L1HU	Ⅲ	790	10	5.6×2.0	6	0.54	散漫	F5、C1	不明	第3号礫群　1～5･7～10BでⅠ群を構成
325	月見野上野第５地点	L1HU	Ⅲ	790	11	2.7×0.8	3	1.39	点在	F3	不明	6･11BでⅡ群を構成
326	月見野上野第６地点	L1HU～M	Ⅰ	859	1	7.1×3.2	378	16.64	密集	槍4、核1、MB2、UF5、RF14、F168、C184	安59、粘2、黒114、チ17、頁181、凝4、玄1	第10号礫群　3･4Bと接合資料
326	月見野上野第６地点	L1HU～M	Ⅰ	859	2	7.6×5.0	72	1.89	散在	ナ1、槍1、核1、UF3、F57、C9	安54、粘3、黒4、チ2、砂3、凝6	第3･8号礫群
326	月見野上野第６地点	L1HU～M	Ⅰ	859	3	5.4×4.0	220	10.19	－	槍2、礫1、MB1、UF1、RF1、F143、C71	安206、粘1、黒6、砂2、頁2、凝1、玄2	第3･5号礫群　1･7Bと接合資料
326	月見野上野第６地点	L1HU～M	Ⅰ	859	4	6.6×4.7	52	1.68	散漫	槍3、核1、UF2、RF4、F36、C6	安27、黒8、チ8、頁4、凝3、流2	1Bと接合資料

L1S ～ L1H 層の遺物分布（その２－ 14）

遺跡№	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積(㎡)	各集中№	分布範囲(m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	備考（共伴する遺構・など）
326	月見野上野第６地点	L1HU～M	Ⅰ	859	5	5.2×5.0	67	2.58	散漫	槍4、礫2、台1、RF1、F47、C12	安50、黒5、チ2、砂1、頁2、凝6、花1	8Bと接合資料　上野第5地点Ⅲ3･4Bと接合資料
326	月見野上野第６地点	L1HU～M	Ⅰ	859	6	4.7×3.4	29	1.81	－	槍2、礫1、RF1、F20、C5	安25、粘1、凝2、流1	第2号礫群
326	月見野上野第６地点	L1HU～M	Ⅰ	859	7	3.4×2.6	100	11.31	－	槍4、MB2、RF1、F47、C46	安25、黒75	第7号礫群　3Bと接合資料
326	月見野上野第６地点	L1HU～M	Ⅰ	859	8	3.0×2.2	11	1.67	－	槍1、台6、F4	安4、黒1、花6	第5号礫群　5Bと接合資料
326	月見野上野第６地点	L1HU～M	Ⅰ	859	9	2.4×1.1	7	2.65	－	RF1、F4、C2	黒5、凝2	
326	月見野上野第６地点	L1HU～M	Ⅰ	859	10	3.2×1.8	4	0.69	－	槍1、核1、RF2	黒2、チ1、凝1	上野第5地点Ⅲ3Bと接合資料
326	月見野上野第６地点	L1HU～M	Ⅰ	859	11	3.1×1.8	3	0.54	－	F3	安1、粘1、チ1	第4号礫群
326	月見野上野第６地点	L1HU～M	Ⅰ	859	12	0.6×0.2	3	25.00	－	核1、RF2	安1、凝1、花1	第1号礫群
326	月見野上野第６地点	L1HU～M	Ⅰ	859	13	0.6×0.1	3	50.00	－	槍1、F2	安3	第6号礫群と隣接
326	月見野上野第６地点	L1HU～M	Ⅰ	859	14	2.2×1.9	5	1.20	－	UF1、RF1、F2、C1	安1、黒3、頁1	
328	月見野上野第12地点	B0	Ⅰ	957	1	2.3×1.0	5	2.17	－	礫1、RF1、F3	凝3、ホ1、他1	
328	月見野上野第12地点	B0	Ⅰ	957	2	5.7×1.9	23	2.12	－	叩3、核1、MB1、UF1、RF1、F16	砂1、頁11、凝8、ホ1、流2	焼礫小破片散在 4･5Bとの剥片接合例あり
328	月見野上野第12地点	B0	Ⅰ	957	3	3.7×2.5	79	8.54	－	楔1、叩1、核4、RF1、F72	安1、黒2、砂19、頁1、凝11、ホ14、流16、他15	1号礫集中　3･5Bとの剥片接合例あり
328	月見野上野第12地点	B0	Ⅰ	957	4	9.0×9.0	530	6.54	密度高い	ス5、楔1、叩13、打斧1、礫1、核10、MB114、MC16、MB打面再生F2、UF7、RF9、F351	安45、黒190、チ7、砂9、頁112、凝61、ホ61、流28、他17	2号礫集中　3･4Bとの剥片接合例あり
328	月見野上野第12地点	B0	Ⅰ	957	5	3.6×2.9	21	2.01	南部やや密度高い	ス2、叩3、核1、F15	安3、黒3、砂3、頁1、凝3、ホ1、流6、他1	焼礫小破片散在
328	月見野上野第12地点	B0	Ⅰ	957	6	2.3×0.8	9	4.89	－	礫5（同一個体）、核1、F3	凝2、流1、閃6	
328	月見野上野第12地点	L1HU	Ⅱ	957	1	1.5×0.9	6	4.44	－	F6	凝3、ホ2、他1	2Bと共に調査区北側に分布
328	月見野上野第12地点	L1HU	Ⅱ	957	2	4.6×3.2	20	1.36	－	槍3、削1、叩2、UF1、RF3、F10	安6、黒2、砂1、頁1、凝7、ホ2、他1	1･2号礫群　1Bと共に調査区北側に分布
328	月見野上野第12地点	L1HU	Ⅱ	957	3	3.9×2.3	32	3.57	－	叩1、磨石1、礫1、核1、UF2、RF4、F22	多安1、チ7、砂2、頁5、凝15、ホ1、流1	3号礫群　4～6Bと共に調査区中央に分布4Bと磨石接合例あり
328	月見野上野第12地点	L1HU	Ⅱ	957	4	2.7×1.3	18	5.13	－	叩1、磨石1、UF1、F15	多安1、黒1、チ7、砂1、頁2、凝2、ホ4	4号礫群　3･5･6Bと共に調査区中央に分布3Bと磨石接合例あり
328	月見野上野第12地点	L1HU	Ⅱ	957	5	3.2×1.8	35	6.08	－	削1、UF1、RF3、F30	安1、チ26、頁2、凝1、ホ3、流2	5･6号礫群　3･4･6Bと共に調査区中央に分布
328	月見野上野第12地点	L1HU	Ⅱ	957	6	4.0×1.3	13	2.50	－	槍1、削1、RF2、F9	安1、チ5、頁2、凝1、ホ3、流1	3･4･6Bと共に調査区中央に分布
328	月見野上野第12地点	L1HU	Ⅱ	957	7	5.3×2.8	73	4.92	－	槍2、RF1、F70	安1、頁70、ホ2	単独で調査区南側に分布
331	横山５丁目	L1S	Ⅰ	1098	1	4.0×3.4	22	1.62	散漫	ナ2、MB1、RF5、F14	チ、黒頁、点数不明	
335	用田鳥居前	L1S～B0	草	1513	1	3.3×2.3	13	1.71	やや粗い	削1,F12	ホ11,珪頁1,流1	

L1S ～ L1H 層の遺物分布（その２－ 15）

遺跡№	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積(㎡)	各集中№	分布範囲(m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	備考（共伴する遺構・など）
335	用田鳥居前	L1S～B0	草	1513	2	9.0×9.0	173	2.14	密集	槍8,両面調整石器1,MC1,MB3,掻1,削1,F145,C12,不明1	ホ５０、ガ黒安38、軟細凝30、硬細凝15、珪頁15、硬頁9、黒頁8、黒3、頁2、不明3	
335	用田鳥居前	L1S～L1H	Ⅰ	1513	1	9.0×8.0	195	2.71	密集	MC1、MB63、F57、C73、不明1	黒193、ガ黒安1、珪質岩1	
335	用田鳥居前	L1S～L1H	Ⅰ	1513	2	9.0×6.0	277	5.13	密集	MC3、MB121、F75、C76、礫器1、不明1	黒263、硬細凝13、ホ1	
335	用田鳥居前	L1S～L1H	Ⅰ	1513	3	13.0×7.0	18	0.20	散漫	MB1、F12、C3	黒8、細粒安5、角閃2、ホ1	
336	葛原滝谷	Ⅵc～Ⅶ(漸)	草	8620	1	6.5×3.0	22	1.13	散漫	槍1、削2、F17	硬細凝10、ガ黒安10	
336	葛原滝谷	L1S～L1H	Ⅰ	1045	1	4.0×4.0	33	2.06	散漫	削1、RF1、UF2、F12、C17	黒31、硬細凝1、玉1	
339	用田大河内	L1S～L1H	Ⅰ	1144	1	4.6×3.5	62	3.85	密集	MB10、削1、F35、C12、礫器2、石核2	黒24、中粒凝17、硬細凝20、珪頁1	
340	用田南原	L1H	Ⅱ	1194	1	8.4×5.0	787	18.74	密集	槍31,F596,C160	ガ黒安785、細粒安1、細粒凝(玄)1	第3石器集中地点と接合
340	用田南原	L1H	Ⅱ	1194	2	3.5×2.4	15	1.79	散漫	槍1,F12,C2	ガ黒安8,中粒凝5,粗粒凝1,砂1	第3石器集中地点と接合
340	用田南原	L1H	Ⅱ	1194	3	6.4×5.2	457	13.73	密集	槍16,F328,C109,叩2,台1,不明1	ガ黒安446、中粒凝4、粘2、黒1、安1、細粒玄1、ﾃﾞｲｻｲﾄ1、閃緑1	第3炭化物集中地点と重複、第1・2・4石器集中地点と接合
340	用田南原	L1H	Ⅱ	1194	4	9.6×8.8	2468	29.21	密集	槍33、彫1、F1679、C739、礫器1、叩2、小礫13	ガ黒安2436、黒7、中粒凝13、砂3、硬頁1、頁1、富士玄1、硬細凝1、細粒凝1、粗粒凝1、閃緑1、細粒安1、ホ1	第3・4石器集中地点と接合
340	用田南原	L1H	Ⅱ	1194	5	5.7×5.6	689	21.59	密集	槍14、削1、F449、C220、小礫5	ガ黒安680、細粒凝3、黒2、硬細凝1、中粒凝1、硬頁1、角閃1	第4炭化物集中地点と一部重複　第4石器集中地点と接合
340	用田南原	L1H	Ⅱ	1194	6	3.8×2.8	37	3.48	やや散漫	槍2,F23,C11,小礫1	ガ黒安34、黒1、細粒凝1、不明1	第5炭化物集中地点と一部重複
341	遠藤山崎	Ⅲc～Ⅳ(漸)	草	4600	1	25.0×19.0	576	1.21	やや密集	槍21、有5、錐6、ｽｸ33、楔33、彫1、打斧3、礫器11、叩8、凹4、磨8、RF23、UF14、凝灰岩剥片類302、安山岩剥片類51、剥片類41、石核6	凝413、安76、ホ26、頁20、閃緑18、チ13、砂4、黒2、礫岩1、他3	細隆起線文を主体に109点の土器が共伴
341	遠藤山崎	Ⅲc～Ⅳ(漸)	草	4600	2	18.6×7.8	31	0.21	散漫	有1、ｽｸ2、楔4、礫器2、叩1、台1、F（凝灰岩）8、F(安山岩)1、F11	凝、安	無文部土器破片1点が共伴
341	遠藤山崎	Ⅲc～Ⅳ(漸)	草	4600	3	22.0×13.2	49	0.17	散漫	槍1、ｽｸ1、礫器5、叩2、磨1、F（凝灰岩）24、F(安山岩)3、F9、石核3	凝、安	
348	神明若宮地区内	L1HU	Ⅰ	706	1	2.2×1.2	8	3.03	散在	槍未3、UF1、F4	凝、ホ	

L1S ～ L1H 層の遺物分布（その２－ 16）

遺跡№	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積(㎡)	各集中№	分布範囲(m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	備考（共伴する遺構・など）
352	上土棚南第３次	L1HM	1	2666	1	10.0×3.0	17	0.57	密集	ナ、核、F	不明	
352	上土棚南第３次	L1HM	1	2666	2	6.0×2.0	11	0.92	散漫	楔,叩,F	不明	
352	上土棚南第３次	L1HM	1	2666	3	6.0×6.0	37	1.03	密集	槍,ナ,削,RF,UF,F	不明	
352	上土棚南第３次	L1HM	1	2666	4	11.0×6.0	71	1.08	密集	ナ,削,RF,磨、台、核,F	不明	
352	上土棚南第３次	L1HM	1	2666	5	7.0×7.0	50	1.02	密集	槍,ナ,F	不明	
354	下鶴間城山	L1SU～M	Ⅰ	22	1	1.1×0.3	3	9.09	－	槍2、F1	安3	第1号礫群
355	深見山王塚	L1S～B0	－	74	－	2.4×1.0	7	2.92	－	RF1、F6	玄74	B0以下未調査、帰属文化層特定不可
356	大和市№202第１（月見野第Ⅲ）	L1HU	Ⅰ	172	1	1.5×0.8	3	2.50	－	槍1,核1,F1	ガ安1,凝1,硬頁1	なし
357	下溝上谷開戸	B0U	Ⅱ	759	1	5.4×3.6	44	－	求心	MC1、礫2、叩1、RF2、F33、C3	チ、安、凝、粘、黒、ホ、砂、点数不明	第3号礫群内在
357	下溝上谷開戸	B0U	Ⅱ	759	2	3.1×2.4	47	6.32	散漫	MB4、MC2、掻・削4、礫2、RF2、UF4、F26、C5	チ、黒、凝、点数不明	第2号礫群重複（図から）
357	下溝上谷開戸	B0U	Ⅱ	759	3	3.4×2.3	49	6.27	求心	MB2、F46、C1	チ、ホ、黒、点数不明	第1号礫群重複
357	下溝上谷開戸	B0	Ⅱ	759	4	2.8×2.3	29	4.50	散漫	F26、C3	ホ、点数不明	第1号礫群重複
357	下溝上谷開戸	B0	Ⅱ	759	5	2.1×2.1	19	4.31	散漫	ＭＣ２、ＲＦ２、UF1、F12、C2	チ、凝、安、点数不明	
357	下溝上谷開戸	L1SU	Ⅱ	759	6	1.0	2	－	点在	MB1、F1	粘1、黒1	
357	下溝上谷開戸	B0U	Ⅱ	759	7	1.0	2	－	点在	F2	ホ2?	
357	下溝上谷開戸	Ⅵ	Ⅱ	759	8	2.0	2	－	点在	F2	チ1、黒1	
358	万福寺１	3L～5U	草	4500	草早集中	16.0×5.0	3228	40.35	集中	有12、槍3、錐3、ス16、調F38、石核4、不明剥片石器3、打斧8、礫4、磨12、敲1、F1565	砂２２８、細砂31、硬砂27、頁621、黒頁646、チ525、凝72、シ23、泥11、斑2、安6、石英閃31、閃1、その他43	被熱痕のある分割礫5 隆647、多縄文33、撚糸２０３、沈線２、条痕76、不明40
358	万福寺２	3L～5U	草	5500	集中	8.0×8.0	719	11.23	集中	有9、槍2、錐2、ス3、調F10、打斧4、礫2、棒状礫3、F338	硬砂34、砂35、頁１６２、黒頁106、チ103、凝51、その他25	礫146　隆194

※１　器種組成（ナ：ナイフ形石器・槍：槍先形尖頭器・掻：掻器・削：削器・彫：彫器・楔：楔形石器・叩：叩石・打斧：打製石斧・磨斧：磨製石斧・台：台石・核：石核・刃：刃器・MB: 細石刃・MC: 細石刃核・UF: 使用痕ある剥片・RF: 調整痕ある剥片）

※２　石　　材（ガ安：ガラス質黒色安山岩・安：安山岩・角閃安：角閃石安山岩・粘：粘板岩・黒：黒耀石・チ：チャート・砂：砂岩・頁：頁岩・凝頁：凝灰質頁岩・凝：凝灰岩・硬細凝：硬質細粒凝灰岩・珪凝：珪質凝灰岩・火礫凝：火山礫凝灰岩・溶結凝：溶結凝灰岩・石閃：石英閃緑岩・花閃：花崗閃緑岩・泥：泥岩・ホ：ホルンフェルス・珪泥：珪質泥岩・硬砂：硬質砂岩・斑：斑糲岩）

※３　Ｂは石器ブロックを示す

神奈川における縄文時代文化の変遷Ⅶ

―後期初頭期　称名寺式土器文化期の様相　その４　文化的様相(2)―

縄文時代研究プロジェクトチーム

Ⅰ．はじめに

今回の検討は、平成17年度から開始した後期初頭期・称名寺式土器文化期の様相をめぐる研究の４年次目にあたる。これまでに「主要遺跡の集成・一括出土事例」の検討を行い、「称名寺式土器編年試案」を提示し、竪穴住居址・柄鏡形（敷石）住居址の分析、住居址以外の遺構・貝塚、土製品、骨角製品といった土器以外の遺物等、称名寺式土器文化期の個別遺構・遺物についての分析・検討を行ってきた。平成20年度は、これまでの研究に引き続き、集落の様相・分布、昨年度検討を見送った「屋外埋設土器」、「石器」・「石製品」に関する検討を行った。その結果、どのような傾向が把握できるのか、以下各項目にしたがってその内容について提示していきたい。

（岡　稔）

Ⅱ．集落

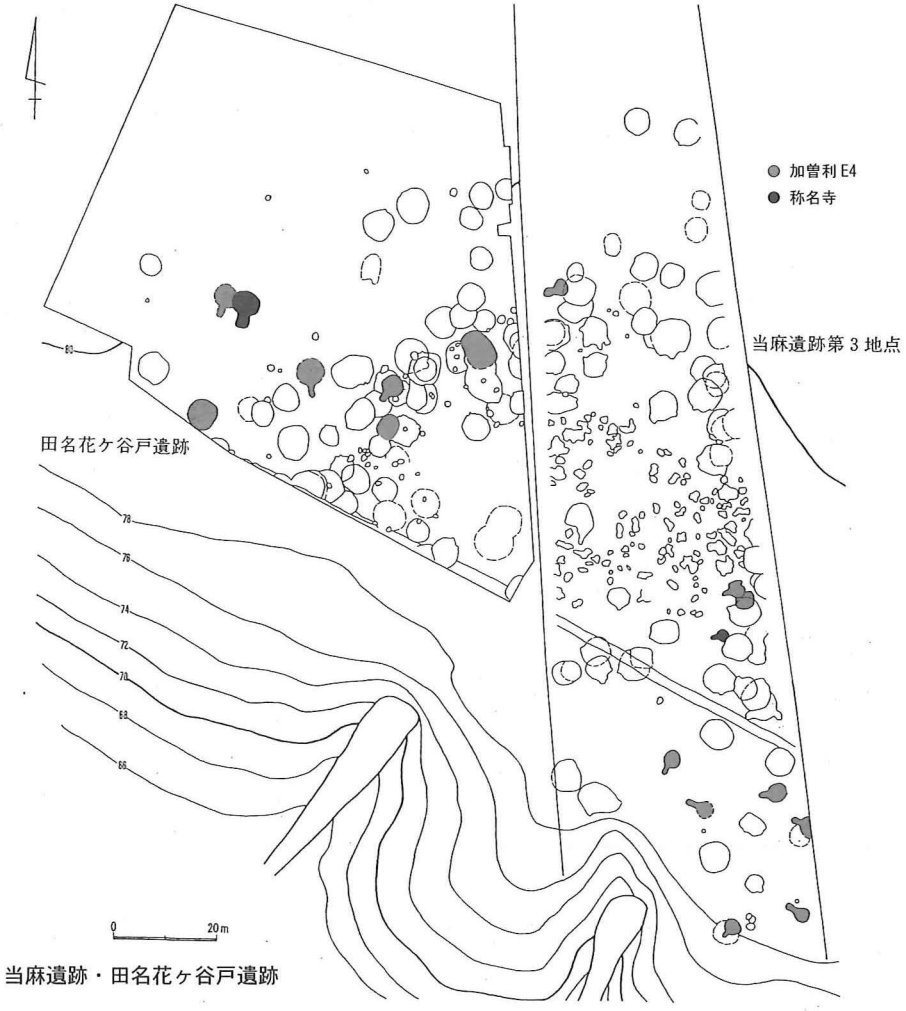
後期初頭の遺構が確認されている遺跡の中で、住居址が存在するのは23遺跡ほどである。該期の集落は大きく、中期後葉から連続する集落、後期初頭単独集落、後期前葉へ連続する集落に分けることができる。それぞれの代表的な遺跡を概観し、該期集落の特徴についてみてみたい。

中期後葉から連続する集落

山北町尾崎遺跡、相模原市当麻遺跡・田名花ヶ谷戸遺跡、平塚市原口遺跡、横浜市保土ヶ谷区帷子峯遺跡・青葉区松風台遺跡・青葉区稲ヶ原遺跡などがある。尾崎遺跡は集落の半分程度を調査した結果、中央に空白地をもち、弧状に並ぶ中期（勝坂式期・加曽利Ｅ・曽利式期）から後期（称名寺式期）の住居址35軒が検出された（第１図上）。全体としては中央に広場をもつ径約50mの環状集落をなす可能性がある。住居址は、その配置から、東群・西群・北群に分けることができる。曽利Ⅲ・Ⅳ式・加曽利Ｅ３式期には東西両群に住居址が存在し、曽利Ⅴ式・加曽利Ｅ４式期には東群・西群・北群に住居址が、西群・北群に敷石住居址（第一・三配石群）が展開していた（岡本1977）。称名寺式期には住居址数が激減し、三群構成は崩れ、東群にのみ、敷石住居址１軒を含む第二配石群が存在した。第二配石は称名寺式土器中段階が出土している。

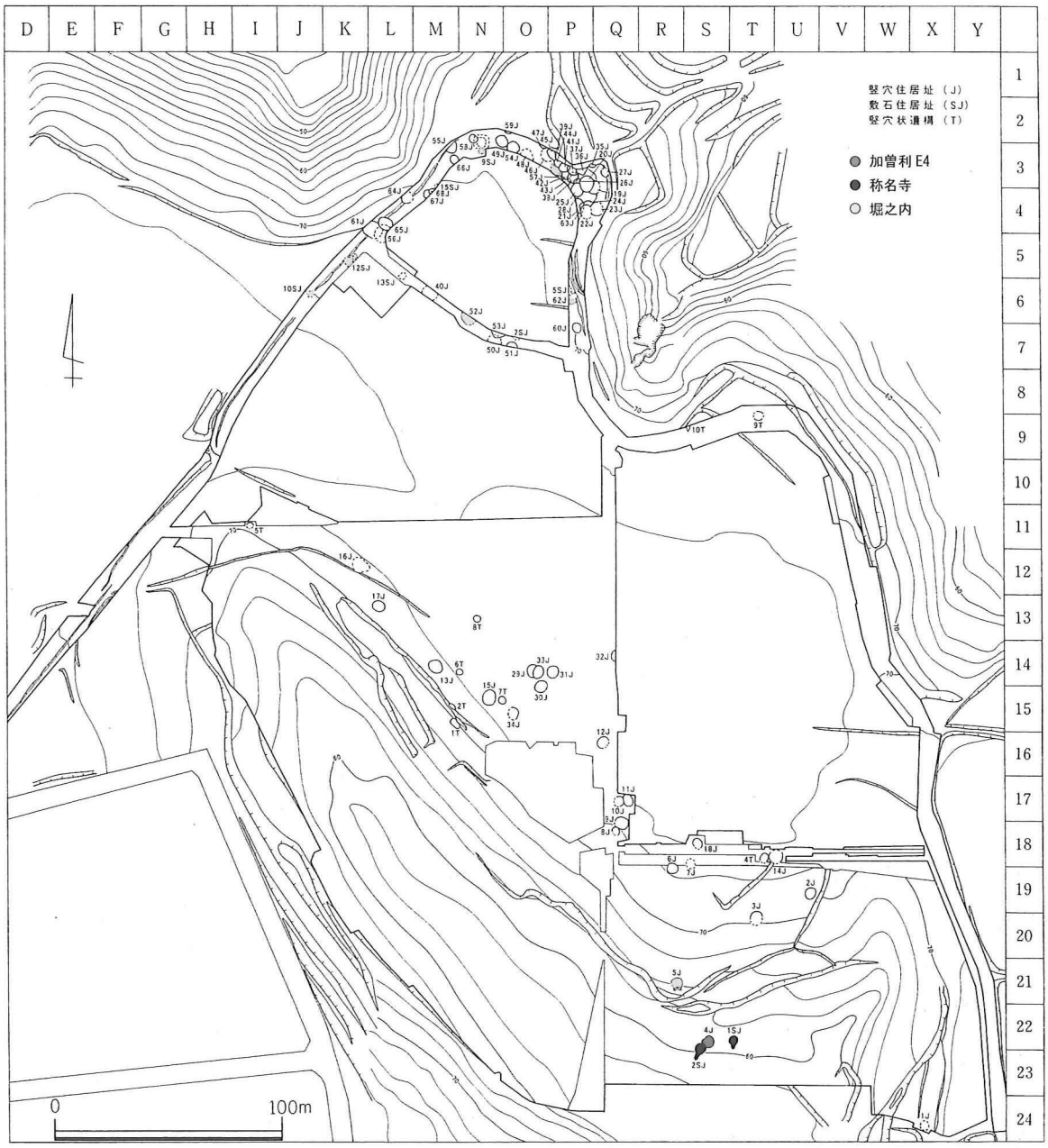
当麻遺跡第３地点と田名花ヶ谷戸遺跡は、調査年は異なるが、同一遺跡であり、両者を合わせると中央広場に土坑墓群と弧状列石をもつ径約100mの環状集落をなす（第１図下）。157軒の縄文時代の住居址が確認されているが、大部分は中期（勝坂式期・加曽利Ｅ・曽利式期）に属する。中期末葉（加曽利Ｅ４式期）の住居址は柄鏡形住居址と円形住居址が15軒程あるが、環状集落の南東側では環状をなす住居址群の明らかに外側に、環状集落の北や西側では環状集落を構成する住居址群のやや外寄りに分布し、加曽利Ｅ３式期までの住居址配置とは異なることが看取された（白石1977）。さらに加曽利Ｅ４式ないし称名寺式期は１軒、称名寺式期と考えられる住居址は２軒と激減する傾向が見られ、更にそれらの住居址の配置は中期末葉の住

尾崎遺跡



当麻遺跡・田名花ヶ谷戸遺跡

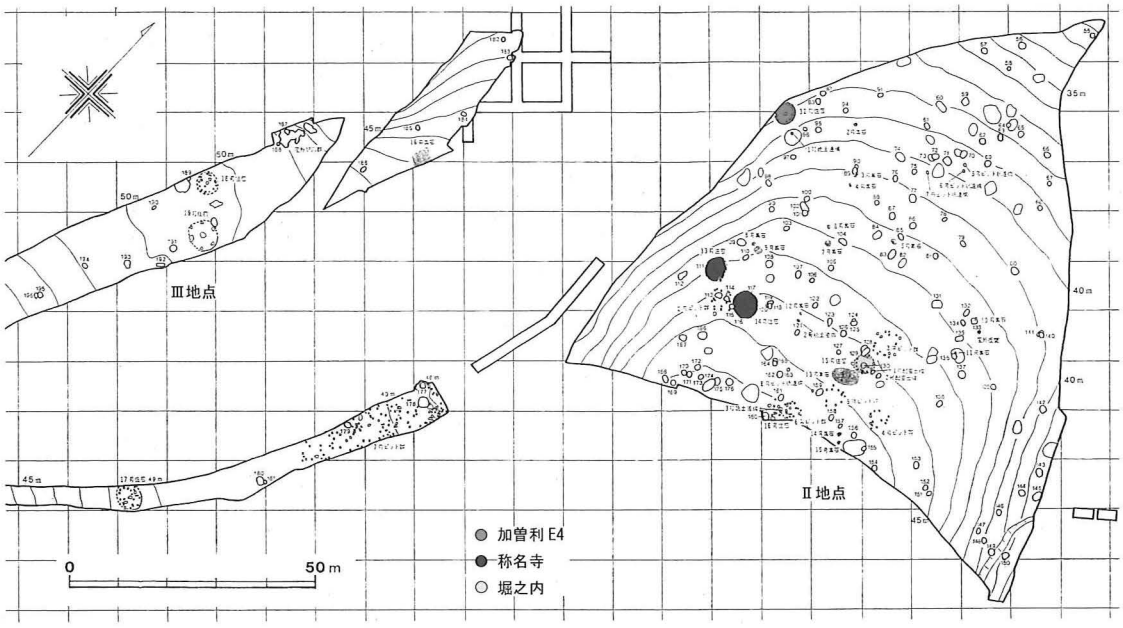
第１図　称名寺式期の集落址（１）



第２図　称名寺式期の集落址（２）原口遺跡

居址群の近くにあり、そのプランは全て柄鏡形敷石住居址をなしていた。称名寺式期の住居址から出土した称名寺式土器はみな中段階の所産である。

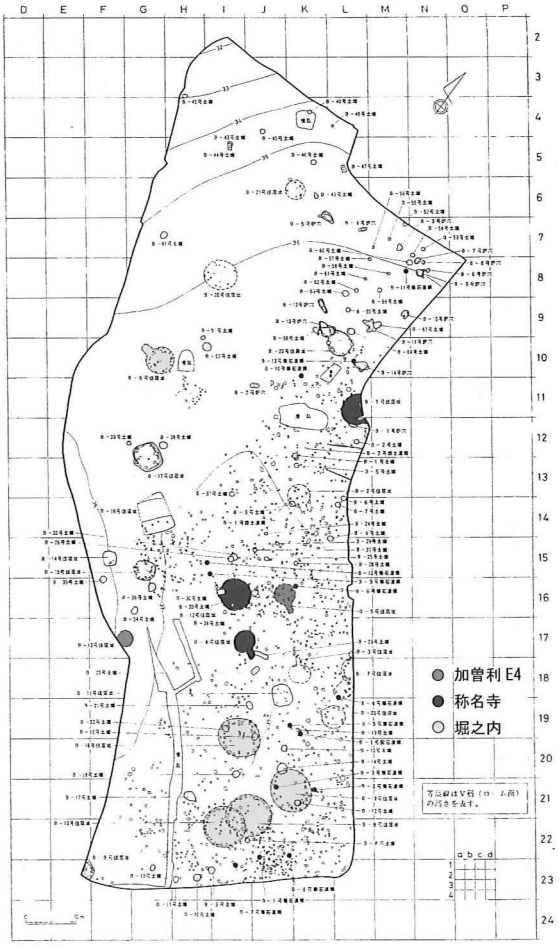
原口遺跡は前期末葉から後期前葉までの集落。中期後葉から連続すると同時に後期前葉へも連続する遺跡である。中期後葉では竪穴住居址40軒が存在し、その分布は北側の住居址群と南側の住居址群に分かれる。北側の住居址群（K～Q－２～７区）は住居址36軒からなり、台地平坦部を取り囲んで径約100mの環状集落が想定され、南側の住居址群（S～U－18～20区）は４軒の住居からなり、緩斜面から谷部に散漫に分布していた（第２図・長岡2002）。称名寺式期の遺構としては、敷石住居址が南側住居址群分布エリアに２軒存在する。それらは谷部にあり、等高線に沿って、張出部（出入口部）を斜面下方に向けて、並んで存在していた。２軒のうち西側の１軒は称名寺式中段階の所産で、中期末葉（から称名寺式古段階後半を含む）



第３図　称名寺式期の集落址（３）帷子峯遺跡

住居址を切って存在し、東側の１軒は称名寺式中・新段階の所産である。各時期１～２軒の住居址の存在が想定され、中期の環状集落のある場所は埋設土器が２基あるのみで、中期とは異なる場所に集落が存在している。また後期前葉の敷石住居址は中期の環状集落のある場所に再度分布している。

帷子峯遺跡は緩斜面に位置する遺跡で、中期後葉から後期前葉までの遺構が検出されている（近藤他1984）。中期後葉の住居址は第Ⅲ地点に２軒あり、中期末葉は第Ⅱ地点に１軒ある。該期の住居址は第Ⅱ地点に２軒ほどある（第３図）。共に称名寺式中段階に属する。１時期２軒存在したと言えるかもしれない。後期前葉になると第Ⅱ地点には住居址１軒あるが、主体は東側の第Ⅰ地点に移る。第Ⅰ地点は調査区が狭いため後期前葉の遺構配置を語ることはできないが、中期後葉から後期初頭にかけては住居址が環状配置をとることはなく、非環状集落と言える。松風台遺跡・稲ヶ原遺跡も中期の非環状集落から連続する遺跡である。松風台遺跡は丘陵尾根付近にあり、中期後葉の住居址２軒、そ



第４図　称名寺式期の集落址（４）稲ヶ原遺跡Ａ地点

こから約40m離れて後期初頭の住居址１軒がある（渡辺務1990）。他に屋外埋甕はあるものの住居址は極めて少ない。稲ヶ原遺跡は台地の頂部付近に位置し、中期後葉から後期前葉まで連続する遺跡（平子他1992）である。中期後葉から中期末葉にかけては非環状集落で、後期初頭も住居址１～２軒の散漫な非環状配置をとる（第４図）と思われるが、東側が未調査のため全体構成は、わからない。

後期初頭単独集落

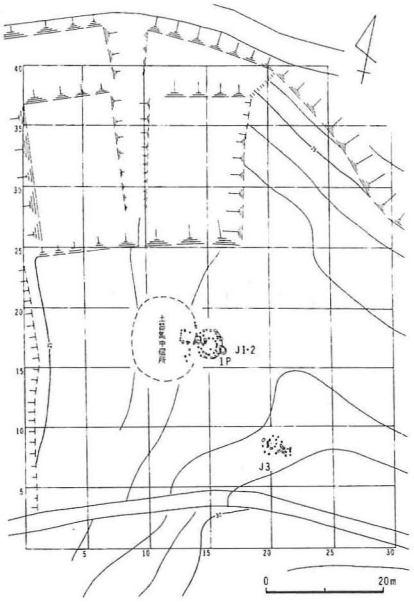
横浜市都筑区水窪遺跡、藤沢市用田鳥居前遺跡、座間市山ノ上遺跡、中井町東向遺跡、清川村久保ノ坂遺跡などがある。水窪遺跡は台地先端部に位置し、緩やかに傾斜する狭い平坦地に３軒の柄鏡形住居址が存在していた（第５図）（石井他1985）。時期は称名寺式中段階に属する。２軒は重複しており、１時期には１～２軒程存在したと思われる。用田鳥居前遺跡は敷石住居址２軒・竪穴状遺構２基が検出された（第５図）（栗原他2002）。時期別に見ると古段階後半の敷石住居址１軒・竪穴状遺構２基、古ないし中段階の住居址１軒となる。それぞれ重複関係になく単独で存在し、１時期には住居址１軒、竪穴状遺構０～２基存在したと思われる。山ノ上遺跡では敷石住居址３軒あり、称名寺式の中ないし新段階の住居址１軒、新段階の住居址２軒からなる（第６図上）（大上1989）。それぞれは重複関係になく、１時期２～３軒の程度の存在が想定される。１号敷石住居址と２号敷石住居址の間には若干の空白地があり、空白地には中央広場ないしは道が存在したと思われる。住居の出入口部は中央の空白地に向けた配置をとっていた。なお、１号敷石住居址の近傍に配石墓が存在している。時期は不詳であるが、配石墓は集落の中央には位置していないことを付記しておく。東向遺跡も緩やかに傾斜する平坦地にある（第５図）（村上他1998）。住居址１軒・敷石住居址１軒・掘立柱建物址１基などが存在する。時期をみると住居址からは称名寺式土器中・新段階・堀之内１式土器が出土しており、敷石住居址からは称名寺式土器古・中段階の土器、掘立柱建物址からは称名寺式土器中～新段階が出土している。時期は確定しにくいが、住居址→敷石住居址という順序にはなりそうで、調査区内では１時期１軒の住居址の存在が想定される。調査区が狭いので、集落全体の遺構配置は不明である。久保ノ坂遺跡は河岸段丘上の遺跡で、敷石住居址が２軒検出されている（第５図）（恩田1998）。時期は称名寺式新段階に属する。配置を見ると、両者は等高線に沿って16mほど離れて存在している。このような等高線に沿う直線的配置は、後期前葉の伊勢原市下北原遺跡南側配石や後期前中葉の秦野市曽屋吹上遺跡と共通するもので（松田2007）、後期前中葉の遺構配置と関連をもつものと評価できるかもしれない。

後期前葉へ連続する集落

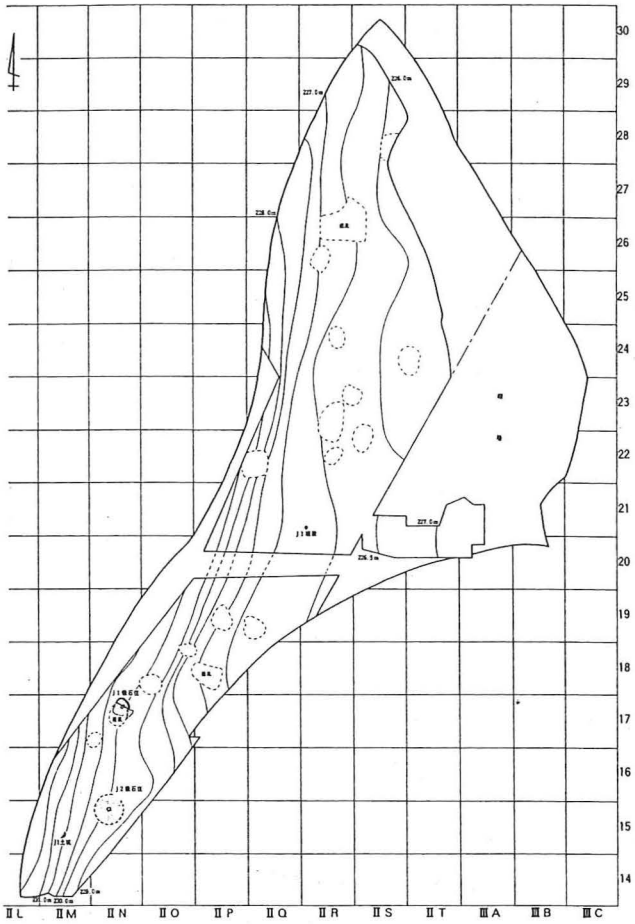
代表的な遺跡に横浜市港北区山田大塚遺跡がある（第６図）。当遺跡は台地上の平坦部から斜面にかけて遺構が存在した。後期初頭前後で言うと中期末葉から後期前葉まで集落が形成された。中期末葉は散漫な分布を示すのみである。該期になると平坦部の東側に２軒の柄鏡形住居址、南側斜面部に１軒の住居址がある。いずれもみな南西方向に出入口部を開けている。住居址の時期は称名寺式中段階のものと新段階のものがあるので、１時期１～２軒程度であったと考えられる。このほか貯蔵穴がやや多く存在している。後期前葉では平坦部・南側斜面・北側斜面の３ブロックに分かれる（石井1990）。後期初頭の南側斜面の一群は後期前葉の住居址群へ連続したと考えられるが、北側斜面と平坦地の本格的利用は後期前葉になってから開始された。

まとめ

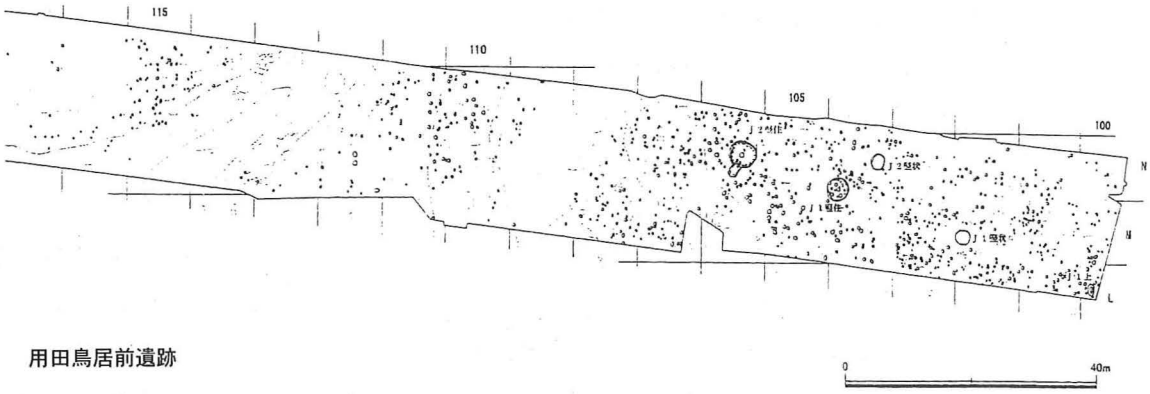
後期初頭の集落は前後の時期とつながらない該期単独集落が多い。集落内の住居軒数は少なく、散漫な分布を示し、集落内で該期の住居址が切り合い関係をもつことはほとんどない。柄鏡形住居址または敷石住居



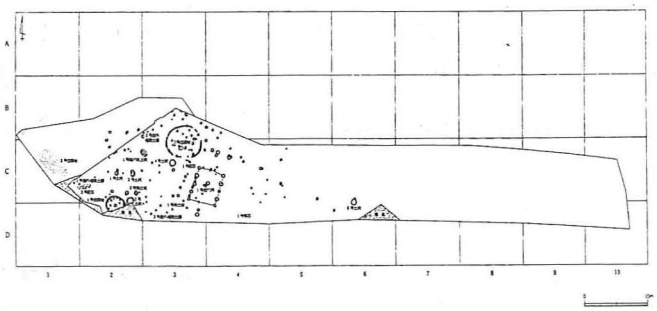
水窪遺跡



久保ノ坂遺跡

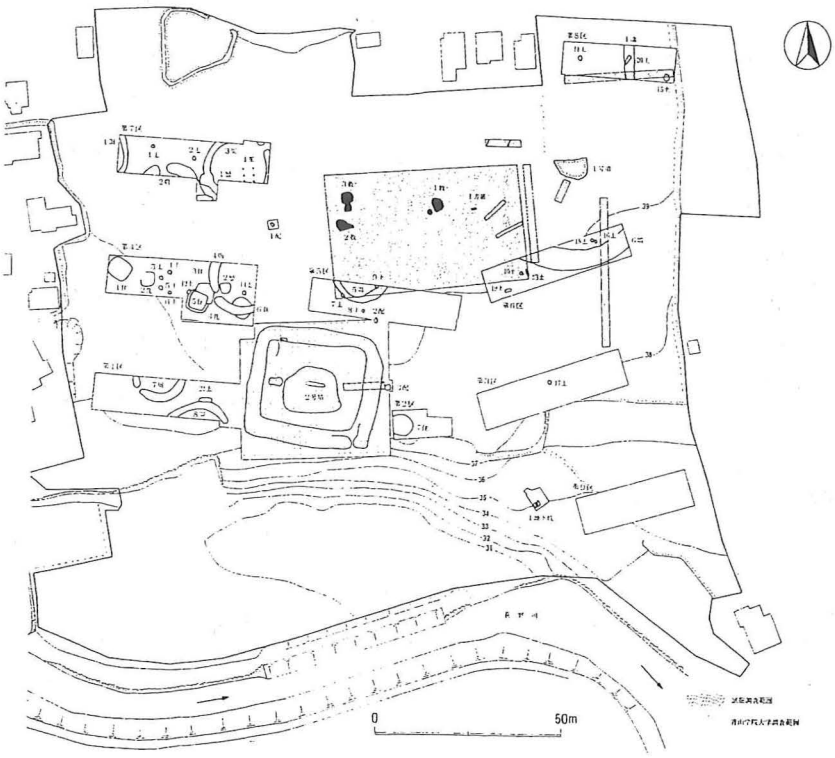


用田鳥居前遺跡

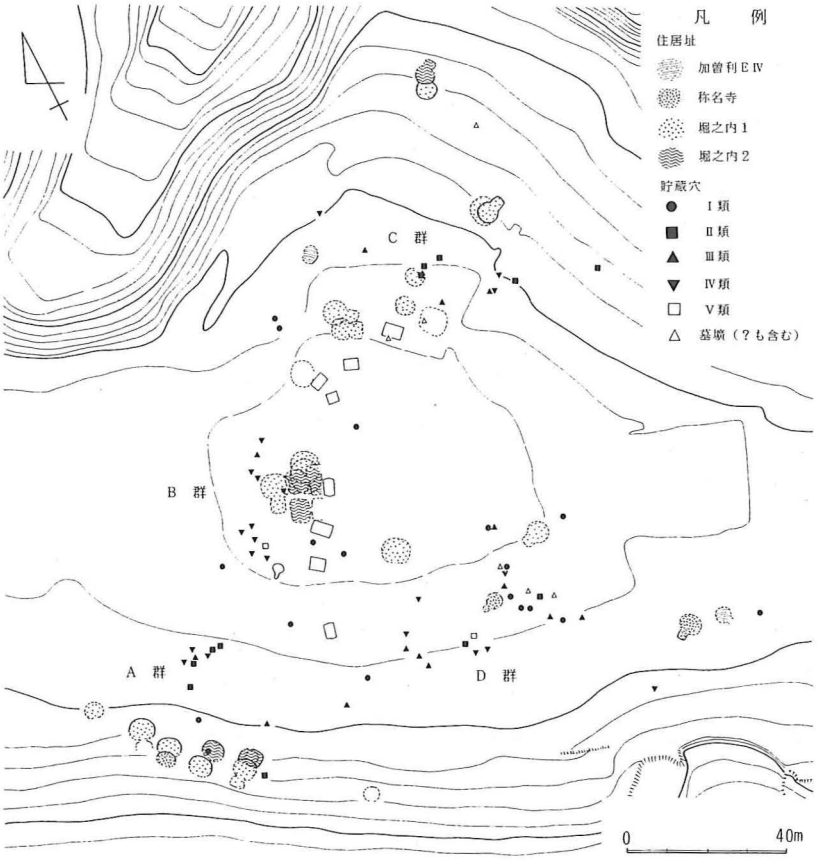


東向遺跡

第５図　称名寺式期の集落址（５）



山ノ上遺跡



山田大塚遺跡

第6図　称名寺式期の集落址（6）

址が多くを占め、同時存在住居址数は１～３軒程度で、軒数が少なかったと考えられる。中期後葉に環状集落をもつ遺跡であっても、中期後葉の環状集落構造を保持するものはなく、住居は環状集落から外れたところに作られることが多い。住居の配置も環状をなさず、少数の住居が集まって集落を構成しているといえる。こうした傾向は中期末葉から始まることが多く、当麻遺跡や相模原市新戸遺跡などでは中期末葉にそうした傾向を看取できる。中には等高線に沿って住居址が列状配置をとるもの（久保ノ坂遺跡）もあり、後期前葉以降の下北原遺跡や曽屋吹上遺跡に見られる列状配置につながるものかもしれない。中期後葉から中期末葉にかけて住居址が環状構成をとらない非環状集落では、後期初頭でも住居址が散漫で、環状構成をとらない。また、後期に連続する遺跡では、該期の遺構配置を部分的に継承する部分もあるが、後期初頭の集落規模が小さいため、多くは後期前葉に居住域が新たに作られ、集落の拡大がはかられたようである。　（松田光太郎）

参考文献（報告書は『研究紀要11』の文献目録に掲載してあるので、省略）

石井　寛　　1994「縄文後期集落の構成に関する一試論」『縄文時代』５　縄文時代文化研究会
松田光太郎　2007「南関東地方の諸遺跡」『季刊考古学』101　雄山閣
山本暉久　　1980「縄文時代中期終末期の集落」『神奈川考古』９　神奈川考古同人会

Ⅲ．遺跡分布

ここでは、神奈川県内における称名寺式期の遺跡の分布を概観する。

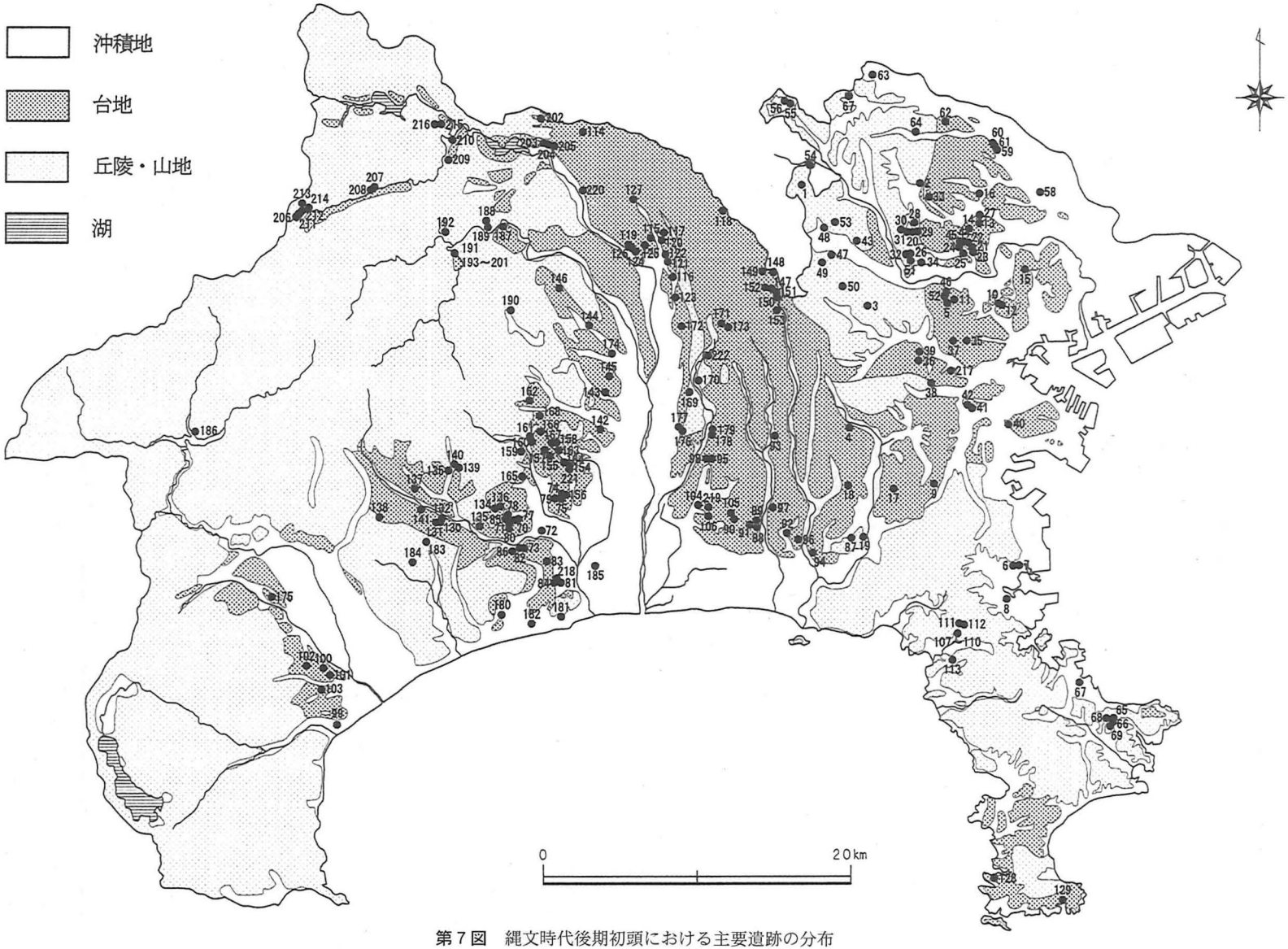
第７図は『研究紀要11』の「主要遺跡地名表」に掲載した216遺跡と、本稿の補遺に掲載した６遺跡、計222遺跡を40万分の１の地形区分図にプロットしたものである。

まず県東部の大きな分布の在り方をみてみると、鶴見川上～中流域（およびその支流）の下末吉台地、相模川中流域（およびその支流）の相模野台地に集中がみられる。これらについては中期後葉の遺跡の分布地域とほぼ重なるといえる。一方、中期後葉にみられなかった、境川や引地川の下流域や田越川支流の池子川流域に遺跡の集中がみられるのがこの時期の特徴といえよう。しかし、この結果のみをみて、遺跡の分布特徴を結論付けるのは、発掘調査の行われた件数の多寡にもよるため断言するのは避けたい。また、当該時期のデータベースは土器資料（破片を含む）のみ検出され、遺構が検出されていない遺跡も数多く抽出している。土器が数点でも検出されていれば、その遺跡に近接しているところに生活の跡が存在することが考えられるが、土器のみが検出されている遺跡は除外し、称名寺式期のもの、もしくは称名寺式期にかかると考えられる住居址が検出された遺跡を抽出して、それについて以下で簡単に言及してみることとする。

※括弧の数字は地図上の数字。『研究紀要11』「主要遺跡地名表」の遺跡No.と対応している。

まず、下末吉台地と多摩丘陵についてみてみる。

早渕川流域には加曽利Ｅ式期から称名寺式期の住居址群（主体は加曽利Ｅ２式）が検出された横浜市港北区畳屋の上遺跡（13）や称名寺式期の住居址が３軒検出された横浜市都筑区水窪遺跡（33）、矢上川支流の有馬川流域だと勝坂式期終末から称名寺式期の集落（称名寺式期は２軒）の横浜市港北区山田大塚遺跡（16）、鶴見川流域だと称名寺式期最終末から堀之内１式期初頭の横浜市都筑区川和向原遺跡（26）、恩田川流域だと、加曽利Ｅ式期から堀之内式期が主な集落（称名寺式期は３軒）が形成された横浜市青葉区稲ヶ原遺跡（43）、恩田川支流の奈良川流域に加曽利Ｅ式期から称名寺式期（称名寺式期は１軒）の横浜市青葉区松風台遺跡（53）、鶴見川支流の大熊川流域には中期の大規模な環状集落で知られる横浜市都筑区三の丸遺跡（称名寺式期は９



第７図　縄文時代後期初頭における主要遺跡の分布

軒）（30）、鶴見川支流の鳥山川流域には中期中葉から後期前半の住居址が95軒検出され、後期の狭い範囲での貝層が伴う横浜市港北区篠原大原遺跡（12）があげられる。

次に相模川、境川流域に広がる相模野台地についてみてみる。

境川流域には中津式土器の要素が強く残る土器が出土し、称名寺式土器の成立過程を考える手がかりとなる大和市下鶴間長堀遺跡（150）、境川支流の滝ノ川流域には称名寺式期から堀之内式期の住居址１軒が検出されている鎌倉市関谷島ノ神西遺跡（87）が、相模川流域では支流の目久尻川流域で加曽利Ｅ式期から称名寺式期と考えられる住居址が２軒検出されている藤沢市用田鳥居前遺跡（98）、相模川支流の鳩川流域には称名寺式期の住居址が１軒検出されている相模原市下溝上谷開戸遺跡（121）、また、同流域には称名寺式期から堀之内式期の住居址が９軒（うち称名寺式期のものは１軒）検出された相模原市下溝鳩川遺跡（122）、相模川支流の八瀬川流域には阿玉台式期から称名寺式期（称名寺式期は２軒）にかけての住居址が検出された相模原市当麻遺跡（124）、相模川支流の恩曽川流域には勝坂式期の71軒から構成される環状集落と加曽利Ｅ式期の集落（称名寺式期は１軒）が検出されている厚木市恩名沖原遺跡（143）、相模川支流の荻野川流域には３軒の称名寺式期の敷石住居、方形石組遺構が検出されている座間市山ノ上遺跡（174）が存在する。

以上みてきたとおり、概して言えることは、中期の大規模集落に比べ、小規模な集落でかつ、同じ時期には１から３軒という規模の集落であったことが想定される（三の丸遺跡については例外といえるかも知れない）。また、県東部の遺跡のなかでは称名寺式期のみ生活が営まれた遺跡は少なく、称名寺式期の前段階である加曽利Ｅ式期から称名寺式期、もしくは称名寺式期からその後段階である堀之内式期まで小規模ながら集落が続いていると考えられる例が多くみられた。（下鶴間長堀遺跡および山ノ上遺跡は称名寺式期のみの住居址しか検出されていないため例外となる。）　（宗像義輝）

相模川を境とする県西部も、中期後葉段階における遺跡分布の様相と類似した傾向を示している。県西北部では、相模川水系中津川周辺域の河成段丘上に所在する清川村宮ヶ瀬遺跡群（191 ～ 201）が当該地域の中核地となりうる分布を示しており、相模川水系道志川周辺域の河成段丘上では、山梨県との境をなす相模原市津久井町青根地区に遺跡分布が散見されており、中期後葉段階の遺跡分布状況から比べて西方地域への若干の広がりをみせている。県西南部では、相模川以西の県央部にあたる伊勢原市・平塚市・秦野市を中心とする地域に遺跡分布の集中がみられる。当該地域は金目川水系周辺域である伊勢原台地・北金目台地・大磯丘陵に所属しており、中期後葉段階から引き続き遺跡分布の隆盛がみられる。遺跡分布は大磯丘陵西部、秦野盆地に至る範囲まで散見されており、中期後葉段階から比べて、南西に広がりをみせていることが窺える。県西部を概観してみると、中期後葉段階から比べ分布状況が若干の展開を示すに止まり、急激な遺跡数の増減・展開等はみせておらず、漸移的な変遷として理解される。

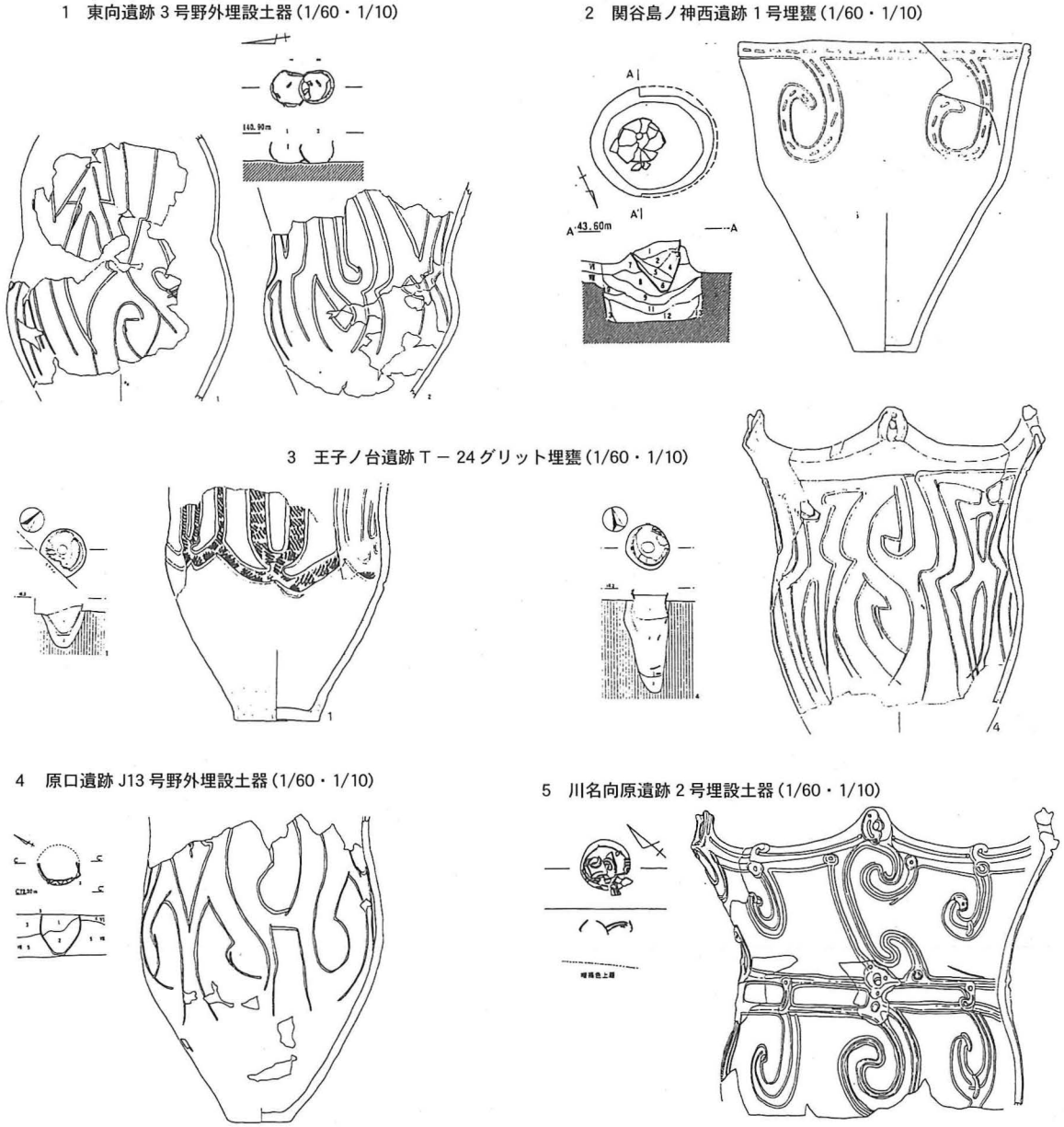
次に、前段の県東部で述べた称名寺式期を中心とする住居址の検出遺跡について、県西部の状況を述べる。加曽利Ｅ式期から称名寺式期に帰属する住居址が検出された遺跡は、平塚市原口遺跡（82）１軒、小田原市久野諏訪ノ原清掃工場建設予定地遺跡（102）１軒、足柄上郡山北町尾崎遺跡（175）１軒である。称名寺式期に帰属する住居址が検出された遺跡は、原口遺跡（82）２軒、小田原市久野一本松遺跡（100）１軒、足柄上郡中井町東向遺跡（№33）（183）２軒、清川村宮ヶ瀬遺跡群久保ノ坂（№４）遺跡（198）２軒、相模原市津久井町青山開戸遺跡（209）１軒である。称名寺式期から堀之内式期に該当する遺跡は、南足柄市塚田遺跡（175）３軒である。

県西部は県東部に比べ、遺跡の分布状況が疎密を呈する様相であり、丹沢山地から派生した丘陵・山地部

には広大な遺跡分布の空白地帯が広がっている。遺跡分布数に対する住居址の検出数も少数であり、このような状況から集落像を捉えることは困難を極めるが、少なくとも県東部同様、集落の小規模化といった傾向は、検出される住居址数等からも推測される。遺跡分布の展開状況は、中期後葉段階から比べて宮ヶ瀬遺跡群や青根地区、秦野盆地の事例のように、西方に遺跡の分布が展開する傾向が窺える。県西部の大部分を占めるのは丹沢山地であり、地形的な制約の大きい地域ではあるが、秦野盆地における遺跡分布数の増加や久野丘陵に所在する遺跡における住居址の検出例、酒匂川水系河内川周辺域での丹沢山地における尾崎遺跡等の遺跡の存在は、西部疎密分布地域における未周知の遺跡が存在する可能性を想定させる。　（近藤匡樹）

Ⅵ. 屋外埋設土器（第８図）

該期の屋外埋設土器は６遺跡で８基が発見されている。中井町東向遺跡３号屋外埋設土器（２個体）、鎌倉市関谷島ノ神西遺跡第１号埋甕、平塚市王子ノ台遺跡T-24グリッド埋甕２基、平塚市原口遺跡Ｊ12号、

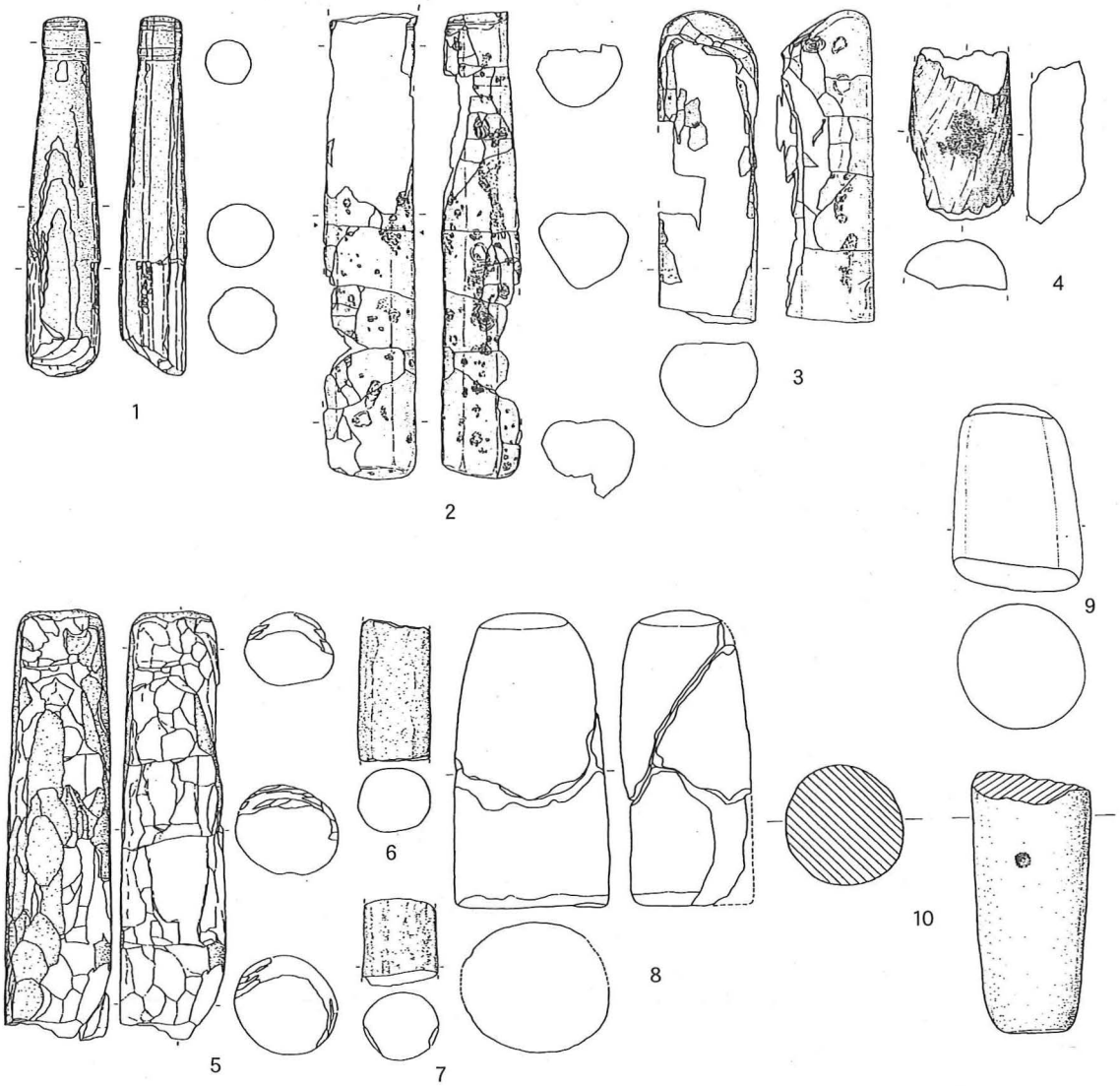


第８図　称名寺式期の屋外埋設土器

13号埋設土器、横浜市都筑区華蔵台南遺跡１号埋設土器、横浜市都筑区川名向原遺跡２号埋設土器である。王子ノ台遺跡にて発見された古段階の１基を除き全て新段階に帰属する。東向遺跡では２個体の土器が一緒に埋設されているものの、他は全て１基につき１個体の土器が埋設される。遺存部位では、関谷島ノ神西遺跡第１号埋甕がほぼ完形、口縁～胴部を埋設するものとして王子ノ台遺跡新段階の埋設土器、華蔵台南遺跡１号埋設土器、川名向原遺跡２号単独埋設土器、胴下半～底部を埋設するものが、王子ノ台遺跡古段階の埋設土器、原口遺跡Ｊ13号埋設土器、胴部中位を埋設するものとして東向遺跡３号屋外埋設土器２個体、原口遺跡Ｊ12号埋設土器がある。関谷島ノ神西遺跡第１号埋甕、王子ノ台遺跡の２基は土器が収まる程度の掘り込みをもつが、他は明瞭な掘り込みを伴わないもしくは掘り込みが不明である。東向遺跡を除き土器は正位に埋設される。

（阿部友寿）

Ⅴ．石器・石製品（第９図）



1.用田鳥居前遺跡Ｊ２号竪穴住居址　2.～4.用田鳥居前遺跡Ｊ１号竪穴住居址　5.～7.原口遺跡　8.井田中原遺跡Ｂ地点
9.東向遺跡　10.川島町西原遺跡

第９図　石器・石製品

ここでは称名寺式器の石器・石製品について概観する。今回対象とした時期において、石器・石製品の多くはその属性に乏しく、土器編年案の各段階設定に符合させることは困難であった。そのため主に遺構からの出土石器・石製品について着目した。遺構に伴う石器は、23遺跡から約200点に満たない状況であり、数量的な傾向は未だ把握しにくい状況にある。さらにその多くは欠損品であるため、器種分類及び形態的傾向の把握は困難であった。数量的には磨石が総数70点を超える数が認められ圧倒しているが、その他の器種については、石鏃・石錐・剥片・打製石斧・磨製石斧・礫器・石皿などが少量出土しているのみであり、その様相は現在のところ明瞭ではなく、調査事例の増加を期待したい。

石製品は、石錐が全遺跡のなかで６点ほど認められ、中井町東向遺跡３号住居址からは３点が出土している。径８㎝前後の扁平な礫両端部に打ち欠きの切り目が施されるものである。河川や湖沼などでの漁労活動を示していると思われるが、他遺跡での事例が僅少なため、海浜部との比較など遺跡分布を言及するにはいたらない。

石棒は、横浜市保土ヶ谷区川島町西原遺跡・川崎市井田中原遺跡Ｂ地点・藤沢市用田鳥居前遺跡・平塚市原口遺跡から合計10点が出土している。原口遺跡ではＪ４号竪穴住居址から３点が認められ、用田鳥居前遺跡ではＪ１号竪穴住居址から３点、Ｊ２号竪穴住居址から１点の出土があり、当該期の石棒出土事例として注目できるものである。用田鳥居前遺跡Ｊ１号竪穴住居址は、石棒が炉石に転用され、分割加工されている。Ｊ２号竪穴住居址では、北壁に横倒した状態で出土している。両遺跡とも石棒は被熱を受けていること、石皿や多穴石などを伴う事など共通している要素も見受けられるが、具体的な様相の把握を検討するには事例の増加を待ちたい。

（天野賢一）

神奈川県内　後期初頭土器出土主要遺跡地名表（補遺）

(1)この表は、「神奈川県における縄文文化の変遷Ⅶ-後期初頭　称名寺式土器の様相その1-」(2006『研究紀要』11)に掲載した主要遺跡地名表(文献目録)作成以後に刊行された報告書を中心に、神奈川県内における後期初頭の主要遺跡を抽出してまとめたものである。

(2)掲載遺跡の抽出基準および表の様式は『研究紀要』11を踏襲している。

(3)文献の集成、データベースの作成、表の編集は井辺・岡が担当した。

遺跡No.	遺跡名	所在地	文献No.
横浜市保土ヶ谷区			
217	明神台遺跡	明神台 109-1 他	218
平塚市			
218	万田貝殻坂貝塚（万田遺跡第９地点）	万田 493	220
茅ヶ崎市			
219	大久保Ｄ遺跡	芹沢 2757 他	219

遺跡No.	遺跡名	所在地	文献No.
相模原市			
220	古清水遺跡	大島字古清水 2434-1 他	221
伊勢原市			
221	池畠・金山遺跡	伊勢原	222
海老名市			
222	中原遺跡	上今泉 5-27 他	217

文献一覧（表中文献 No. と一致）

217　阿部友寿他　2005　「中原遺跡-国道246号線バイパス建設に伴う調査-」『神奈川県埋蔵文化財調査報告』48　神奈川県教育委員会

218　近野正幸他　2006　『明神台遺跡・明神台北遺跡-明神台団地建設に伴う発掘調査-』かながわ考古学財団調査報告192
財団法人かながわ考古学財団

219　大塚健一他　2006　『大久保C遺跡 大久保D遺跡-県立茅ヶ崎里山公園整備工事に伴う発掘調査-』かながわ考古学財団調査報告195
財団法人かながわ考古学財団

220　中村哲也他　2007　『神奈川県平塚市　万田貝殻坂貝塚(万田遺跡第９地点)発掘調査報告書』　平塚市・玉川文化財研究所

221　水澤丈志他　2007　『神奈川県相模原市 古清水遺跡 第1次発掘調査報告書』　株式会社アーネストワン・加藤建設株式会社

222　岩崎　祥他　2007　『神奈川県伊勢原市　池畠・金山遺跡-集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』
株式会社パラモド・埋蔵文化財発掘調査支援組合

神奈川県内出土の弥生時代金属器（1）

－鉄器集成－

弥生時代研究プロジェクトチーム

はじめに

弥生時代は水田稲作が始まった時代であるとともに、鉄器、青銅器など金属器使用が始まった時代でもある。東日本においては弥生時代中期後半に鉄器の使用が始まり、次いで青銅器が導入されるようになる。神奈川県内においても同様であるが、出土量は決して多くはなく、その分、詳細が明らかとは言い難い。

そこで弥生時代研究プロジェクトチームでは、神奈川県内出土の弥生時代金属器を集成し、改めて消長・動向を把握することとした。手始めに、今回は鉄器集成を行い、データの蓄積を図ることとした。

集成にあたって、器種の消長と画期をより明らかにする上では弥生時代に限定せず古墳時代前期までの動向を押さえる必要があることから、集成範囲を弥生時代から古墳時代前期（前半）までとしたが、今回の集成作業では古墳出土資料は対象に含めていない。資料の所属時期は、基本的に各報告書報文における記述に基づいているが、一部表記方法を変えて記載したものもある。また遺物名についても、報告書掲載の名称を変更したものが若干ある。集成結果は第１表にまとめ、報告されている図を第１～４図に縮尺１／３に統一して掲載した。第１表の「図番号」は第１～４図の遺物に付けた通し番号に対応し、「文献No.」は文末の文献一覧に付けた番号に対応している。集成は池田　治、桜井真貴、新開基史、戸羽康一、渡辺　外が行い、弥生時代鉄器研究史、弥生鉄器の概略および神奈川県内出土鉄器の概要について戸羽が執筆した。編集は池田が行った。（池田）

１．弥生時代鉄器研究史と関東地方における鉄器研究史

弥生時代を特徴づける事柄として稲作とともに、金属器の使用が挙げられる。特に鉄器は実用具として導入され、利器は石から鉄へと材質転換していった。鉄器が研究されはじめた頃には、利器類の石器から鉄器への転換による生産力向上とそれに伴う社会発展を鑑みた議論が展開された。近年では、鉄器の形態分類や分布が少なからずとらえられるようになり、地域ごとの議論がされるようになってきている。

利器類の完全な鉄器化は弥生時代中期後半以降、全国的に大陸系磨製石器類が減少することもあり、日本列島において斉一的に起こったと考えられてきた。しかし、弥生時代後期段階において、列島各地で石器が残ることが明らかになってきている（村上1998）。さらに、鉄器の普及は地域ごとに段階を追って、徐々に鉄器化されていくことが指摘されている。

日本列島における弥生時代鉄器の研究は九州から始まっており、岡崎敬氏が長崎県壱岐原ノ辻遺跡、カラカミ遺跡から出土した鉄器について論じ、先鞭をつけた（岡崎1956）。

その後、資料増加に伴い瀬戸内海沿岸部～近畿地方における研究、日本海沿岸地域が対象となって研究されてきた。遺物量の豊富さから、主として西日本において研究がなされてきた。

関東地方における鉄器について最初に言及したのは川越哲志氏で、全国から出土した板状鉄斧について論

じた（川越1974）。しかし、関東地方における鉄器はしばらくの間、議論の対象として取り上げられることはあまりなかった。1990年代以降、資料数が増加したこともあり、関東地方出土の弥生時代鉄器についても研究対象とされるようになってきた。以下、代表的な研究を概観する。

第31回埋蔵文化財研究集会では平野晋一氏が関東地方と中部山岳地方（長野県）における鉄器を集成し、各地域時期別に石器の終焉と鉄器の普及を示した。地域性など詳細な議論は行われていないものの、関東地方における鉄器研究の先駆けである。（平野1992）。

川越哲志氏は『弥生時代の鉄器文化』において、日本列島における各種弥生時代鉄器を集成し、個別に行われてきた鉄器形態の研究をまとめ、器種ごとに検討したうえで総合的・体系的な研究を行った（川越1993）。これによって、弥生時代鉄器の形態的研究については、一定の完成に至ったといえる。農工具鉄器化の段階を設定し、西から東へと地域ごとに時期差を持ちながら各段階で移行するとしており、北部九州と関東地方には大幅な時期差があることが示された。

安藤広道氏は石器から鉄器への移行期である中期後半段階において、大陸系磨製石器とそれに関連したもの以外の石器が少ないという石器組成の不自然な偏りに着目した。そして、その背景には鉄器が石器組成の偏りを補う形で存在していたと考え、移行期において従来の石器製作・流通のシステムが依然として主流を占めていたと指摘した（安藤1996）。

さらに、関東地方における鉄鏃の厚さが非常に薄いことや鉄釧の製作技法から、鉄の絶対量が少ないため、鉄を効率よく使用するための製作技術が存在したと評価した。その背景には、当時の鉄に対しての観念が東西で異なっていた可能性を示している（安藤2000）。

大村　直氏は第4回鉄器文化研究会において、南関東地方のおける集落出土の鉄器を集成し、弥生時代中期後半から古墳時代前期にかけて、各種鉄器について時期ごとの変化を追っている。集落における鉄製農工具の組成の変化から、4つの段階があることを示した。また、南関東地方の鉄器生産についても鍛冶遺構の例を挙げつつ、言及している（大村1997）。東日本は近畿以西とは異なる地域性を認めうる可能性を示唆し、より限定した地域性の抽出をする必要性を唱えている。

久世辰男氏は南関東地方における弥生鉄器の器種組成を中期段階と後期段階で比較検討している。さらに各種鉄器の形態や鍛冶遺構など現在の状況を整理し、今後の展望を示している（久世2002）。　　（戸羽）

2．弥生時代鉄器の概要

弥生時代における鉄器の代表的なものを列挙する。

農工具：板状鉄斧、袋状鉄斧（加工用、伐採用）、刀子、鉈、鉄鎌、摘鎌、鋤・鍬先

武　器：鉄剣、鉄刀、鉄鏃、（鉄戈、鉄矛、鉄槍）

漁労具：釣針、銛

装身具：鉄釧

日本最古の鉄器は福岡県曲り田遺跡出土の板状鉄器があり、時期は弥生時代前期初頭で、舶載品と考えられている。また、鉄器導入初期段階においては、鋳造鉄器の破片やそれを再加工した製品が使用されていたことが指摘されている（村上1998）。ただし、放射性炭素年代測定法（ＡＭＳ法）による結果を受け、弥生時代の開始年代が遡る可能性が示されている。これにより弥生時代前期末葉～中期初頭の鉄器は年代が再考され、最古の鉄器は中期初頭に位置づけられている。

弥生時代中期後半になると全国的に鉄器の出土例が見られるようになる。斧や鉇などを主体とした農工具を中心に鉄器化が進んでいった。弥生時代後期以降は爆発的に鉄器出土数量が増加する。器種も豊富になり、利器だけでなく、鉄剣、鉄刀といったなどが墳墓に副葬されるようになる。

鉄器の出土数をみてみると、北部九州を頂点として、東に行くほど少なくなるという西高東低を示す（寺沢2004)。 (戸羽)

3．神奈川県内出土の弥生時代鉄器概要

神奈川県内における鉄器の出現期は弥生時代中期後半（宮ノ台期）である。この段階で出土している鉄器は、板状鉄斧を主体とする鑿、鉇、刀子といった農工具である。赤坂遺跡、関耕地遺跡、権田原遺跡、砂田台遺跡、千年伊勢山台遺跡、梶ヶ谷神明社上遺跡などで出土している。特に、砂田台遺跡では鉄剣を切断、再加工したとみられる板状鉄斧が発見されており、注目される。この資料から、鉄器に対する姿勢、つまり生産力を高めることを重視していたという指摘がされている（川越1993)。武器である鉄鏃も出土例はあるが、単発的である。

弥生時代後期から古墳時代初頭において、農工具には鉄鎌が器種として追加される。また、釣針や銛といった漁労具も出現する。特徴的なのは、鉄剣や鉄釧が出現し、それらが墳墓に副葬されはじめる点である。王子ノ台遺跡、高原北遺跡、山王山遺跡では鉄剣が、大原遺跡、受地だいやま遺跡では鉄釧が出土している。Ｅ5遺跡では鉄剣と鉄釧が共伴する例もある。弥生時代中期後半段階では生産力重視であったことを踏まえれば、鉄器が生産力を高めるものとしてだけでなく、武器や装飾品にまで使用されるようになったことを示している。

古墳時代前期になると、千代吉添遺跡第Ｉ地点、千代南原遺跡第Ⅳ地点からは羽口、鉄滓といった鍛冶関連遺物が発見されており、注目される。現在のところ神奈川県内から弥生時代の鍛冶遺構は発見されておらず、上記の遺跡からも鍛冶遺構そのものは検出されなかった。しかし、鍛冶を行っていたことを示す資料としては県内最古のものである。鉄器については、資料上の制約が大きく詳述は困難であるが、神戸・上宿遺跡から袋状鉄斧が出土しており、弥生時代中期後半から古墳時代初頭まで存在しなかった形態の鉄斧が見られるようになる。

以上概略を述べたが、神奈川県内における鉄器の動向をまとめると、全国的に鉄器が普及し始める弥生時代中期後半に神奈川県にも鉄器が出現し、まず斧を主体とした農工具について鉄器化が始まる。弥生時代後期段階になると、農工具については鉄鎌など器種が増加する。そして、鉄剣、鉄釧、鉄鏃といった武器や装飾品についても鉄が用いられ、墳墓に副葬されるようになる。古墳時代前期になると明確な鍛冶遺構は発見されていないものの、鍛冶を行っていた痕跡がみられるようになる。 (戸羽)

おわりに

今回は弥生時代から古墳時代前期の鉄器集成を行い、119点を集成した。決して多い数量ではなく器種の消長は単純なようであるが、用途不明鉄器や棒状鉄製品など残欠品の原形・用途を考えると、鉄鏃などがもっと多く存在していたのではないかと考えられる。金属製品の利用における地域的特色などの分析は今後の課題である。次回青銅製品の集成とともに、併せて検討を行いたい。 (池田)

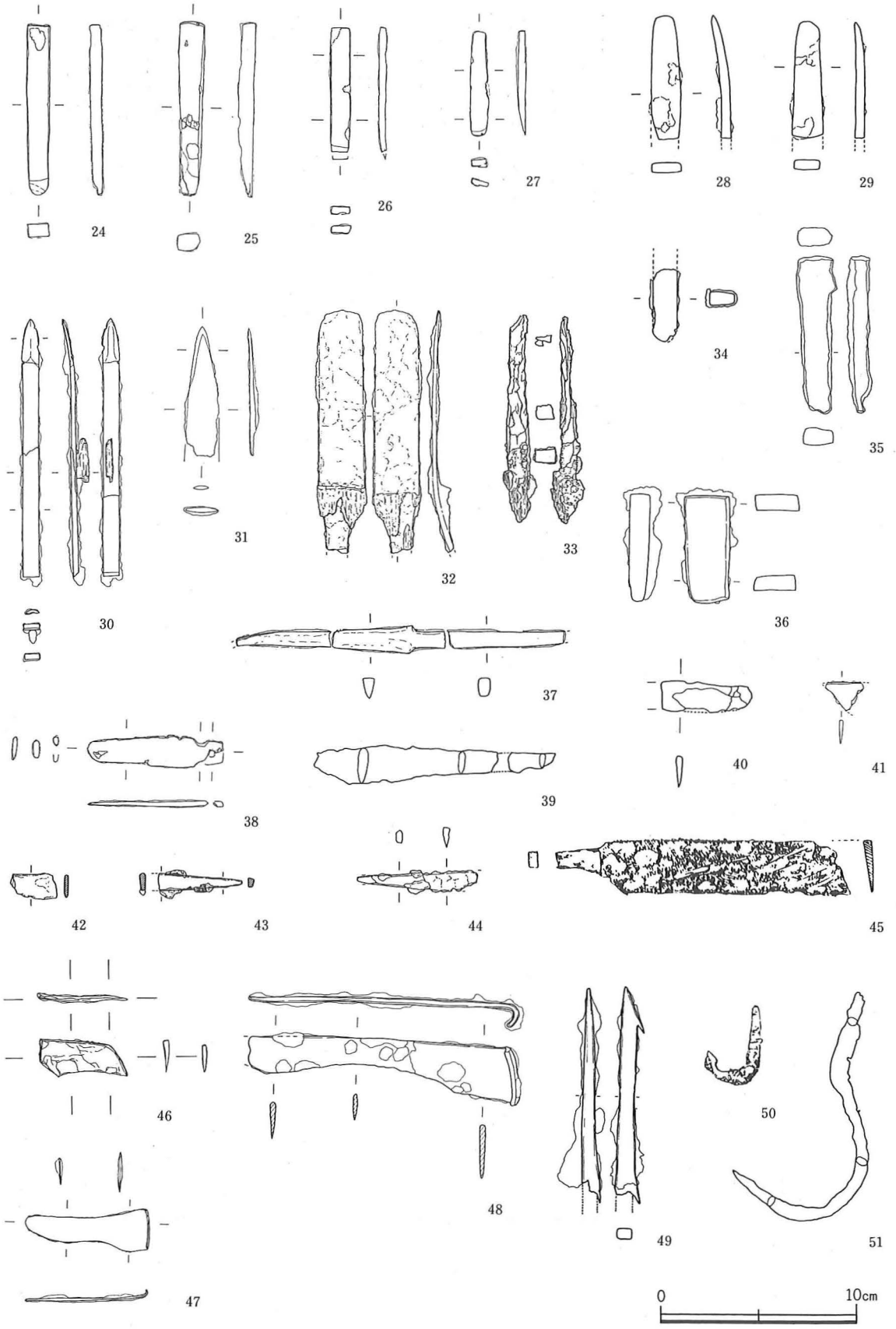
第１表　神奈川県内出土　弥生時代～古墳時代前期　鉄器集成

市町村	遺跡名	遺構名	遺物名	数量	時期	図番号	備考	文献No.
横浜市	関耕地遺跡	７号住居址	板状鉄斧	3	弥生中期後半	1～3		1
	桂台北遺跡	Ｙ－１号住居址	板状鉄斧	2	弥生中期後半	4、5		2
	権田原遺跡	ＣＹ２号住居址	板状鉄斧	2	弥生中期後半	6、7		3
	八幡山遺跡	住居址	板状鉄斧	1	弥生後期末	8		4
	横浜市道高速2号線No. ６遺跡	Ｂ地区　15号住居址	棒状鉄製品（鉈？）	1	弥生後期前半	104		5
	三殿台遺跡	205Ａ号住居炉址内	鉄片	1	弥生後期前半	－	記述のみ	6
	大原遺跡	３号方形周溝墓　主体部	鉄釧	1	弥生後期	－	記述のみ	7
	山王山遺跡	５号方形周溝墓	鉄剣	1	弥生後期	58		8
		46号住居址	茎？	1	弥生後期中葉	102		
	そとごう遺跡	21Ｂ号住居址	鉄鏃	1	弥生後期後半	60		9
	四枚畑遺跡	Ｙ－５号住居址	鉄鏃	1	弥生後期前半	62		10
			茎状鉄片	1		105		
	受地だいやま遺跡	１号方形周溝墓　埋葬部2	鉄釧	1	弥生後期前半	78		11
	観福寺北遺跡	13号住居址	鉄鏃	1	弥生後期前半	68		12
	赤田地区遺跡群No. 10遺跡	ＹＴ３号住居址	角棒状鉄製品	1	弥生後期前半	103		13
	赤田地区遺跡群No. 17遺跡	ＹＴ６号住居址	鉄鏃	1	弥生後期中葉	61		14
	Ｅ５遺跡	１号方形周溝墓　主体部	鉄剣	1	弥生後期前半	55		15
			鉄釧	1		77		
	折本西原遺跡	Ｙ48号住居址	棒状鉄製品（鉄鏃？）	1	弥生中期後半	99		16
	稲ヶ原遺跡	Ａ－７号住居址	刀子？	1	古墳前期	42		17
		Ａ－８号住居址	刀子	1	古墳前期	43		
	小黒谷遺跡	Ｉ地区１号住居址	不明鉄製品	1	弥生後期？	91		18
	寺下遺跡	ＨＤ－３	鉄剣	1	古墳前期	59		19
川崎市	梶ヶ谷神明社上遺跡	第１次調査　竪穴住居跡	板状鉄斧	1	弥生中期後半	9		20
		第２次調査　竪穴住居跡	板状鉄斧	1	弥生中期後半	10		21
			鑿	2		28、29		
	千年伊勢山台遺跡	３号住居址	鉄鏃	1	弥生中期後半	71		22
			鑿状鉄製品	1		34		
横須賀市	鴨居上ノ台遺跡	８号住居址	剣状鉄製品	1	古墳前期	57		23
		20号住居址	鉄鏃	1	弥生後期前半	65		
			刀子状鉄製品	1		39		
			鈎状鉄製品	1		51		
		38Ｂ号住居址	鉄鏃	1	古墳前期	72		
	溝尾遺跡	住居址	鉄剣	1	弥生後期前半	－	記述のみ	50

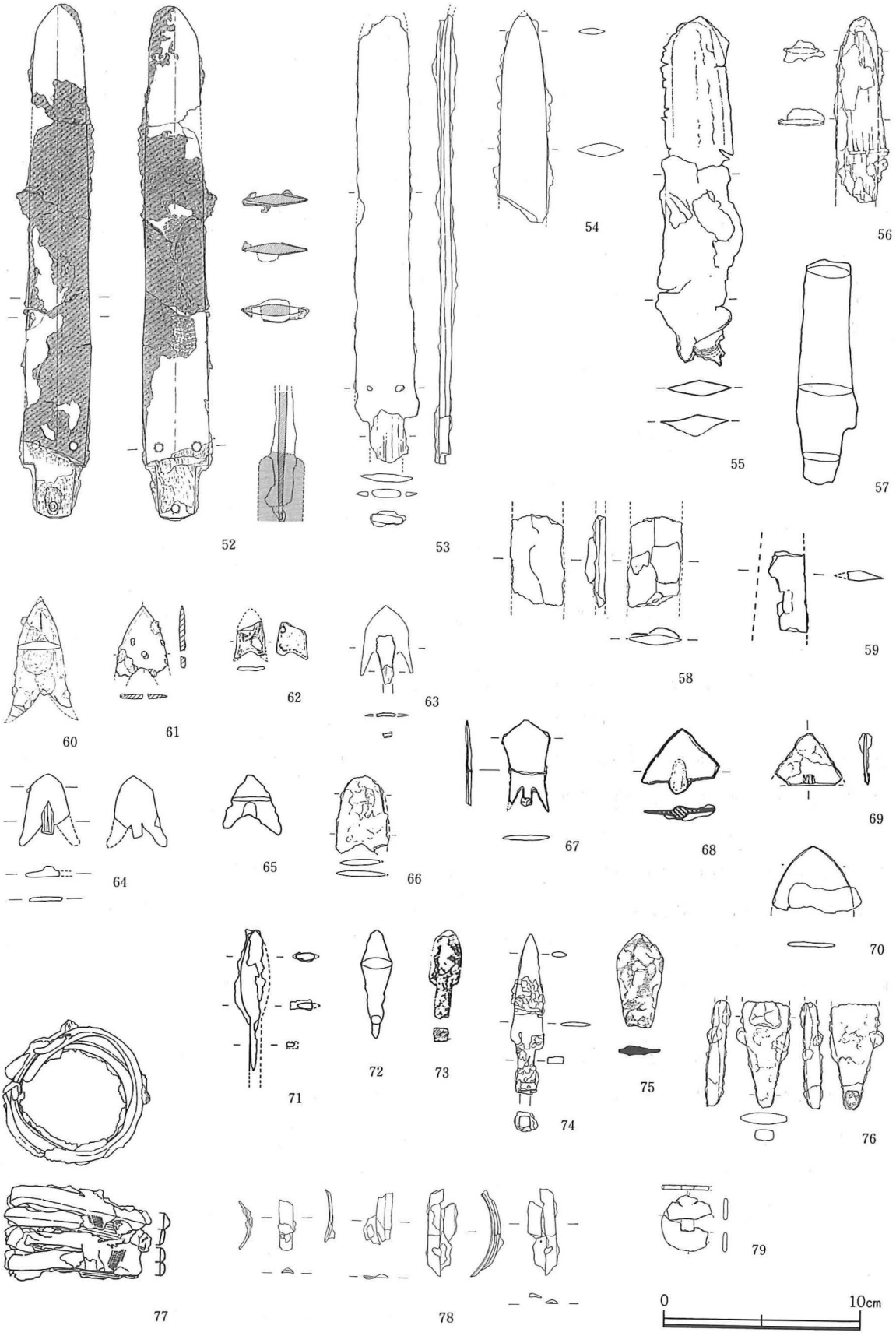
市町村	遺跡名	遺構名	遺物名	数量	時期	図番号	備考	文献No.
横須賀市	三足谷遺跡	12号住居址	鉄鎌	1	古墳前期	48		24
	米の台遺跡	ＳＩ03号住居址	棒状鉄製品	1	弥生中期後半	98		25
	高原北遺跡	１号方形周溝墓　第１主体部	鉄剣	1	弥生後期～古墳前期	56		26
	高原遺跡	Ｙ89号住居	鉄鏃	1	弥生後期～古墳前期	66		26
		Ｙ203号住居址	鉄鏃	1	弥生後期～古墳前期	76		
	矢ノ津坂遺跡	Ｙ15号住居址	楔？	1	弥生中期後半	35		27
平塚市	王子ノ台遺跡	５号方形周溝墓　主体部	鉄剣	1	弥生後期後半	52		28
	真田・北金目遺跡群	２区　SI007	板状鉄器	1	古墳前期	36		29
		８Ｄ区　SDH2008　主体部	鉄剣	2	弥生後期	53、54		30
		29Ｂ区　遺構外	棒状鉄製品（鉄鏃？）	1	弥生中期～古墳前期	93		31
		30Ａ・Ｄ区　SI009	鉄片（刀子？）	1	古墳前期	41		31
	原口遺跡	ＹＨ12号住居址	棒状鉄製品	1	弥生後期後半	97		32
鎌倉市	台山藤源治遺跡	14号住居址	刀子	1	弥生後期後半	37		33
	水道山戸ヶ崎遺跡	４号住居址	鉄製品（鉄鏃？）	1	弥生後期	―	記述のみ	34
		８号住居址	鉄鎌？	1	弥生後期？	―	記述のみ	
藤沢市	稲荷台地遺跡群　Ｆ地点	35号住居址	方孔銭状鉄製品	1	弥生後期後半	79		35
	若尾山遺跡　大道小学校内地点	８号住居址	鉄鏃	1	弥生後期後半	69		36
			刀子	1		44		
	慶應義塾湘南藤沢キャンパス内遺跡	第35号住居址	鉄器片	1	弥生後期末～古墳初頭	100		37
		第42号住居址	棒状鉄製品	1	弥生後期末～古墳初頭	101		
小田原市	諏訪の前遺跡	包含層	鉄鏃？	1	弥生後期後半	75		38
	千代光海端遺跡	６号住居址	棒状鉄製品	1	弥生後期後半	95		39
	千代吉添遺跡第Ｉ地点	鍛冶関連遺物集中	鉄滓	6	古墳前期	―	羽口１点出土	40
			鉄片	2		―		
			棒状鉄製品	1		96		
	千代南原遺跡第Ⅳ地点	１号土坑	鉄滓	2	古墳前期	―	羽口14点出土	41
	下曽我遺跡	範囲確認調査中	袋状鉄斧	1	古墳前期？	23		42
茅ヶ崎市	下寺尾西方Ａ遺跡	Ｙ12号竪穴住居址	板状鉄斧	1	弥生中期後半	13		43
		Ｙ13号竪穴住居址	板状鉄斧	1	弥生中期後半	14		
逗子市	沼間台遺跡	―	板状鉄斧	2	弥生後期	―	記述のみ	47
	菅ヶ谷台地遺跡	32号住居址	鉄鏃	1	古墳前期	64		44
	池子遺跡群　No.２地点	第２号竪穴住居址	鉄鏃	1	古墳前期	67		45
			棒状鉄製品（鉄鏃茎？）	1		92		
三浦市	赤坂遺跡	トレンチ	板状鉄斧	1	弥生中期後半	11		46
		―	板状鉄斧	2	弥生後期後半	―	記述のみ	47

市町村	遺跡名	遺構名	遺物名	数量	時期	図番号	備考	文献No.
三浦市	油壷遺跡	１号住居址	板状鉄斧	1	古墳前期	12		47
		第５号住居址	ヤス	1	古墳前期	49		
	間口洞穴	下層下部（混貝土層）	鉄鏃	1	弥生後期後半	73		48
	毘沙門Ｂ洞穴	第３文化層	釣針	1	弥生後期中葉	50		48
	毘沙門Ｃ洞穴	下層	刀子	1	弥生後期前半	45		48
	雨崎洞穴	―	鉄斧	1	古墳前期	―	記述のみ	47
秦野市	砂田台遺跡	７号住居址	鉇	1	弥生中期後半	31		49
			鑿	4		24～27		
			板状鉄斧	4		17～20		
			刀子	1		38		
			鉄剣加工斧	1		21		
		11号住居址	鉄鎌	1	古墳前期	47		
		70号住居址	鉄鏃	1	古墳前期	63		
		109号住居址	鉇	1	古墳前期	30		50
		146号住居址	板状鉄斧	1	弥生中期後半	22		
厚木市	子ノ神遺跡	134号址	鉇？	1	弥生後期	33		51
伊勢原市	成瀬第二地区遺跡群下粕屋Ｃ地区第２地点	106号住居址	鉄鏃	1	古墳前期	74		52
	三ノ宮・下谷戸遺跡（No. 14）	２号住居址	鉄片	1	弥生後期末～古墳初頭	82		53
			棒状鉄製品	1		94		
	上粕屋・三本松遺跡（No. ７）	６号住居址	不明鉄製品	1	弥生後期末～古墳初頭	88		54
		８号住居址	刀子片	1	弥生後期末～古墳初頭	40		54
	神戸・上宿遺跡（No. 15）	H61号住居址	袋状鉄斧	1	古墳前期	―	（図省略）	55
	上ノ在家遺跡	SI－10	鉄器片	1	弥生後期～古墳初頭	89		56
		SI－64	鉄鏃	1	弥生後期～古墳初頭	70		56
		SI－68	鉄器片	1	弥生後期～古墳初頭	90		56
綾瀬市	神崎遺跡	土器捨て場	鉄鎌	1	弥生後期前半	46		57
寒川町	倉見才戸遺跡	２号住居址	三角形状鉄片	2	弥生後期後半～古墳初頭	80、81		58
			棒状鉄器	3		83～85		
			不明鉄器	2		86、87		
		Ｙ－６号住居址	板状鉄斧	2	弥生後期後半	15、16		59
			鉇?	1		32		
	倉見川端遺跡	３号住居跡	鉇	1	弥生後期後半～古墳初頭	―	記述のみ	60

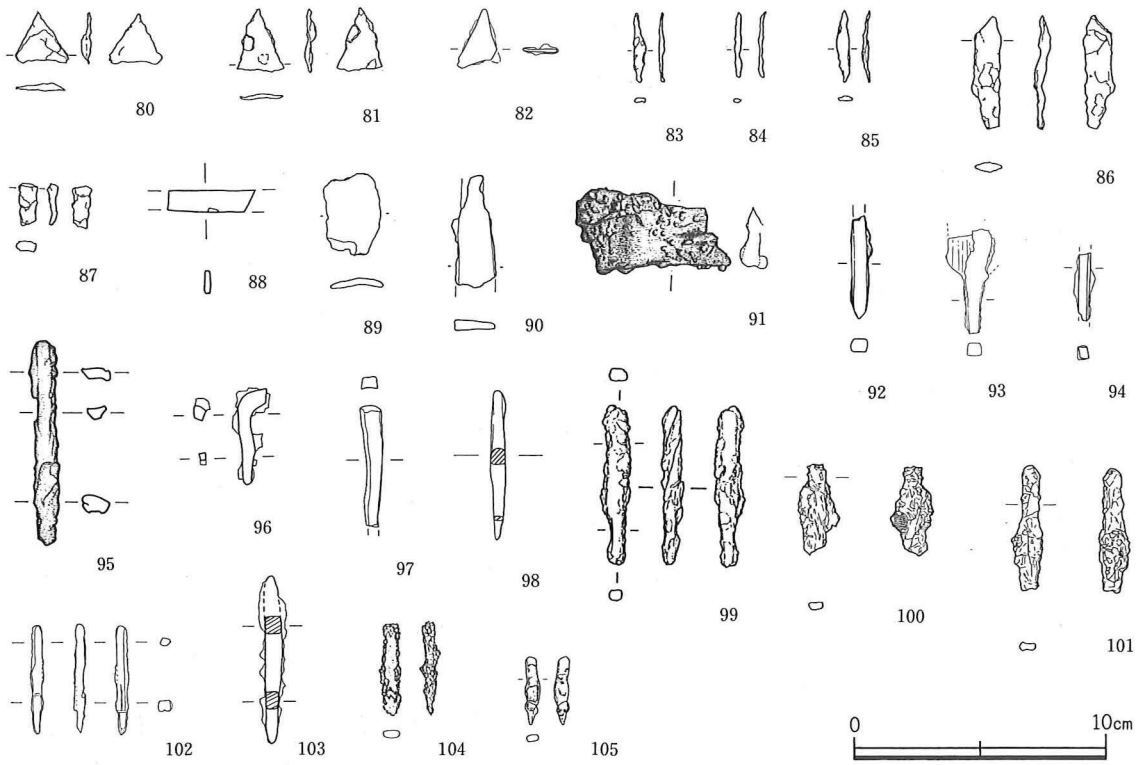
第１図　神奈川県内出土の弥生時代～古墳時代前期鉄器集成（１）－農工具①



第２図　神奈川県内出土の弥生時代～古墳時代前期鉄器集成（２）－農工具②・漁労具



第３図　神奈川県内出土の弥生時代～古墳時代前期鉄器集成（３）－武器・装身具・その他



第４図　神奈川県内出土の弥生時代～古墳時代前期鉄器集成（４）－用途不明品・残欠品

引用参考文献（本文執筆にあたっての下記以外の参考文献は記載省略した）

東　潮　1986「鉄・銅の武器―A鉄剣、B鉄刀、C鉄戈、D鉄矛」『弥生時代の研究』９　弥生人の世界　雄山閣

安藤広道　1996「南関東地方石器～鉄器移行期に関する一考察」『横浜市歴史博物館紀要Vol. 2　横浜市歴史博物館

安藤広道　2000「地域をこえた様相　関東」『考古学リーダー１　弥生時代のヒトの移動～相模湾から考える～』六一書房

岩本　崇　2002「東日本における弥生時代鉄釧の製作背景」『古代文化』Vol.54　(財)古代学協会

大村　直　1997「南関東地方における鉄器の普及過程」『第４回　鉄器文化研究集会　東日本における鉄器文化の受容と展開』発表要旨集　鉄器文化研究会

岡崎　敬　1956「日本における初期鉄製品の問題―壱岐ハルノツジ、カラカミ遺跡発見資料を中心として―」『考古学雑誌』42－１　日本考古学会

川越哲志　1974「弥生時代鉄製工具の研究（Ⅰ）―板状鉄斧について―」『広島大学文学部紀要』33　広島大学文学部

川越哲志　1993『弥生時代の鉄器文化』　雄山閣

久世辰男　2002「弥生時代の南関東の鉄器組成とその意義」『利根川』22　利根川同人

寺沢　薫　2004「弥生時代および古墳時代初期首長墓副葬品一覧」『考古資料大観』第10巻　弥生・古墳時代　遺跡・遺構　小学館

豊島直博　2004「弥生時代における鉄剣の流通と把の地域性」『考古学雑誌』88－２　日本考古学会

平野晋一　1992「大陸系磨製石器類の終焉と鉄製品の普及―関東地方・中部山岳地方―」『第31回　埋蔵文化財研究集会　弥生時代の石器―その始まりと終わり―』第6分冊　埋蔵文化財研究会関西世話人会

村上恭通　1998『倭人と鉄の考古学』　青木書店

報告書等文献（番号は第１表の文献No.に対応）

1．田村良照ほか　1997 『関耕地遺跡発掘調査報告書』 観福寺北遺跡発掘調査団

2．戸田哲也・坪田弘子　2004 『桂台北遺跡発掘調査報告書』 玉川文化財研究所

3．鈴木重信　1989 「権田原遺跡の調査《４》」『港北のむかし』90　港北ニュータウン埋蔵文化財調査団

4．武井則道　2002 『八幡山遺跡』 港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告31 （財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

5．岡田威夫・藤井和夫ほか　1982 『横浜市道高速２号線埋蔵文化財発掘調査報告書』 横浜市道高速２号線埋蔵文化財発掘調査団

6．和島誠一編　1965 『三殿台』 横浜市教育委員会

7．坂本　彰・鈴木重信　1982 「横浜市大原遺跡（新吉田第７）遺跡の調査」『第６回　神奈川県遺跡調査・研究発表会発表要旨』 第６回神奈川県遺跡調査・研究発表会準備委員会

8．河野喜映・宍戸信悟　1985 『山王山遺跡』 神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告８

9．鈴木敏弘　1972 『そとごう遺跡調査概報』 そとごう遺跡調査会

10．小宮恒雄・山田光洋　2003 『四枚畑遺跡』 港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告32 （財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

11．伊藤正義ほか　1986 『奈良地区遺跡群Ⅰ発掘調査報告書（上巻）』 奈良地区遺跡調査団

12．平子順一・鹿島保宏　1989 『観福寺北遺跡・新羽貝塚発掘調査報告』 横浜市埋蔵文化財調査委員会

13．大川　清・渡辺　務　1994 『赤田地区遺跡群　集落編Ⅰ』 日本窯業史研究所報告第45冊

14．大川　清・渡辺　務　1998 『赤田地区遺跡群　集落編Ⅱ』 日本窯業史研究所報告第48冊

15．武井則道編　2001 『E5遺跡』 （財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

16．石井寛ほか　1980 『折本西原遺跡』 横浜市埋蔵文化財調査委員会

17．平子順一・橋本昌幸　1992 『稲ヶ原遺跡Ａ地点発掘調査報告』 （財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

18．中央大学考古学研究会　1973 『小黒谷遺跡発掘調査概報』 中央大学考古学研究会

19．渡辺　務　2003 『寺下遺跡』 日本窯業史研究所報告第60冊

20．持田春吉ほか　1970 「川崎市梶ヶ谷神明社上遺跡発掘調査報告」『高津郷土史料集』第７篇　川崎市立高津図書館

21．持田春吉ほか　1994 『梶ヶ谷神明社上遺跡（第２次）発掘調査報告書』 梶ヶ谷神明社上遺跡発掘調査団

22．竹石健二・野中和夫　1983 「千年伊勢山台遺跡発掘調査報告書」『川崎市文化財調査集録』第19集　川崎市教育委員会

23．岡本　勇・塚田明治ほか　1981 『鳴居上ノ台遺跡』 横須賀市文化財調査報告書第８集

24．玉口時雄・大坪宣雄ほか　1997 『横須賀市吉井・池田地区遺跡群Ⅰ』 横須賀市吉井・池田地区埋蔵文化財発掘調査団

25．平岡和夫・松田正基　1998 『米の台遺跡』 山武考古学研究所

26．大坪宣雄・釼持輝久ほか　2003 『佐島の丘遺跡群発掘調査報告書』 佐島の丘埋蔵文化財発掘調査団

27．吉田政行・新開基史　2006 『高尾横穴墓群・矢ノ津坂遺跡』 かながわ考古学財団調査報告198

28．宮原俊一編　2000 『王子ノ台遺跡　第Ⅲ巻　弥生・古墳時代編』 東海大学校地内遺跡調査団

29．若林勝司・川端清倫ほか　1999 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書１』 平塚市真田・北金目遺跡調査会

30．若林勝司・中島由紀子ほか　2003 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書３』 平塚市真田・北金目遺跡調査会

31．若林勝司・川端清倫ほか　2008 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書６』 平塚市真田・北金目遺跡調査会

32．長谷川厚・加藤久美　2001 『原口遺跡Ⅱ』 かながわ考古学財団調査報告104

33. 手塚直樹・及川良彦ほか　1985 『台山藤源治遺跡』 台山藤源治遺跡発掘調査団
34. 鎌倉考古学研究所　1980 「山崎・水道山戸ヶ崎遺跡」『鎌倉考古』 3
35. 戸田哲也・秋山重美ほか　1996 『稲荷台地遺跡群発掘調査報告書（C・D地点　F地点　S地点）』 稲荷台地遺跡群発掘調査団
36. 継　実ほか　1998 『若尾山（藤沢市No.36）遺跡―藤沢市立大道小学校内地点―発掘調査報告書』 東国歴史考古学研究所
37. 岡本孝之・大野尚子　1992 『湘南藤沢キャンパス内遺跡　第4巻』 慶應義塾藤沢校地埋蔵文化財調査室
38. 杉山博久・湯川悦夫　1971 『小田原市諏訪の前遺跡』 平塚市神田大野遺跡発掘調査団
39. 杉山博久　1984 『西相模における古式土師器の研究（資料編Ⅰ）』 小田原考古学研究会
40. 島崎麻里・諏訪間順ほか　2006 『千代吉添遺跡第Ⅰ～Ⅳ地点』平成15年度小田原市緊急発掘調査報告書３
41. 諏訪間順・立花　実　1987 『千代南原遺跡第Ⅳ地点』 小田原市文化財調査報告書22集
42. 斎木秀雄・降矢順子ほか　2002 『下曽我遺跡　永塚下り畑遺跡Ⅳ地点』 鎌倉遺跡調査会
43. 村上吉正・井澤　純ほか　2003 『下寺尾西方Ａ遺跡』 かながわ考古学財団調査報告157
44. 小出義治　1989 『沼間三丁目遺跡群　沼間ポンプ場南台地遺跡　菅ヶ谷台地遺跡』 沼間三丁目遺跡調査団
45. 桝淵規彰・高村公之　1994 『池子遺跡群Ⅰ』 神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告27
46. 岡本　勇　1977 『三浦市赤坂遺跡』 赤坂遺跡発掘調査団
47. 須田英一・中村勉ほか　2003 『油壷遺跡』 三浦市埋蔵文化財調査報告書第11集
48. 赤星直忠　1953 「海蝕洞窟―三浦半島に於ける弥生式遺跡―」『神奈川県文化財調査報告　第20集』 神奈川県教育委員会
49. 宍戸信悟・上本進二　1989 『砂田台遺跡Ⅰ』 神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告20
50. 宍戸信悟・谷口　肇　1991 『砂田台遺跡Ⅱ』 神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告20
51. 望月幹夫ほか　1990 『子ノ神（Ⅲ）』 厚木市教育委員会
52. 河合英夫・諏訪間伸ほか　2001 『成瀬第二地区遺跡群下粕屋C地区第2・3地点　発掘調査報告書』 成瀬第二地区遺跡調査会・都市基盤整備公団
53. 宍戸信悟・宮坂淳一　2000 『三ノ宮・下谷戸遺跡（No.14）Ⅱ』 かながわ考古学財団調査報告76
54. 宍戸信悟・宮坂淳一　1998 『東富岡・杉戸遺跡（No.38）東富岡・北三間遺跡（No.4)上粕屋・川上遺跡（No.5・6）上粕屋・三本松遺跡（No.7）上粕屋・川上西遺跡（No.8)』 かながわ考古学財団調査報告34
55. 木村吉行・柏木善治　1999 『神戸・上宿遺跡（No.15)』 かながわ考古学財団調査報告57
56. 滝沢　亮・坂口滋皓ほか　1987 『比々多遺跡群』 比々多第一地区遺跡調査団
57. 小滝　勉ほか　1992 『神崎遺跡発掘調査報告書』 綾瀬市埋蔵文化財調査報告２　綾瀬市教育委員会
58. 小林秀満　1999 『倉見才戸遺跡発掘調査報告書　－第３次調査－』 倉見才戸発掘調査団
59. 中村哲也　2004 『倉見才戸遺跡第１次調査発掘調査報告書』 倉見才戸遺跡調査団
60. 池田　治　2007 「倉見川端遺跡」『年報14』（財）かながわ考古学財団

神奈川県における集落遺跡出土の瓦の様相(2)

奈良・平安時代研究プロジェクトチーム

昨年に引き続き、集落遺跡出土の瓦集成を行う。今年度は、相模川以東の県東部の遺跡が対象で、昨年度末までに刊行された報告書を基に集成した。挿表の凡例については、『研究紀要 13』を参照されたい。

例言

1．本研究は、神奈川県内の古代集落遺跡から出土した瓦を集成した。対象とした事例は、遺構から出土したものに限定し、遺構外・遺物包含層から出土した古代瓦は除外している。また、いわゆる古代寺院址や瓦窯出土の事例も本集成では取り扱わないが、寺院の中心伽藍周辺の関連集落遺跡は対象に含めている。
2．本稿で呈示する挿図は、遺存状況の良好な瓦、特殊な調整を施す瓦、軒瓦・道具瓦、特異な出土状況の瓦等を中心に選別したが、出土事例の少ない地域は遺存状況が悪いものであっても取り上げている。
3．瓦の縮尺は 1/6 で統一した。また、表の備考欄には図版番号を明記した。
4．挿表の年代は、出土した遺構の廃絶時期を示し、瓦そのものの製作年代を示している訳では無い。また、年代の表記は基本的に各調査報告書に準拠している。
5．本年度は神奈川県東部(相模川流域以東)の地域を対象とし、平成 20 年 8 月までに刊行された調査報告書を検索した。なお、県西部の集成を行った昨年度以降に刊行された報告書についても、補遺として掲載した。

表　神奈川県内の古代集落遺跡出土瓦(平瓦・丸瓦・その他瓦)集成表

市町村名　遺跡名(－地点)　調査報告書文献								
遺構名	丸瓦	平瓦	その他	出土位置	遺構の年代	共伴土器	備考	図版No.
高座郡寒川町　岡田南河内遺跡(散布地)　井辺一徳他 2008「小出川河川改修事業関連遺跡群Ⅰ」『かながわ考古学財団調査報告 223』かながわ考古学財団								
H1 号旧河道址		1		覆土	不明	土坏 14・土甕 1・ロ坏 5・須坏 1・灰埦 1　他		1
茅ヶ崎市　下寺尾西方Ａ遺跡第 1 次調査(集落・貝塚)　富永富士雄他「下寺尾西方Ａ遺跡」『茅ヶ崎市埋蔵文化財報告 1』茅ヶ崎市教育委員会								
Ⅰ区　H1 号溝	2	9		覆土		土坏 4・須坏？1・須甕 2・灰瓶 1		
茅ヶ崎市　下寺尾西方Ａ遺跡第 5 次調査(集落・貝塚)　村上吉正他 2003「下寺尾西方Ａ遺跡」『かながわ考古学財団調査報告 157』かながわ考古学財団								
H 2 号竪穴住居		1		覆土	8C-Ⅱ	土坏 5・土甕 2・鉄製品 2・羽口 3・石製品 1		
茅ヶ崎市　下寺尾西方Ａ遺跡(集落・貝塚)　井辺一徳他 2008「小出川河川改修事業関連遺跡群Ⅰ」『かながわ考古学財団調査報告 223』かながわ考古学財団								
H1 号道状遺構		3		覆土	古代	須甕 3・土錘 1・鉄製品 1 他		
H2 号溝状遺構	1	2		覆土	10～11C	土甕 2・須甕 1		
H9 号溝状遺構	1			覆土	7C 末～ 8C	土甕 1・ロ坏 5・須瓶 2・灰埦 2		
H11 号溝状遺構		1		覆土	7C 末～ 8C	ロ坏 1		
H4 号土坑		1		覆土	古代～中世	須坏 1		
茅ヶ崎市　下寺尾西方Ｂ遺跡第 1 次調査(集落)　大村浩司他 2004「下寺尾西方Ｂ遺跡」『茅ヶ崎市埋蔵文化財報告 19』茅ヶ崎市教育委員会								
瓦集中遺構	6	4		覆土	古代	鉄製品 2	総数 1100 点・約 87 kg	
茅ヶ崎市　七堂伽藍址第 2 次確認調査(寺院跡・集落)　大村浩司他 2004「下寺尾七堂伽藍址確認調査概報」『茅ヶ崎市埋蔵文化財報告 20』茅ヶ崎市教育委員会								
2 トレンチ竪穴住居		1		竈袖	9C 前	土坏 2・坩堝 1・二彩瓶 1	凹面に指ﾅﾃﾞ文字「十」	4
茅ヶ崎市　七堂伽藍址(集落・寺院跡)　中村哲也他 2005「香川・下寺尾遺跡群　北Ｂ地区・下寺尾廃寺地区・篠谷地区発掘調査報告書」香川・下寺尾遺跡群発掘調査団								
下寺尾地区 8 号竪穴状遺構	1	1		覆土下層	古代			
下寺尾地区 3 号井戸址	1	2		覆土下層・底面直上	8C 前以降	土坏・土甕・須甕・灰埦		
茅ヶ崎市　七堂伽藍址(集落・寺院跡)　小川岳人他 2008「小出川河川改修事業関連遺跡群Ⅱ」『かながわ考古学財団調査報告 224』かながわ考古学財団								
H16 溝状遺構		1		覆土	古代	土坏 1・灰埦 2	模骨文字	2
H81・82 溝状遺構	6	3	1	覆土	7C 中～ 13C	土坏 8・土甕 1・ロ坏 8・須蓋 3・須坏 6・須鉄鉢 1・須瓶 3・須甕 3・灰埦 17・灰皿 2・灰瓶 13・緑埦 3・置竈 3・土錘 4　他	熨斗瓦	
C1 号河道址	9	10		覆土	古代～中世	土坏 21・土皿 1・土甕 2・ロ坏 13・須蓋 1・須坏 5・須瓶 4・灰埦 4・灰瓶 5・緑埦 6・五輪塔 3 他	指ﾅﾃﾞ文字「十」	5
H1・2 号河道址		4		覆土	9C 前～中	土坏 21・土甕 2・ロ坏 9・須蓋 1・須坏 3・灰瓶 1・石製品 1・鉄製品 1・木製品(人形他)他		
遺構外		1					模骨文字	3
茅ヶ崎市　西久保上ノ町(集落)　富永富士雄他 1985「新湘南国道埋蔵文化財調査報告書」新湘南国道埋蔵文化財遺跡調査会								
Ⅰ-5 号竪穴住居址	2				9C	土坏 4・土甕 11・土鉢 1・須坏 7	御殿山産	
茅ヶ崎市　西久保上ノ町(集落)　宍戸信悟他 2003「上ノ町遺跡」『かながわ考古学財団調査報告 143』財団法人かながわ考古学財団								
184 号溝	1			覆土中層	7C 中	土坏 12・土甕 4・須蓋 1・須瓶 1・須甕 1・灰埦 1	混入？	
茅ヶ崎市　小和田巳待田Ｂ遺跡(集落)　大村浩司他 2001「小和田巳待田Ｂ遺跡」『茅ヶ崎市埋蔵文化財報告 14』茅ヶ崎市教育委員会								
第 1 号溝状遺構		1		覆土		土坏 1・灰埦 1・土製品 1		
藤沢市　上ノ原遺跡(集落)　秋山重美他 1997「上ノ原遺跡－県営藤沢渋谷団地内遺跡－」県営藤沢渋谷団地内遺跡発掘調査団								
H14 号竪穴住居	1			覆土上層	9～10C	土坏 4・土甕 18・須坏 8・灰皿 1	一部朱墨痕	
H19 号竪穴住居	4			覆土	9C 前～中	土坏 2・土甕 9・須坏 4・須皿 1		7
H25 号竪穴住居	1			覆土	10C 前	土坏 1・土甕 5・須坏 2・灰埦 3		
H32 号竪穴住居	1			覆土	9C 後	土坏 8・土甕 24・須坏 16・灰埦 7・灰皿 8・締具 1		

H68 号掘立柱建物址	1			覆土	8C	土坏 4・須坏 3・須瓶 1		
藤沢市　No. 372 遺跡（集落址）　寺田兼方他 1999「藤沢市長後上ノ原遺跡 (No. 372) 遺跡発掘調査報告書」藤沢市 No. 372 遺跡発掘調査団								
第 2 号住居		1		覆土	9C 後	土坏 7・土皿 3・土甕 14・須坏 5・須蓋 2・須甕 1・白磁碗 1・鉄製品 2・石製品 1	正格子	6
第 4 ピット群		1		覆土			正格子	
藤沢市　池ノ辺遺跡（集落址？）　池ノ辺遺跡調査会 1980「池ノ辺－神奈川県藤沢市池ノ辺遺跡の調査－」								
第 82 号住居址		1		床面やや上		土師片数点・灰埦 1		
海老名市　国分尼寺北方遺跡　西野和廣 2007『国分尼寺北方遺跡第 29 次調査』ブラフマン								
1 号住居址		4		竈材	9C 後～ 10C 前	土坏 1・土甕 3・須坏 2・須埦 2・須壺？ 1		8・9
海老名市　国分尼寺北方遺跡　三ツ橋正夫他 2002『国分尼寺北方遺跡第 25 次調査』玉川文化財研究所								
3 号住居址		1		覆土下層	9C 中～後	土坏 1・土甕 1・須坏 1・須埦 1		
海老名市　国分尼寺北方遺跡　高杉博章 1998『国分尼寺北方遺跡第 16 次調査』海老名市 No, 35 遺跡調査団								
1 号住居址		2		竈材	9C	土甕 1		10
3・4 号住居址		3		覆土	9C	土坏 2・須坏 5		11
海老名市　望地遺跡　北川吉明他 1984『海老名望地遺跡』海老名市望地遺跡調査団								
1 号竪穴住居址		2			不明			
海老名市　国分尼寺北方遺跡　小林克利他 1998『海老名市望地遺跡・国分尼寺北方遺跡』海老名市遺跡調査会								
1 号住居址	7				8C 後	土坏 3・須坏 1・須蓋 1	図示 5 点	13
3 号住居址		2			10C	土坏 2・須蓋 1	報文のみ	
4 号住居址	3	6		竈・覆土	8C 後～ 9C	土坏 8・土甕 1	図示 6 点	12
7 号住居址	1	2			8C 後	土坏 2・土甕 3		15
8 号住居址		2			8C 後	土坏 1・須埦？ 2	図示 1 点	
9 号住居址	1					土甕 1・須埦？ 1	報文のみ	
1 号掘立柱建物	1			覆土	不明・古代	土坏 2・須壺？ 1		14
2 号掘立柱建物	1	1			不明	土坏 1		
海老名市　国分尼寺北方遺跡 7 次調査　萩上由美子・小林克利他 1996『国分尼寺北遺跡第 7 次・第 8 次調査』国分尼寺北方遺跡調査団								
1 号掘立柱建物	3	2		覆土	9C 前	土坏 6・須坏 2		16
2 号掘立柱建物	3	24		覆土	不明			
3 号竪穴状遺構	1	8		覆土中層	9C 中	土坏 1	図示 3 点	
2 号馬首埋納土坑		4		覆土中層	8C 末～ 9C 初	土坏 2		
1 号溝状遺構		7			8C 後	土坏 6・土製品 1		
2 号溝状遺構	5	14			8C 後～ 9C	土坏 2		17・18
4 号溝状遺構		5			9C 後	須坏 1	図示 1 点	
5 号溝状遺構		7			8C 後	土坏 3	図示 3 点	
6 号溝状遺構	1	7			不明			
1 号竪穴状遺構		2			不明			
海老名市　国分尼寺北方遺跡 8 次調査　萩上由美子・小林克利他 1996『国分尼寺北遺跡第 7 次・第 8 次調査』国分尼寺北方遺跡調査団								
3 号住居址	4	4		覆土	9C 中	土坏 13・須瓶 3	図示 3 点	
4 号住居址	2	16		覆土	9C 末～ 10C 前	土坏 2・土甕 3・須坏 4・須埦 3・須蓋 2		19・20
5 号住居址		1		覆土				
1 号溝状遺構	2	9		覆土	9C 前	土坏 13・須坏 4・須埦 3・須蓋 1・須瓶 1・灰皿 1		21・22
2 号溝状遺構	1	3		覆土				23・24
3 号溝状遺構		21		覆土			図示 6 点 指ﾅﾃﾞ有	25
海老名市 国分尼寺北方遺跡第 16 次調査　高杉博章 1998『国分尼寺北方遺跡第 16 次調査』海老名市No. 33 遺跡調査団								
1 号住居							指ﾅﾃﾞ F?	26・27
海老名市 国分尼寺北方遺跡第 18 次調査　河野喜映他 1998「国分尼寺北方遺跡第 17・18 次調査」『かながわ考古学財団調査報告 61』								
道状遺構	2	6	1	覆土		土甕 1・須恵坏 1・須恵甕 2・灰碗 1・灰皿 1	平瓦指ﾅﾃﾞ「ﾀﾃ 2 条」 軒丸瓦	
海老名市　国分尼寺（北方）遺跡 1 次調査　林原利明 1989『相模国分尼寺関連遺跡第 1 次発掘調査概報』相武考古学研究所								
SI3	1	1			古代		写真のみ	
SI6		2		竈材	9C		写真図版 1 点	
SI8	1			竈材	古代		写真のみ	
SI11	11	1	1	竈材	古代		軒丸瓦	
SI14			1	覆土	9C		軒丸瓦	
海老名市　望地遺跡 6 次調査　相川薫他 1999『望地遺跡第 6 次発掘調査』望地遺跡発掘調査団								
1 号道路状遺構	1	3			古代		報文のみ	
2 号道路状遺構		4			古代		図示 3 点	
3 号道路状遺構		1			古代		報文のみ	
4 号道路状遺構		4			古代		報文のみ	
海老名市　大谷真鯨遺跡　高杉博章他 1992『大谷真鯨遺跡』大谷真鯨遺跡発掘調査団								
1 号掘立柱建物		1			不明			
9 号竪穴		1			9C 中	土坏 1		
7 号竪穴		2			8C 末～ 9C 前	須坏 1		28
海老名市　逆川遺跡　林原利明他 1990『相模国分寺関連遺跡 2』海老名市教育委員会								
	5	31			8・9C		図示 11 点	29・30
海老名市　大谷向原遺跡　加藤久美他 1992『大谷向原遺跡』海老名市遺跡調査会								
141 号住居址		1			10C 前	土坏 2・須坏 6・須埦 5・灰埦 3		
113 号住居址		2			9C 後～ 10C 前	土坏 1・土甕 1・須坏 4		
122 号住居址		1			10C 後	須坏 1		
海老名市　本郷遺跡 KE 地区　合田芳正 1991『海老名本郷』Ⅷ　富士ゼロックス株式会社・本郷遺跡調査団								
8 号掘立柱建物		1			9C 中	土坏 6・須坏 2・須壺？ 1・須甕 2		31
2 号住居址		2		竈材	不明			
23 号住居址		1			9C 末	土坏 4・土甕 7		32
海老名市　本郷遺跡 KOE 地区　大坪宣雄他 1995『海老名本郷』Ⅺ　富士ゼロックス株式会社・本郷遺跡調査団								
114 号土坑		1			10C	土坏 2		33
海老名市　上浜田遺跡　國平健三他 1979『上浜田遺跡』神奈川県教育委員会								
SI001	1	3		床面・覆土上層	9C 末～ 10C 前	土坏 7・土甕？ 2・須蓋 1・須坏？ 1・須埦 1・須壺？ 2・灰皿？ 1		39

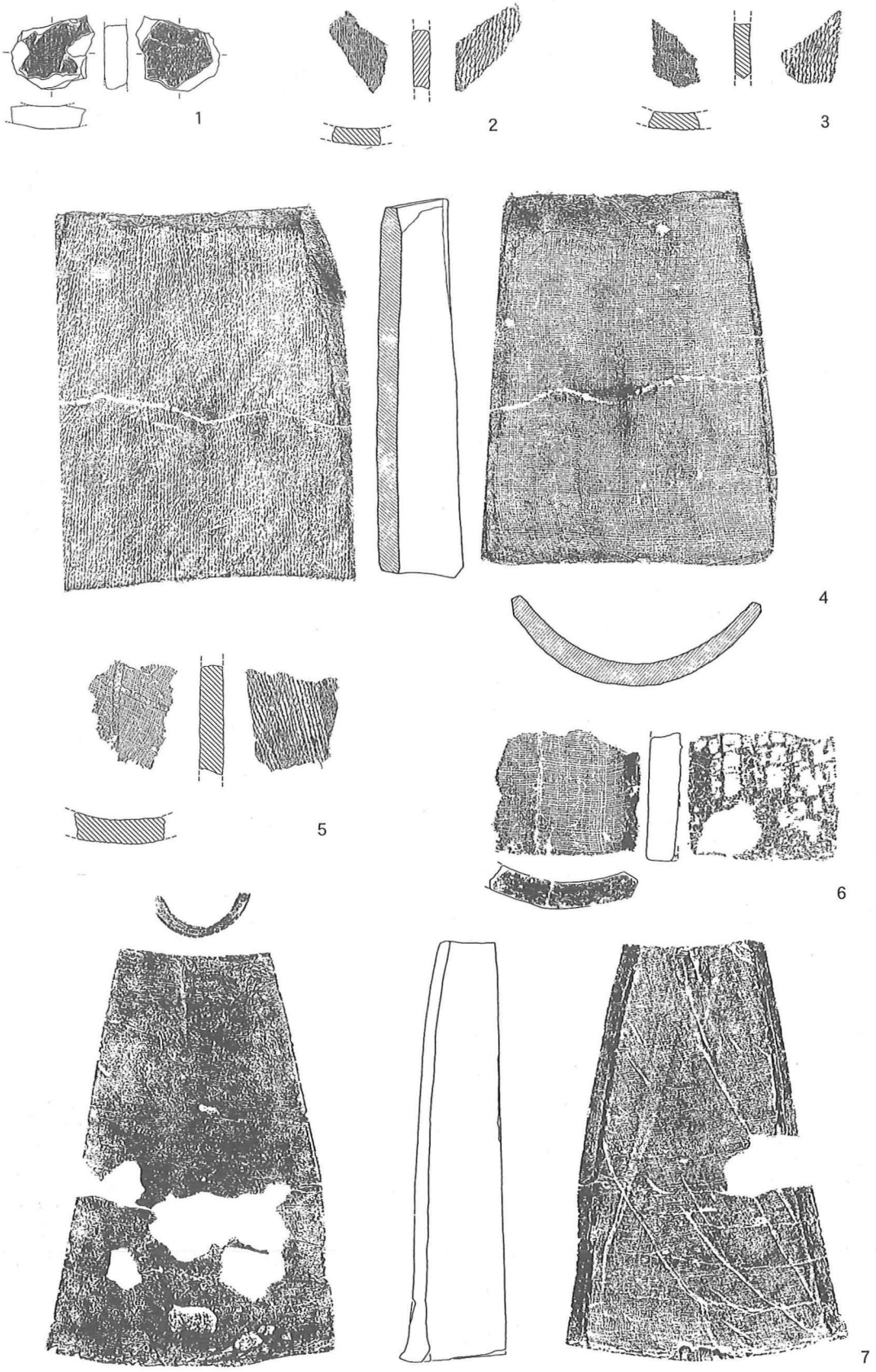
SI002		3		覆土	9C 前	土坏 1・土甕 3・須埦？ 1・須甕 1		
SI003		1		竈（左袖）	8C 中	土甕 6・須蓋 2		
SI004		2		覆土	9C 中	土坏 2・土甕 6・須埦？ 1		34
SI005	3	4		床面・竈材・覆土	9C 末～ 10C	土坏 8・土甕 2・須蓋 4・須坏 22・須埦？ 1・須鉢鉢 2・壺？ 8		35・36・37
SI006	6	9		覆土	9C 末～ 10C 前	土坏 7・土甕 12・須坏 4		40・41
SI014		1		竈構築材	9C 前	土坏 4・土甕 6・須坏 6・須甕？ 1		
SI016	1	11		掘り方・竈材	9C 中	土坏 9・須蓋 11・須坏 8・須埦 3・須皿 2 他あり		
SI017		2		竈材・覆土	9C 後	土坏 9・土甕 3・須蓋 2・須坏 7・須埦 3		
SI018		1		覆土	9C 中	土坏 1・土甕 4・須坏 3・須壺？ 2・須甕？ 2		
SI019		9		竈（支脚）・覆土	9C 中	土坏 20・土甕 2・須坏 26		
SI028	1	3		竈材・覆土	9C 中	土坏 5・土甕 8・須坏 1・須埦？ 2		
SI036		3		竈覆土・竈材	9C 中	土坏 3・土甕 4・須坏 4・須皿？ 1・須埦 1・須甕 1		38
SI038	1	1		床面・竈材	9C 中～後	土坏 5・土甕 5・須坏 2・須埦？ 4・須皿 1・須甕 2・須瓶 1・灰瓶 1		
SI039	1			覆土	8C 後	土坏 3・土甕 4・須坏 2		
SI057		1		床面	8C 後	土坏 1・土甕 5・須蓋 1・須坏 1		
SI069		1		覆土	8C 後	土坏 8・土甕 4・須坏 2		
SI075		2		覆土	9C 後	土坏 7・土甕？ 8・須蓋 1・須坏 7・灰皿 1		
SI076		1		竈材	9C	土甕 1・須坏 1		
SI077		1		竈材	9C 前	土坏 5・須蓋 1・鉄製品？ 1		
SI078	1	2		覆土	9C 前	土坏 20・須蓋 2・須坏 9		
SI101		1		覆土	9C 中	土坏 3・土甕 5・須坏 7・須埦？ 1・須甕 1		
SI113		1		不明	9C 後	土坏 5・土甕 1・須坏 2・須甕？ 2・須瓶 1		
綾瀬市　早川 NO. 100 遺跡　呉地英夫他 2000『早川城山地区遺跡』群　早川城山地区遺跡群発掘調査団								
H1 住居跡	2			覆土下・竈材	9C 末～ 10C 前	土坏 5・土甕 7・須坏 4・須埦？ 1・須壺 1		
綾瀬市　早川 NO. 146 － 1 遺跡　呉地英夫他 2000『早川城山地区遺跡』群　早川城山地区遺跡群発掘調査団								
H2 住居跡	3	4		覆土下・竈材		土坏 2・土甕 2・須埦？ 3・須壺 1・灰皿？ 2 他あり		42 ～ 46
綾瀬市　早川 NO. 13 遺跡　呉地英夫他 2000『早川城山地区遺跡』群　早川城山地区遺跡群発掘調査団								
H17 住居跡	1			覆土	9C 末～ 10C 前	須坏 1		
綾瀬市　宮久保遺跡　國平健三他 1990『宮久保遺跡』Ⅲ　神奈川県立埋蔵文化センター								
SB015	1			覆土	9C 末～ 10C 初	土坏 5・土甕 3・須蓋 1・須坏 3・灰皿 2・灰瓶？ 2		
SI063	4			覆土	8C 後	土坏 5・土甕 6・須坏 1・須壺 1		
SI111	3			覆土	9C 後	土坏 9・須坏 9 他多		47
SI112	1			覆土下層	9C 後	土坏 8・須坏 10 他多		
SI123		3		竈材	9C 末～ 10C 初	土坏 3・土甕 4・須坏 3・灰皿 3 他多		
SI128	1	1		掘り方・覆土	9C 末～ 10C 初	土坏 5・土甕 3・須坏 7・須埦 3・須皿 1・灰瓶？ 1		
SI141	1			覆土	10C 前	土坏 3・土甕 1・須蓋 1・須坏 2・須壺 1・須甕 1・石製品 2	報文のみ	
座間市　平和坂遺跡（集落）　滝澤亮ほか 1993『平和坂遺跡』平和坂遺跡発掘調査団								
第 2 号住居	1			覆土	9C－Ⅰ	須坏 1・須埦 1・坩堝 2・鉄釘 1	工房か？	48
相模原市　田名塩田遺跡群 A 地区（向原遺跡）（集落）　戸田哲也ほか 1999『田名市塩田遺跡群』Ⅰ　田名塩田遺跡群発掘調査団								
H-5 号住居址	2	3		覆土下層	8C 後～ 9C 初	土坏 1・土甕 1・須坏 66・須埦 2・須蓋 9		65
H-8 号住居址	5	1		竈覆土層	9C 前	土坏 8・土甕 6・須坏 3・土竈 1		64・68 ～ 70
H-1 号溝状遺構	2	3		覆土	8C 後～ 10C 前	土坏 28・土皿 7・土甕 4・須坏 107・須皿 3・須蓋 14・須甕 22・須瓶 15・灰埦 22・灰皿 9・灰三足付段皿 1・灰瓶 1・緑埦 1・石製品 2・火舎 2・土錘 13		66・67
相模原市　相原森ノ上遺跡（集落）　香村紘一 2001『相原森ノ上遺跡』相模原市相原五丁目土地区画整理組合								
第 1 号溝状遺構		2		不明	不明	土碗 1・須坏 4・須皿 1・須甕 1・銭貨 6・土製品 1・石製品 1		73
第 6 号溝状遺構		1		不明	不明			
第 2 号住居址	3			不明	9C 後～ 10C 前	土坏 1・土甕 19・須坏 11・須埦 4・須皿 1・須蓋 1・須甕 1・須壺 1・鉄製品 5・土製品 1・石製品 1		72・74・75
相模原市　相原森ノ上遺跡第 10 地点（集落）　香村紘一 2005『相原森ノ上遺跡　第 10 地点発掘調査報告書』相模原市№. 83 遺跡発掘調査団								
1 号住居址		2		不明	10C 前			71
3 号住居址		1		不明	10C 前	土甕 1・土製品		
4 号住居址				不明	不明	土坏 1・土甕 7・須坏 12・須埦 1・須蓋 2	報文のみ	
相模原市　相原八幡前遺跡（集落）　香村紘一 2002『相原八幡前遺跡』相模原市相原四丁目土地区画整理組合								
第 2 号住居址	3			不明	9C 後～ 10C 前	土坏 5・土埦 3・土甕 2・須坏 2		49
第 1 号溝状遺構				不明	不明		報文のみ	
第 2 号溝状遺構				不明	不明		報文のみ	
相模原市　相模原市№. 141 遺跡（集落）　1994「埋蔵文化財発掘調査概報集」『相模原市埋蔵文化財調査報告 19』相模原市教育委員会								
第 2 号住居址		1		不明	不明	土甕 4		
相模原市　相模原市№. 266 遺跡（集落）　柳谷博・山崎雅浩・工藤敏久 1989『矢掛・久保遺跡の調査』矢掛・久保遺跡調査会								
2 号住居址				不明	10C 中～後	土甕 2・須坏 7	報文のみ	
相模原市　橋本遺跡（集落）　土井博・青木豊 1983「歴史時代編」『橋本遺跡』Ⅲ　相模原市橋本遺跡調査会								
SI70		1		覆土	不明	須坏 1		
相模原市　橋本遺跡（集落）　土井博・青木豊 1984『橋本遺跡』Ⅴ　相模原市橋本遺跡調査会								
SI03	4			床面	10C 中	土坏 1・土甕 24・須坏 38・須甕 1		
SI06	2	1		確認面・覆土	10C 中	土甕 1・須坏 7・須甕 1		
相模原市　橋本遺跡（集落）　土井博・青木豊 1986『橋本遺跡』Ⅷ　相模原市橋本遺跡調査会								
SI71		1		覆土	8C 後	土坏 28・土甕 8・須坏 7・須埦 1・鉄製品・石製品 1		
SI72	11	6		覆土・竈覆土	10C－Ⅲ～Ⅳ	土甕 15・須坏 16・須皿 2・須埦 1・須壺 2・須甕 2		50 ～ 52
SI73	5			覆土	10C－Ⅱ	土坏 2・土甕 16・土甑 1・須坏 41・須皿 1・須埦 1・須鉢 1・須蓋 14・須壺 3・須瓶 1・須甕 2・須甑 1・羽口 1・鉄製品 1		
SI75		1		覆土	9C－Ⅰ～Ⅱ	土坏 6・土甕 12・須坏 19・須コップ 1・須蓋 5・須瓶 2・須甕 1・土錘 1・鉄製品 2		
SI77	2			覆土	8C 後	土甕 1・須坏 1・須甕 2・鉄製品 1		
SI78	1			覆土	不明	土甕 2		
SI82	4			覆土・竈覆土・竈（左袖）	10C－Ⅱ～Ⅲ	土甕 9・須坏 13・須皿 1・須蓋 5・須甕 3・石製品 1		57
SE01	12	3		覆土	10C 後	須坏 2・須甕 4		53・54
SE02		1		不明	不明			
SK005		1		不明	不明	陶器 1		55

SK042		1		不明	不明			
遺構外		1					模骨文字「山万」	56
相模原市　相原二本松遺跡（集落）　青木豊ほか 1979『相原二本松遺跡発掘調査報告書』相原二本松遺跡発掘調査団								
第 2 号住居址		2		覆土	10C 後	土坏 4・土甕 23・須坏 16・須鉢 1・須瓶 1		
相模原市　小山矢掛遺跡（集落）　江藤昭ほか 1983『小山矢掛遺跡』相模原市小山矢掛遺跡発掘調査団								
		2		竈覆土	不明		報文のみ	
第 12 号竪穴住居址		1		不明	不明			
相模原市　相原田ノ上遺跡（集落）　青木豊ほか 1980『相原田ノ上遺跡発掘調査報告書』相原田ノ上遺跡発掘調査団								
第 4 号住居址	2	1		不明	10 ～ 11C 前	土坏 3・土甕 10・土甑 1・須坏 3・須埦 1・須甕 3		
第 6 号住居址	5	2		竈覆土	10 ～ 11C 前	土坏 4・土埦 1・土甕 9・須坏 3・須甕 1		
第 9 号住居址	2			不明	10 ～ 11C 前	土坏 2・土甕 4・須坏 10・須皿 1・須埦 1・須甕 3・鉄製品 2		
第 10 号住居址	1			不明	9C 後	土甕 1・須坏 4		
第 11 号住居址		1		不明	10 ～ 11C 前	土坏 3・土甕 11・須坏 4・須埦 2・鉄製品 1		
第 13 号住居址		2		覆土	10 ～ 11C 前	土坏 4・土甕 15・須坏 8・須埦 1・須瓶 1・須甕 1・須甑 1・鉄製品 4・石製品 1		
溝状遺構		2		覆土	不明	土坏 4・土甑 1・須坏 2・須壺 1		
相模原市　矢掛久保遺跡（集落）　柳谷博・山崎雅浩・工藤敏久 1989『矢掛・久保遺跡の調査』矢掛・久保遺跡調査会								
2 号住居址				覆土	8C 初	土坏 32・土埦 1・土甕 29・土壺？ 1・須坏 1・須蓋 1・灰埦 1・鉄製品 1・石製品 2	報文のみ	
4 号住居址				覆土	不明	土坏 2・土埦 ?2・土甕 4・須瓶 1・土竈 1・石製品 3	報文のみ	
7 号住居址		1		不明	8C 初	土坏 3・土甕 12・土壺 ?1・土甑 ?1・須蓋 1	粘土塊付着	
8 号住居址	2	3		竈（右袖・左袖）不明	10C 初～中	土坏 7・土甕 16・須坏 18・須皿 1・須埦 8・須蓋 2・須甕 2・石製品 3・種子 1		58・62・63
16 号住居址		3		覆土上層・下層	10C 中～後	土坏 10・土埦 ?1・土甕 18・須坏 19・須皿 1・須埦 4・須瓶 1・鉄製品・石製品 3		
22 号住居址	1			不明	9C 中～末	土坏 3・土甕 7・須坏 11・須埦？須蓋 1・須壺 1・須甕 2・鉄製品 2・石製品 2	報文のみ	
23 号住居址	1			覆土中～上層	10C 初～中	土坏 1・土甕 14・須坏 19・須皿 2・須埦 2・鉄製品 1・石製品 1		
26 号住居址		1		確認面	8C 末～ 9C 初	土坏 33・土埦 1・土鉢 ?3・土壷 1・土甕 36・土甑 4・須坏 6・土蓋 2・須壺 1・須瓶 1・須甕 3・鉄製品 5・土紡錘車 1・磨石製品 5・種子・墨状遺物		
28 号住居址		1		不明	10C 中～後	土坏 1・土埦 ?1・土甕 14・土甑 1・須坏 18・須皿 1・須埦 ?1・須蓋 1・須甕 1・竈支脚石 1・桃種子 1		
33 号住居址	1	1		竈覆土	不明	土坏 2・土甕 4・須坏 2・須蓋 1・鉄製品 1・羽口 1		59
34 号住居址	1	1		不明	10C 中～後	土坏 2・土甕 5・須坏 10・須皿 2・須埦 ?2・須蓋 1・須瓶 ?2・須甕 ?1		60
5 号掘立柱建物址		3		確認面	不明	土坏 15・土甕 21・須坏 10・須皿 2・須埦 5・須蓋 1・須瓶 1・須壺 ?1・灰瓶 1・鉄製品 2・石製品 6		
22 号掘立柱建物址				不明	不明	土甕 3・須坏 3・須蓋 1・石製品 1	報文のみ	
4 号溝				不明	不明	土甕 1・須坏 4・須皿 3・須埦 3・須甕 4・須瓶 4・瓦塔 1・鉄製品 1・石製品 4	報文のみ	
土器棄場状遺構	1			不明	不明	土坏 2・土甕 9・須坏 29・須皿 2・須埦 1・須蓋 2・石製品 2		
（遺構外）			1	Ⅱ層	不明		唐草文字瓦	61
相模原市　No. 266（集落）　柳谷博・山崎雅浩・工藤敏久 1989『矢掛・久保遺跡の調査』矢掛・久保遺跡調査会								
2 号住居址		2		不明	不明	土甕 2・須坏 7		
鎌倉市　由比ヶ浜中世集団墓地（集落址）　大河内勉他 1997「由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書－由比ヶ浜四丁目 1136 番地地点（KKR 鎌倉若宮荘）第 1 次調査）」由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団								
竪穴住居址 1・5		1		竈		土坏 5・土甕 9・須坏 7・須甕 2		
竪穴住居址 7	1	8		覆土	8C－Ⅱ～Ⅲ	土坏 8・土甕 16・須甕 1・須瓶 1・鉄製品 2	下寺尾型含	76・82・83
竪穴住居址 8	1	4		覆土	9C－Ⅰ	土坏 5・土甕 9・須坏 4・須瓶 1・骨製品 2		
貝塚状遺構 1	1	8			8C－Ⅱ	土坏 22・土甕 42・須坏 4・須蓋 4・須甕 2・土製品 2・卜骨 12	平瓦完形含	80・86
鎌倉市　今小路西遺跡（御成小学校内）　吉田章一郎ほか　1990『今小路西遺跡（御成小学校内）発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会								
第 2 基壇	2	2		不明	9C 中？	須蓋 3・須坏 1・須埦 1・須甕 2・石製品 3		88
古代溝 3		1		不明	不明			
古代溝 3or4		4		不明	不明		遺構の重複により、どちらに帰属するか不明	
鎌倉市　由比ヶ浜中世集団墓地遺跡（由比ヶ浜四丁目 4 番地 30 号地点）　宮田真・高野昌巳・森孝子・滝澤晶子　1996『由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書　由比ヶ浜四丁目 4 番地 30 号地点』鎌倉市教育委員会								
古代土壙 2		1						
瓦溜り		9			不明	土甕 1		78
鎌倉市　由比ヶ浜中世集団墓地（集落址）　大河内勉　他　1996「由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書」－鎌倉市由比ガ浜四丁目 1134 番地における古代および中世遺跡の埋蔵文化財調査報告　由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団								
竪穴住居址 9		2			9C 前	土坏 11・土甕 5・須坏 4・骨製品 10		
竪穴住居址 11		1			9C 後	土坏 6・土甕 9・須坏 6・須蓋 1・鉄製品 1・骨製品 1・石製品 2		
竪穴住居址 12	1	少々			8C 末～ 9C 初	土坏 17・土甕 6・須坏 10・須蓋 2・鉄製品 4・骨製品 25・石製品 4		
竪穴住居址 16		1			8C 末～ 9C 前	土坏 3・土甕 4・須坏 5・須蓋 2・須壺 1・鉄製品 2・骨製品 5・土製品 1		
竪穴住居址 17	1	1			9C 前	土坏 14・土甕 16・須坏 13・須蓋 1・須瓶 3・土製品 2・石製品 3・骨製品 20・卜骨 2		
竪穴住居址 35		2			10C 前	土坏 6・土甕 7・須坏 5・須瓶 4・石製品 1・卜骨 1		
竪穴住居址 36	1				11C 前	土坏 3・土甕 5・須坏 2・須甕 3・石製品 1		
ピット 116		1			8C 末～ 9C 前			
貝塚状遺構	2	17			8C 前～後	土坏 53・ロ坏 2・土甕 22・須坏 28・須蓋 1・須瓶 4・須甕 11・灰埦 2・鉄製品 1・土製品 3・卜骨 1	乗越産あり	77・79・85
土坑 2		1			9C 後半以降	土坏 1・土甕 2・須坏 2		
今小路西遺跡（No. 201）　菊川英政・長澤保崇・宗臺富貴子・田畑恵里　2008『今小路西遺跡（No. 201）発掘調査報告書』齊藤建設								
古代掘立柱建物 2	1	2		P.3・7	不明			89・91
古代掘立柱建物 5		2		P.1	不明	土坏 1		
古代掘立柱建物 7	1			P.4・12	不明	土甕 1・須坏 1・紡錘車 1		

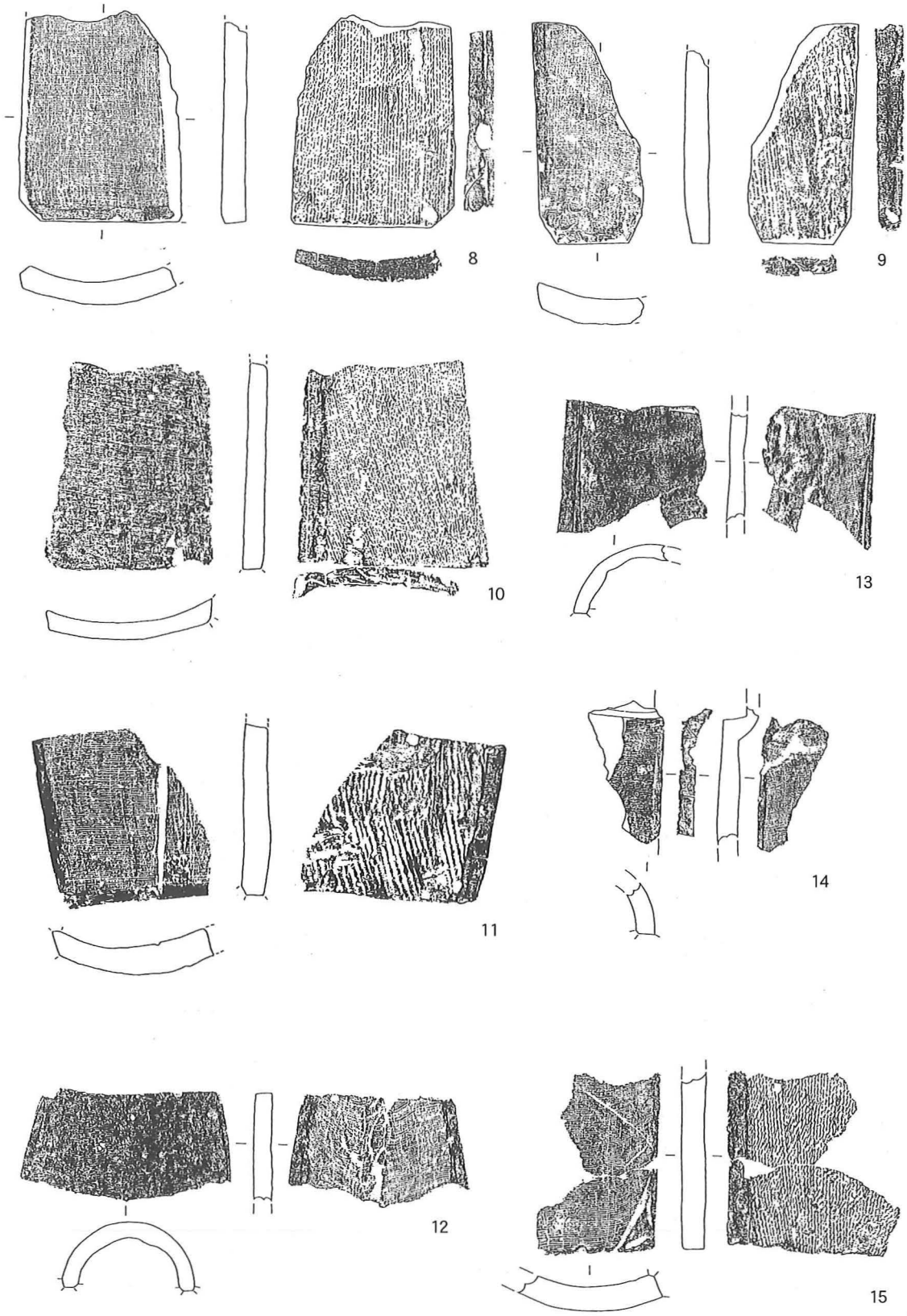
古代掘立柱建物 8	1			P.1・5・11	不明	土甕 2		
古代掘立柱建物 9	4	19				土坏 1・須蓋 1・須瓶 1		
古代掘立柱建物 10		1				土坏 1・須坏 1		
古代 P.1		1		礎板(根固め)		土坏 1・土盤 1		
古代 P.4	1	3		礎板(根固め)		須坏 1		90
古代 P.5	3	1		礎板(根固め)				
古代 P.6		1		不明		土盤 1・須坏 1		
古代 P.7	1	1		礎板(根固め)				
古代溝 1		2				土盤 1・須坏 1		81
古代溝 2		3				須坏 1		
古代溝 3		5		不明	不明			
古代溝 5		2				土坏 2		87
古代溝 9	2	4				土坏 3・土甕 2・須坏 2・須瓶 1・須甕 1		84
古代溝 10		2				土甕 2		
逗子市　池子遺跡群No. 1-C 地点　桝渕規彰他 1996「池子遺跡群Ⅲ」『かながわ考古学財団調査報告 11』かながわ考古学財団								
3 号溝状遺構		1		覆土	9C 前～中	須蓋 6・須坏 8・土坏 16		92
葉山町　三ヶ岡遺跡(集落)　長谷川厚他 2001「三ヶ岡遺跡Ⅰ」『かながわ考古学財団調査報告 111』かながわ考古学財団								
土器廃棄遺構 E4-16 区		1		覆土		口坏 3・須坏 1・灰埦 1・土甕 24・須甕 1・石製品 3	凹面・破面摩耗	93
横須賀市　コウロ遺跡　玉口時雄他 1997『横須賀リサーチパーク計画基盤整備事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書』同遺跡調査団								
4d 号住居跡	1			竈	9C 中～後	土坏 1・口坏 4・口皿 2・須坏 5・須蓋 1・土甕 6・須鉢 1・須瓶 1・須甕 5・石製品 1		94
横浜市　薮根不動原遺跡(集落)　須山幸雄・平子順一・廣瀬有紀雄・鈴木重信　1981『薮根不動原遺跡』横浜市埋蔵文化財調査委員会								
15 号土坑		1		覆土		鉄製品 2	工房か？	96
横浜市　薮根不動原遺跡(集落)　大坪宣雄他 2007『横浜市都筑区 薮根不動原遺跡』池辺町不動原土地区画整理組合・薮根不動原遺跡調査団								
1 号道状遺構	2	8		覆土		土坏 3・須蓋 1・須甕 5・瓦塔 8		
横浜市　関耕地遺跡(集落)　戸田哲也・田村良照他　1997『横浜市観福寺北遺跡群　関耕地遺跡発掘調査報告書』観福寺北遺跡発掘調査団								
51 号住居址		1		竈覆土	10C 前	土坏 3・土甕 3・須坏 1・須埦 2		95
横浜市　奈良地区遺跡群No. 11 地点 受地だいやま遺跡　伊藤正義・工藤年泰 1986『奈良地区遺跡Ⅰ』奈良地区遺跡調査団								
第 140 号住居址	6			竈他		土坏 1・土甕 1・須坏 2・須甕 1		97・98
第 141 号住居址	2	2		竈		土坏 4・土甕 1・須坏 4		99・100
第 3 号溝	1			覆土		須坏 2		
影向寺台遺跡第 1 地点(集落)浅川利一他 1996「川崎市宮前区影向寺台遺跡発掘調査報告書」『川崎市文化財調査集録 33』川崎市教育委員会								
7 号住居跡	1				8C-Ⅱ	土坏 1・須坏 1		
黒川地区遺跡群Ⅶ宮添遺跡(集落)　玉口時雄他 1995「上ノ町遺跡Ⅱ」『黒川地区遺跡群報告書Ⅶ』住宅・都市整備公団 黒川地区遺跡調査団								
5a 号住居跡	1	1		竈覆土	10C 前	土坏 1・土甕 5・須蓋 1・須坏 7・須埦 1・須鉄鉢 1		101・102
22a 号住居跡	3	1		竈覆土	9C-Ⅱ	土坏 15・土甕 3・須坏 14・須瓶 2		
野川東耕地遺跡第 2 地点　2000『川崎市宮前区野川東耕地遺跡第 2 地点発掘調査報告書』野川東耕地遺跡第 2 地点発掘団								
2 号住居跡	1			覆土	平安時代	土坏 1・土甕 2・須坏 1・須皿 1		
岡上－4 遺跡　呉地英夫 1998『岡上 -4 遺跡発掘調査報告書』岡上 -4 遺跡遺跡調査団								
H4 号住居跡	1	3	1	竈覆土	8C 後	土坏 2・土甕 1・須蓋 1・須坏 1	行基軒丸	103・106
岡上－4 遺跡第 2 地点　呉地英夫他 2001『岡上 -4 遺跡第 2 地点発掘調査報告書』岡上 -4 遺跡遺跡調査団								
H5 号住居跡	2	12		覆土下層	9C-Ⅱ	土坏 7・土鉢 1・土甕 4・須蓋 1・須坏 6		104・109～113
H8 号住居跡	2	1		覆土上層	8C-Ⅱ	土坏 18・土鉢 1・土甕 6・須坏 5・須鉢 1・須瓶 1・須甕 1		
H12 号住居跡	5	11		覆土・竈(覆土・構築材)	8C-Ⅱ	土坏 8・土甕 2・須坏 1		105・107・108・114・134
H17 号住居跡	8	27	5	床面・覆土・竈(覆土・構築材)	8C-Ⅱ	土坏 51・土盤 1・土甕 11・須蓋 6・須坏 5・須盤 1・須甕 1	軒丸瓦(単弁八葉蓮華文 2・剣菱文 1)、軒平瓦(唐草文 2)	115～121・123～125・127～130
H19 号住居跡	6	3		覆土上～下層	8C-Ⅱ	土坏 6・土甕 2・須蓋 6・須坏 4・須盤 1・須瓶 1・須甕 1		122
H22 号住居跡	1	5		覆土・竈覆土	8C-Ⅱ			126
H24 号住居跡			1	覆土下層	8C-Ⅱ	土坏 8・土甕 2・須坏 1・羽口 1	熨斗瓦	
影向寺遺跡　大坪宣雄他 1986『影向寺遺跡第 2 次発掘調査報告書』影向寺遺跡調査団								
第 8 号住居跡	1	1		竈材	8C-Ⅱ	土坏 14・土甕 5・須坏 1・鉄製品 1		
千年伊勢山台遺跡　戸田哲也他 2005『武蔵国橘郡衙推定地 千年伊勢山台遺跡』川崎市教育委員会								
SD01		1		覆土	8C 後	須坏 1		
影向寺遺跡　服部隆博他 2007『影向寺遺跡第 12 次発掘調査報告書』玉川文化財研究所								
第 10 号住居跡	1	2		カマド	9C-Ⅲ	土坏 3・土甕 1・須蓋 1・須坏 2・須鉄鉢 11		131～133

補遺（県西部）

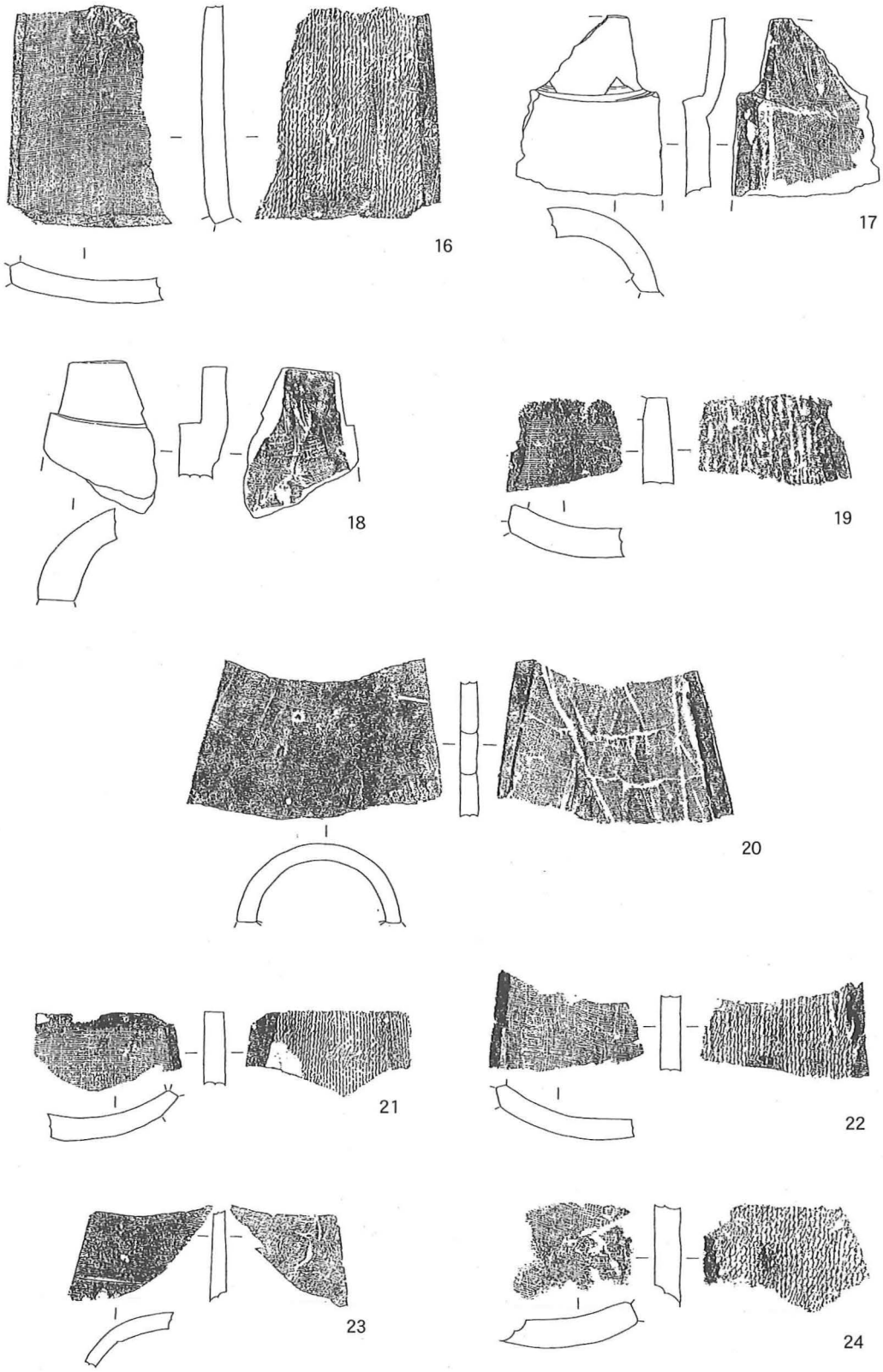
小田原市　千代南原遺跡（第 XV 地点）　滝澤亮ほか　2008『神奈川県小田原市　千代南原遺跡第 XV 地点　千代南原遺跡第 XIX 地点』株式会社盤古堂								
第 1 号建物址			1		10C 第 2 四半期	土坏 1・鉄製品 2	軒平瓦（飛雲文）	135
第 1 号特殊遺構	3	6	1		10C 前半台？	土坏 40・土甕 2・灰埦 2・灰壺 1・鉄製品 3	軒平瓦（瓦当面欠損）	
第 2 号特殊遺構			1		7C 後～ 8C 前	土坏 3		
遺構外			1				軒平瓦(蓮弁)	
遺構外			1				軒平瓦（蓮弁・圏線）	
遺構外			1				軒平瓦（蓮弁・圏線）	
遺構外			1				軒平瓦（蓮子10以上）	
遺構外			1				軒平瓦（三重圏線）	
遺構外			1				軒平瓦（三重圏線）	
厚木市　上依知上谷戸遺跡（集落）　栗原伸好他 2007『上依知上谷戸遺跡』かながわ考古学財団								
H 2 号竪穴住居址		2		竈覆土	10C 中	灰埦 2・土坏 1・土甕 5・鉄製品 2		
18 号土坑		1		覆土				
82 号土坑		1		覆土				
遺構外		3					模骨 1「上」	136
平塚市　山王Ａ遺跡－第 4 地点－（官衙）　平塚市教育委員会 2006『山王Ａ遺跡－第 4 地点－』平塚市埋蔵文化財シリーズ 41								
SF01		1		覆土		土坏 1・ロ坏 1・須甕 2		
SH01		2		覆土				
P121		1		覆土		鉄製品 4		
平塚市　湘南新道関連遺跡Ⅰ（官衙）　飯塚美保他 2007『湘南新道関連遺跡Ⅰ』かながわ考古学財団調査報告 208								
NH14 号住居	1	2		覆土	10C 前	土坏 14・ロ坏 5・土甕 6・須坏 5・灰埦 4・須甕 1		
NH10 号掘立	1			覆土	9C 中～後	土坏 8・ロ坏 2・土甕 4・須坏 10・灰埦 4・須甕 3		
NH9 号掘立	2			覆土	9C 中～後	土坏 6・土甕 5・須坏 4・灰埦 1		
NH34 号住居		1		覆土	9C 中～後	土坏 16・ロ坏 3・土甕 21・須坏 16		
NH1 号井戸		1		覆土	10C 後	ロ坏 2・土甕 1		
NH6 号溝		1		覆土		土坏 2・ロ坏 2・土甕 1・須坏 1		
NH2 号溝		1		覆土		土坏 2		
NH11 号掘立		1		覆土				
NH5･6 号竪穴		1		覆土	8C 後～ 9C 前	土坏 54・土甕 31・須坏 29・灰埦 4・須甕 3		
NH18 号住居		1		覆土	8C 中	土坏 45・ロ坏 3・土甕 43・須坏 35・須甕 8・灰瓶 3		
平塚市　湘南新道関連遺跡Ⅲ（官衙）　柏木善治他 2007『湘南新道関連遺跡Ⅲ』かながわ考古学財団調査報告 210								
NH3 号住居		2		覆土	9C 前	須坏 8・緑埦 2・土坏 38・土甕 9		
NH20 号住居		1		覆土	8C 後			
NH1 号鍛冶工房		3		覆土	9C 後～			
NH17 号住居		1		覆土	8C 前	土坏 2・土甕 2・土製品 1		
NH15 号住居		1		覆土	7C 後	須蓋 1		
NH26 号住居		1		覆土	10C 前	土坏 2・土甕 2・須瓶 1		
NH28 号住居		3		覆土	9C 後	灰埦 1・須瓶 1・土坏 12・土甕 4		
平塚市　真田・北金目遺跡群 12B 区（集落）　若林勝司他 2008『真田・北金目遺跡群発掘調査報告書 6 第 1 分冊』平塚市真田・北金目遺跡調査会他								
SI1001		1		覆土		土甕 1・ロ坏 1		
平塚市　真田・北金目遺跡群 30A･D 区（集落）　若林勝司他 2008『真田・北金目遺跡群発掘調査報告書 6 第 2 分冊』平塚市真田・北金目遺跡調査会他								
SI059		1		覆土	9C 後～ 10C 前	土坏 11・ロ坏 1・土甕 6・須坏 3・灰埦 2・石製品 2・土製品 1・鉄製品 4	大住瓦窯	
SI062		1		覆土	9C 後～ 10C 前	土坏 5・土甕 8・須坏 2・土製品 1・石製品 3		
海老名市 国分尼寺北方遺跡第 31 次調査　千田利明 2007『国分尼寺北方遺跡第 31 次調査』　有限会社ブラフマン								
1 号住居址	1	1		覆土	平安	土坏 2・土甕 6・須坏 3・須甕 1・石製品 4	図示 2 点	



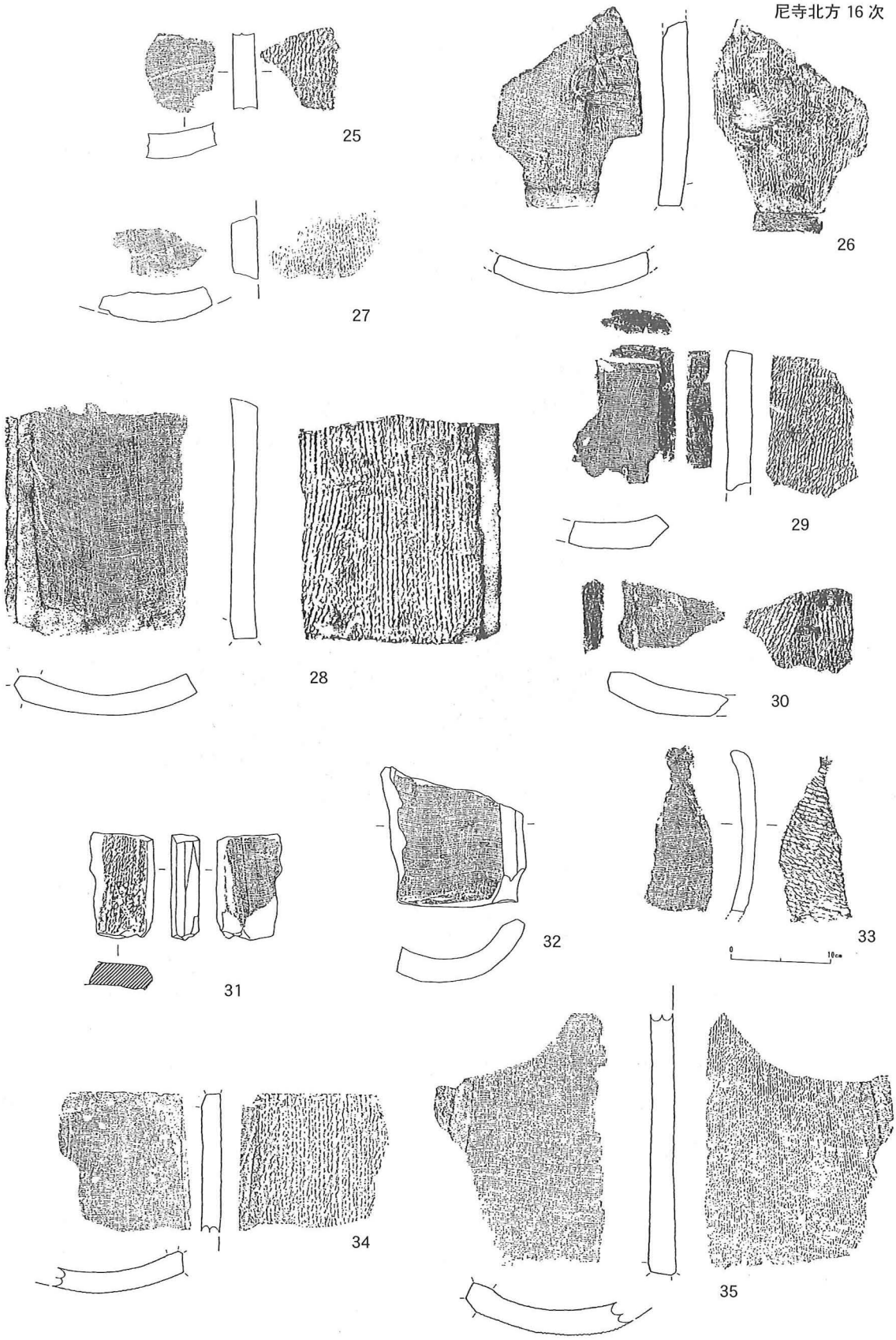
第1図　瓦集成県東部　①（S=1/6）



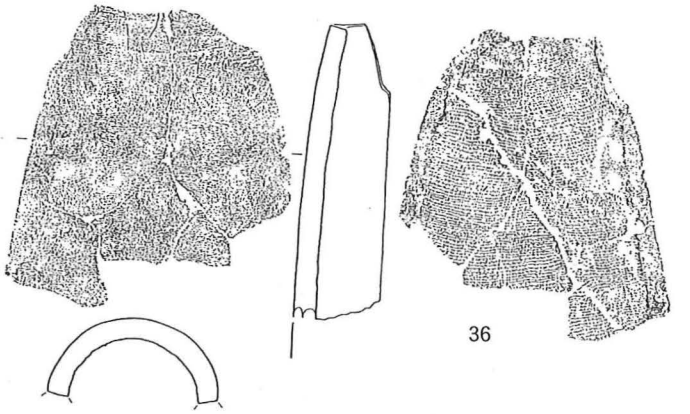
第2図　瓦集成県東部　②（S=1/6）



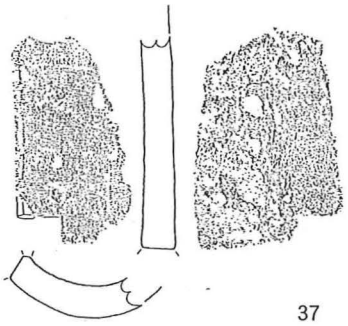
第3図　瓦集成県東部　③（S=1/6）



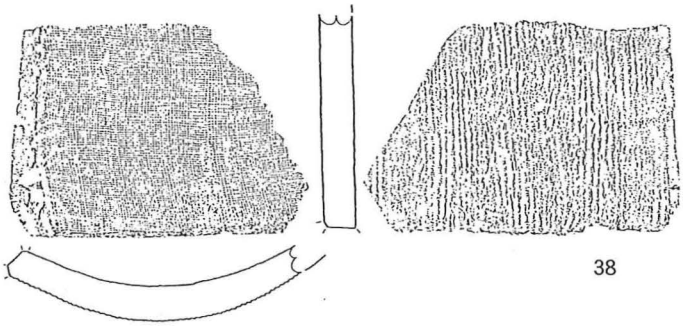
第 4 図　瓦集成県東部　④ (S=1/6)



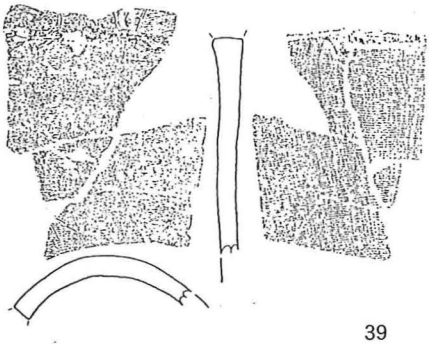
36



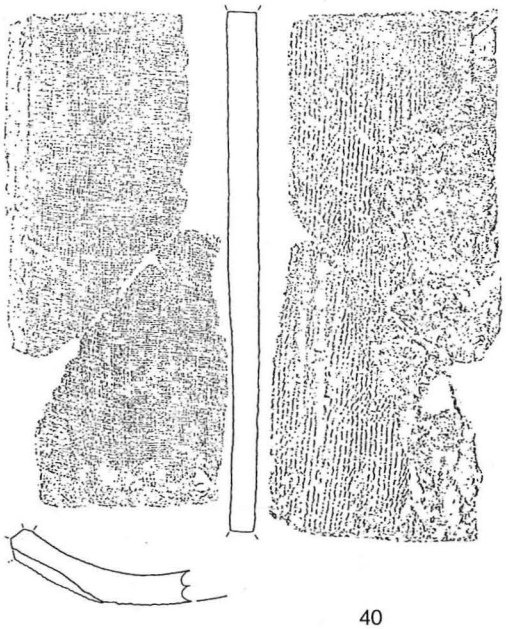
37



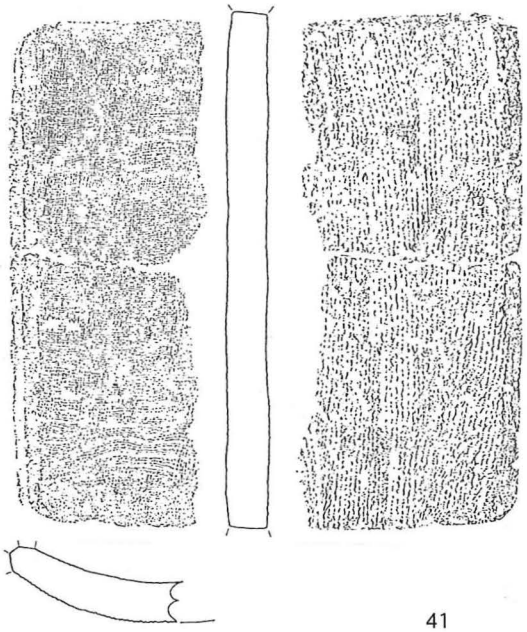
38



39

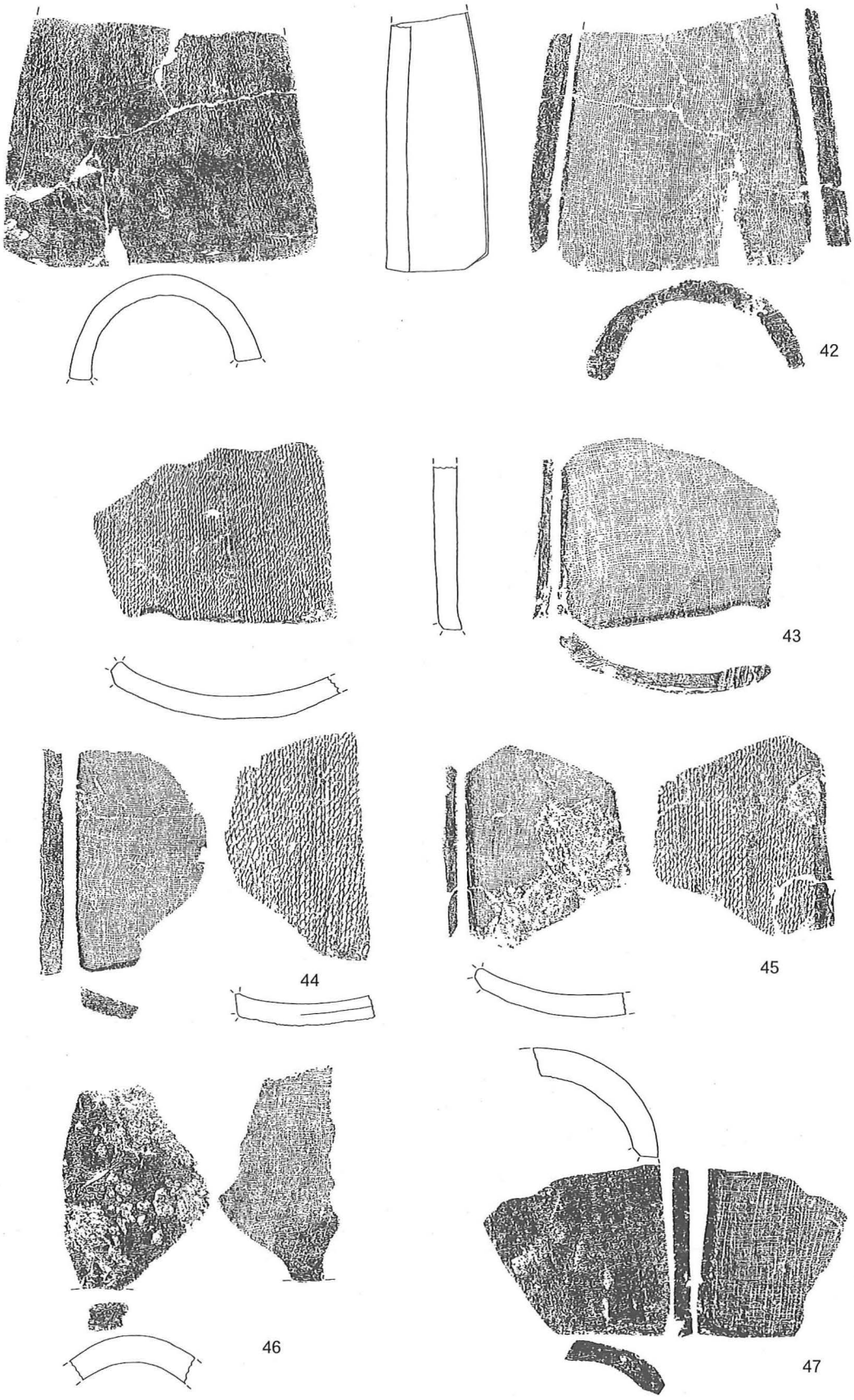


40

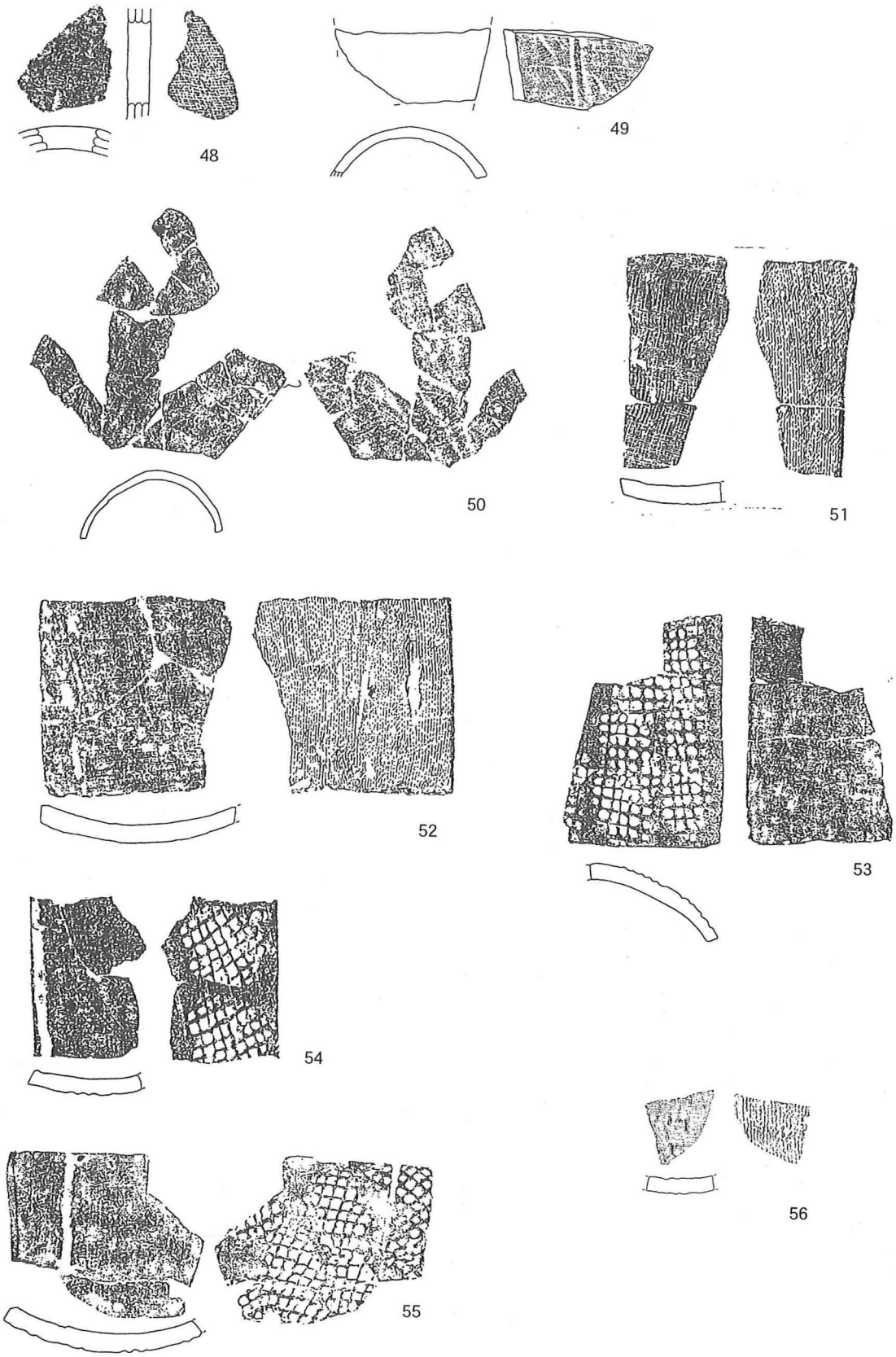


41

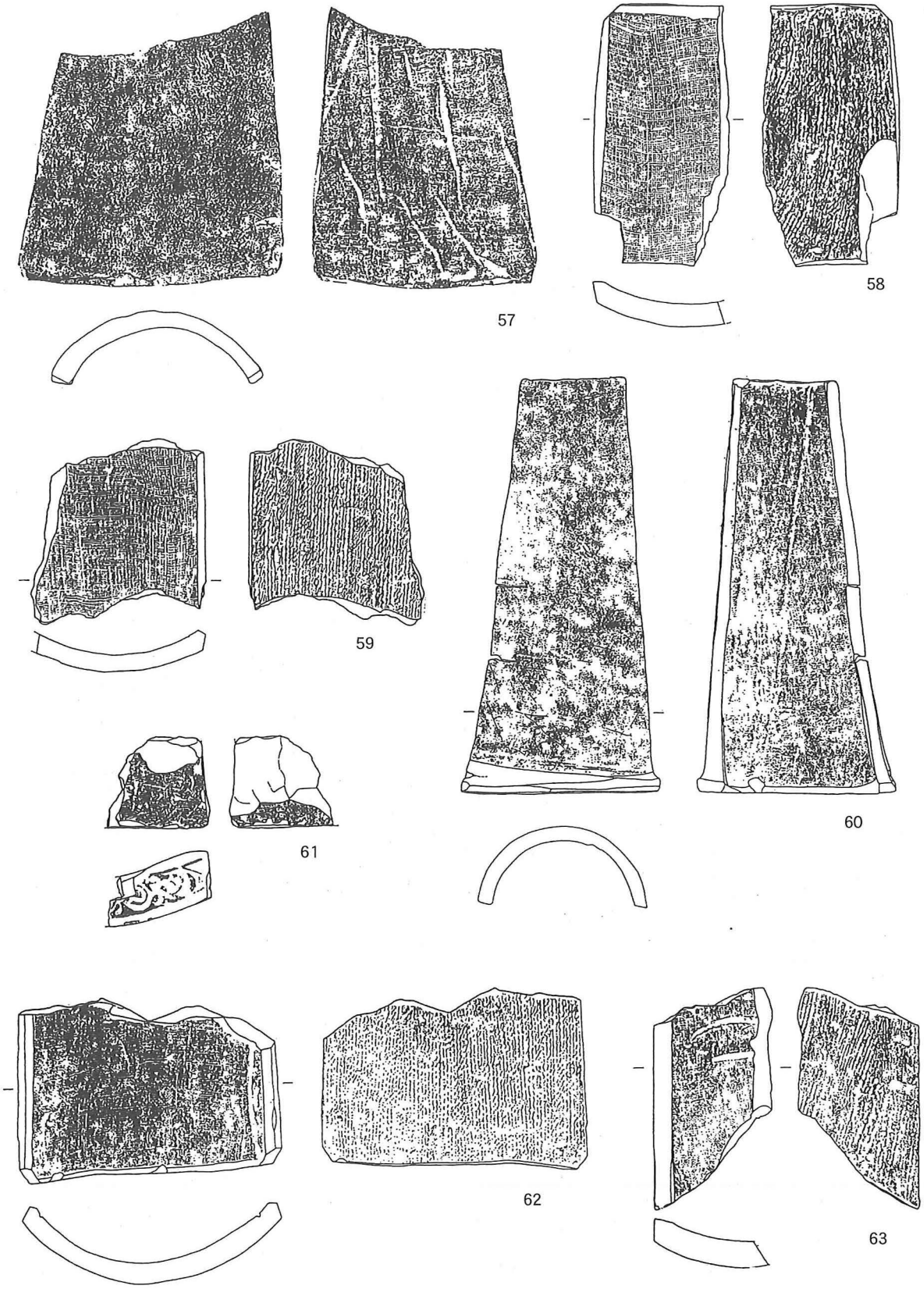
第5図　瓦集成県東部　⑤（S=1/6）



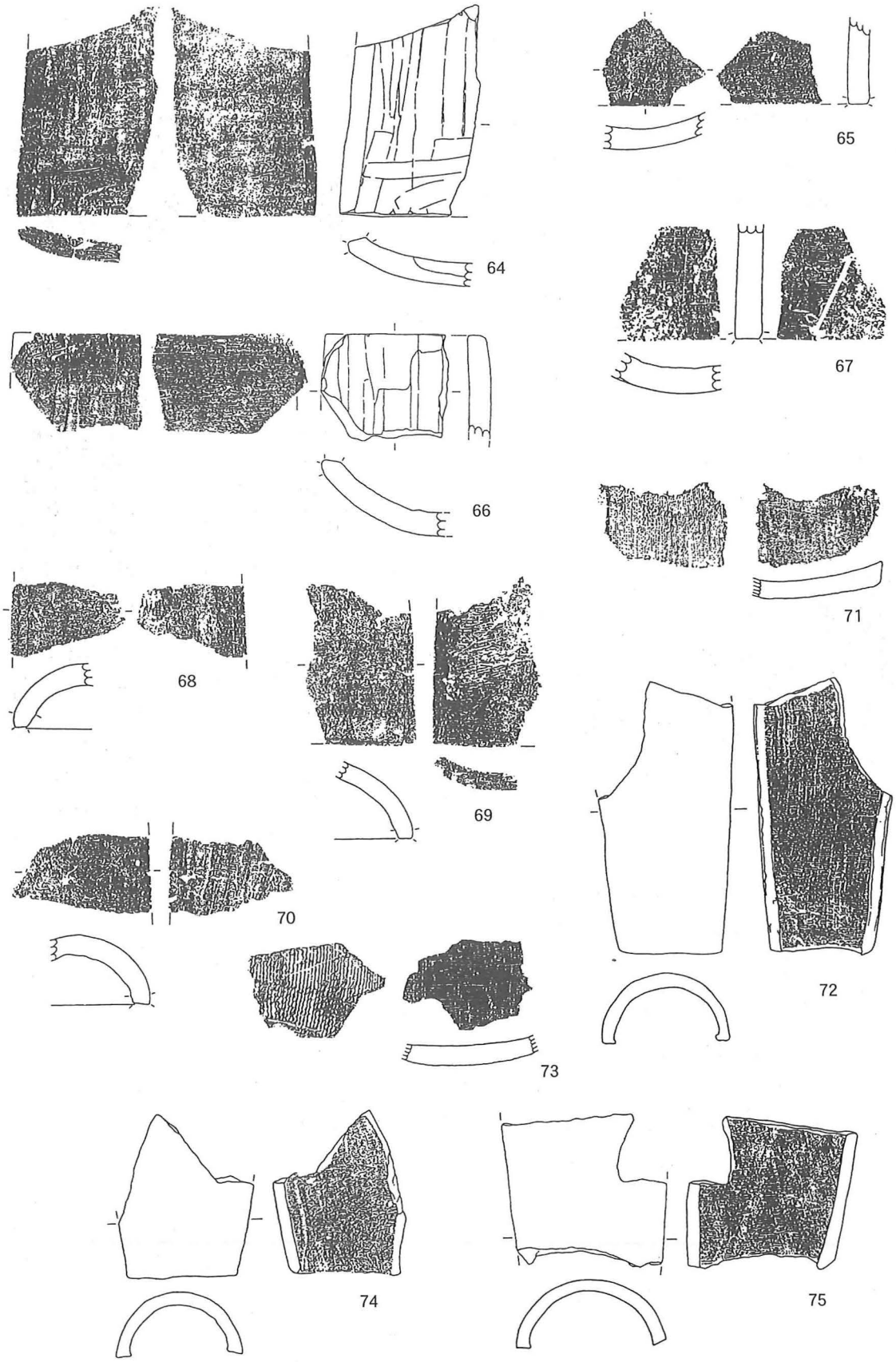
第6図　互集成県東部　⑥（S=1/6）



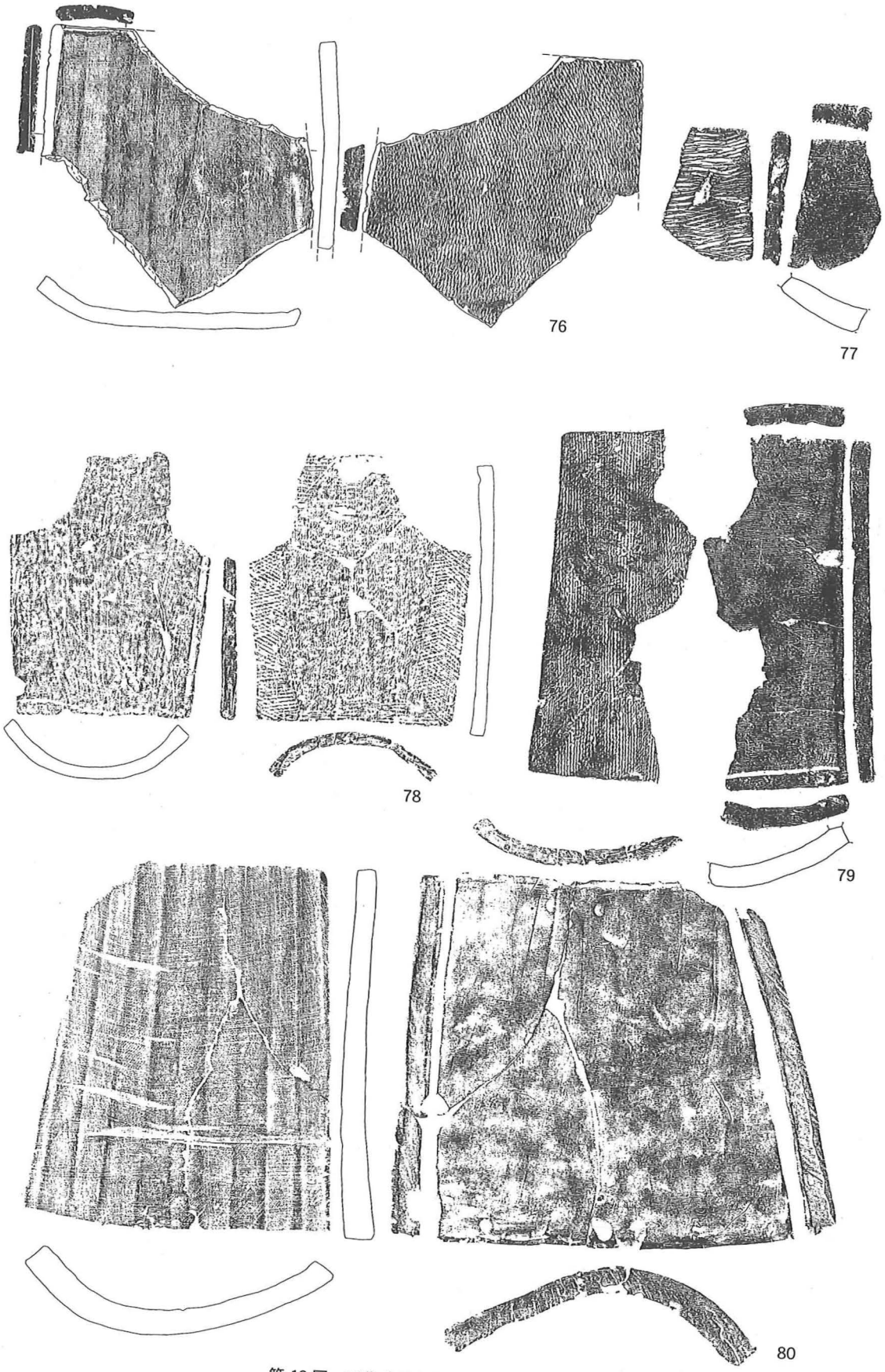
第7図　亙集成県東部　⑦ (S=1/6)



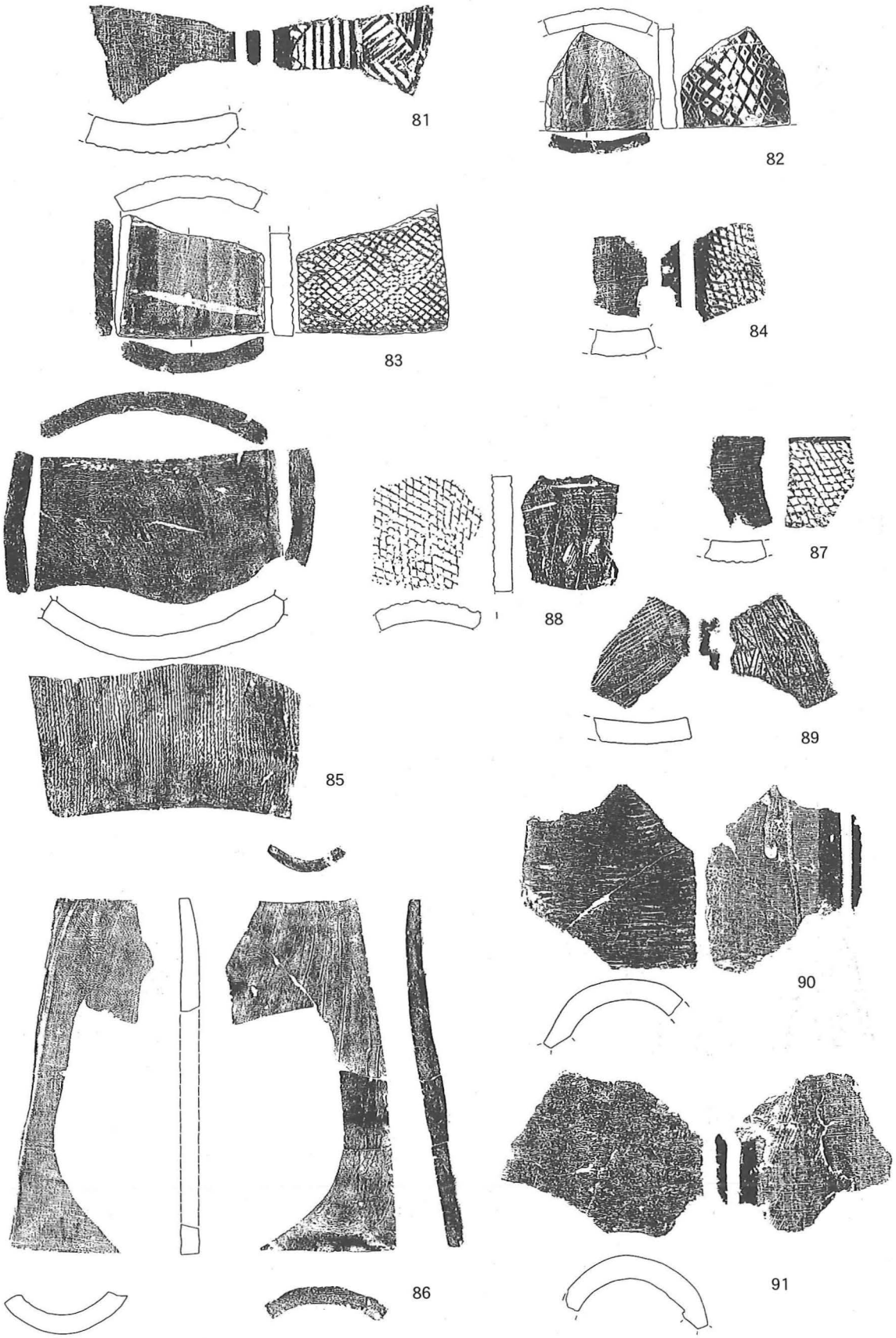
第８図　瓦集成県東部　⑧（S=1/6）



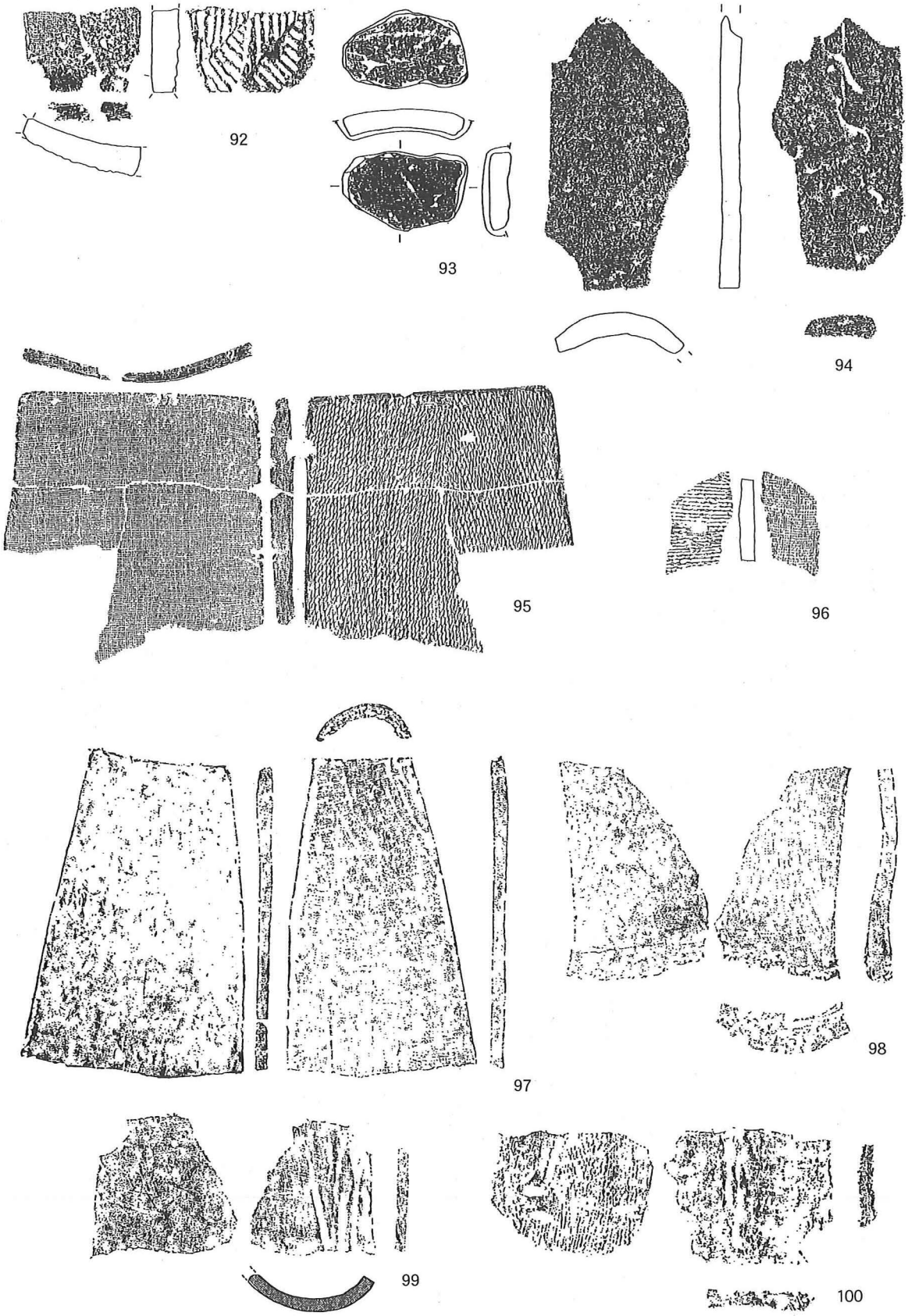
第9図　互集成県東部　⑨（S=1/6）



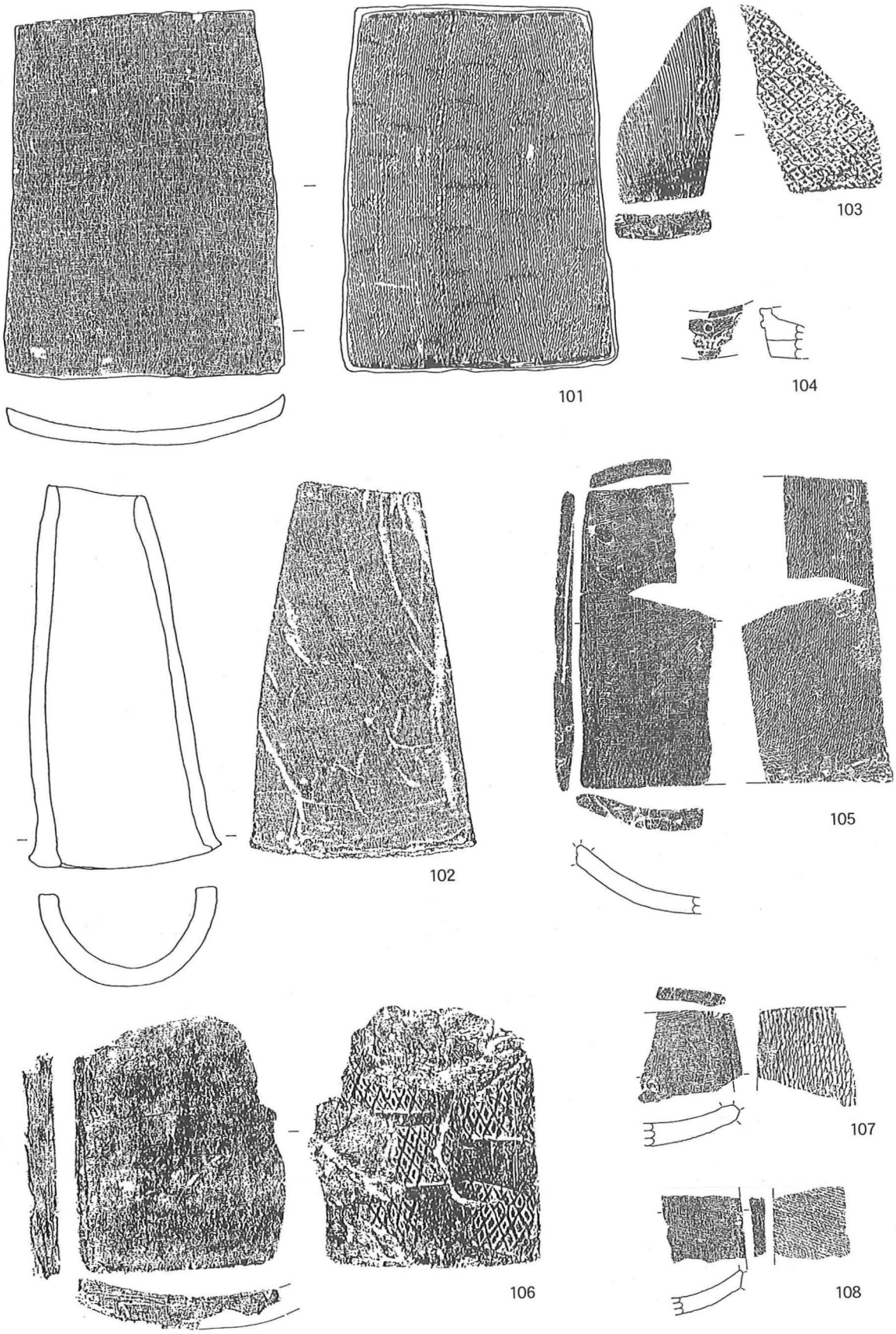
第 10 図　瓦集成県東部　⑩ (S=1/6)



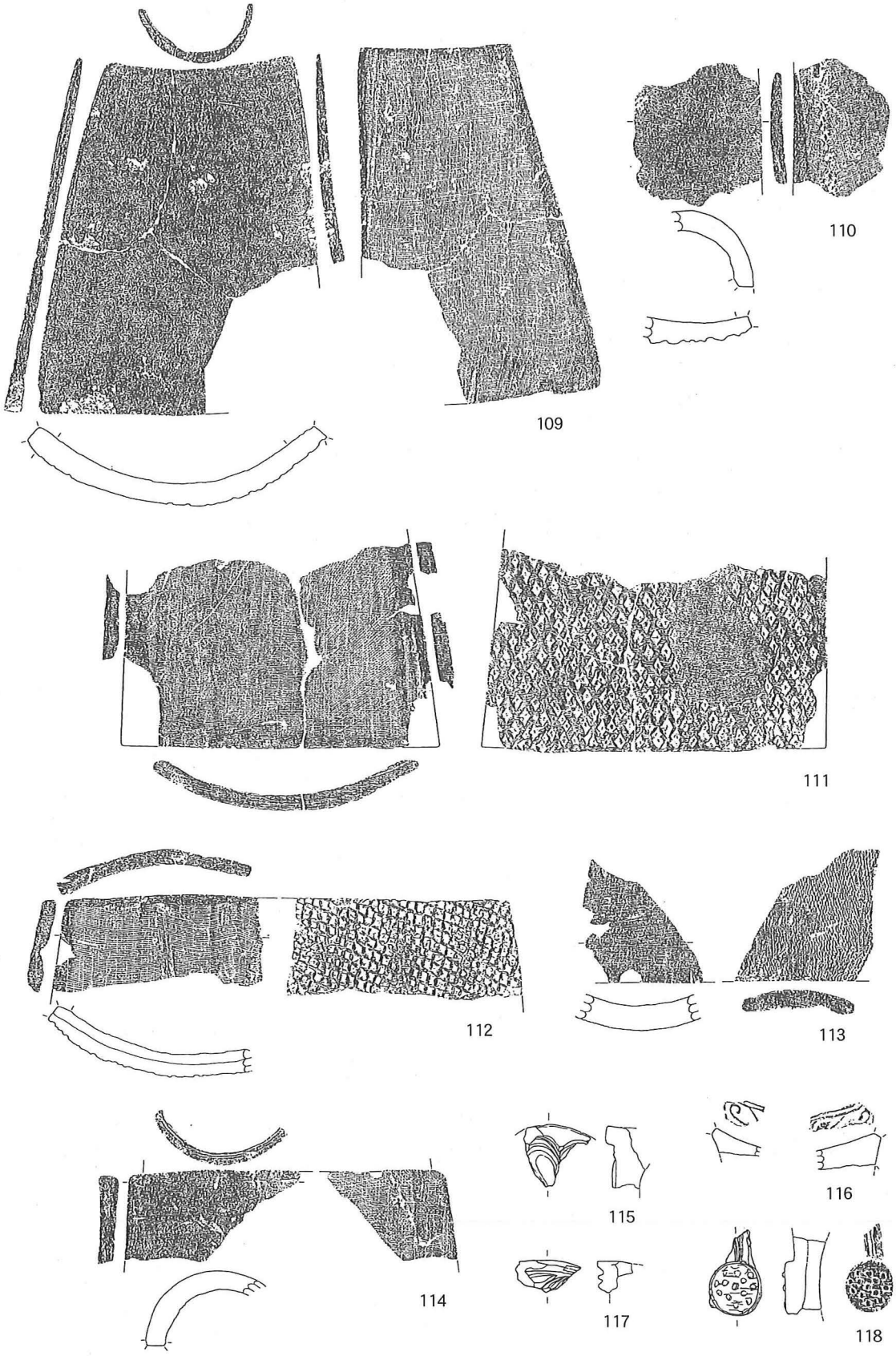
第11図　互集成県東部　⑪（S=1/6）



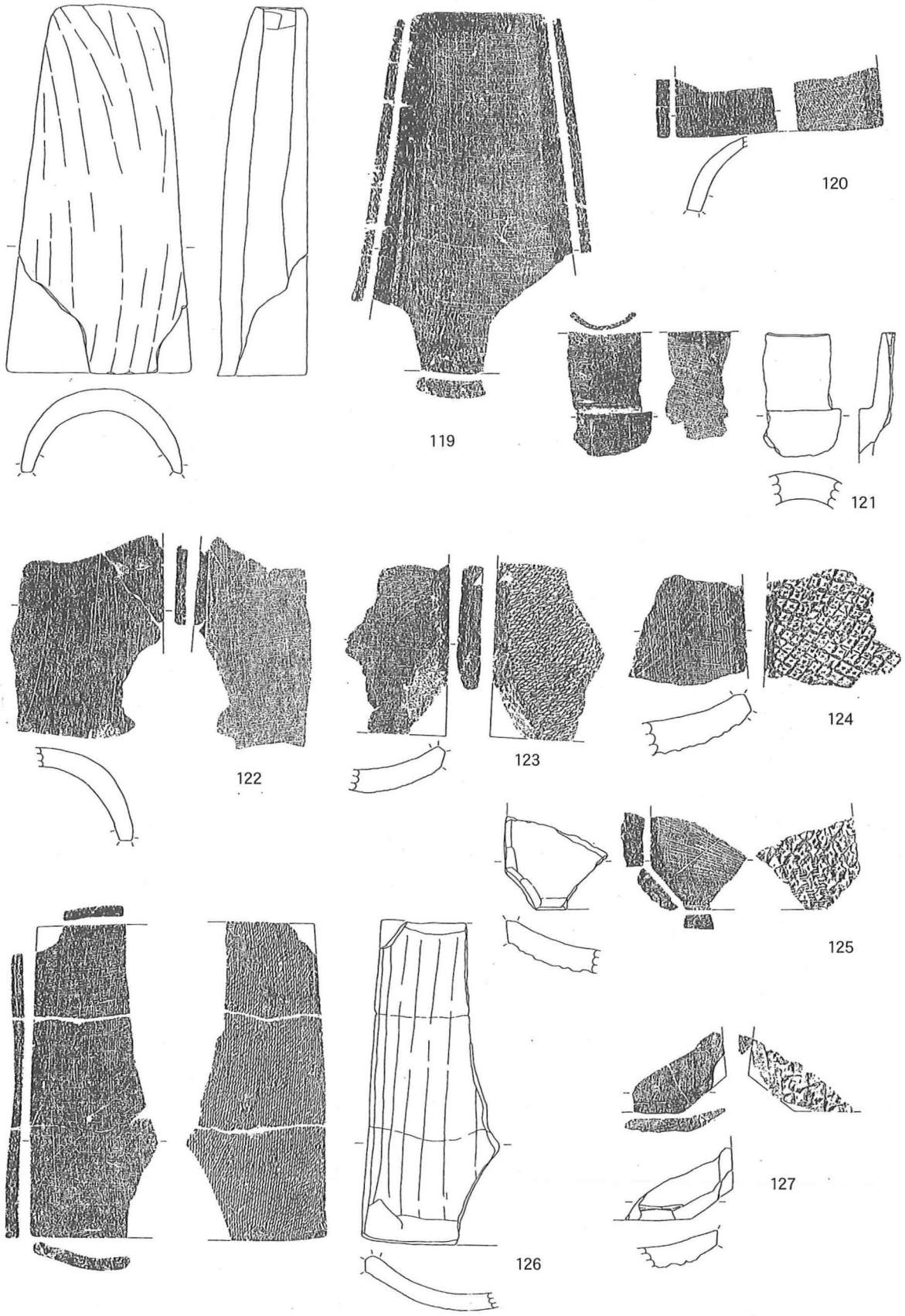
第 12 図　亙集成県東部　⑫（S=1/6）



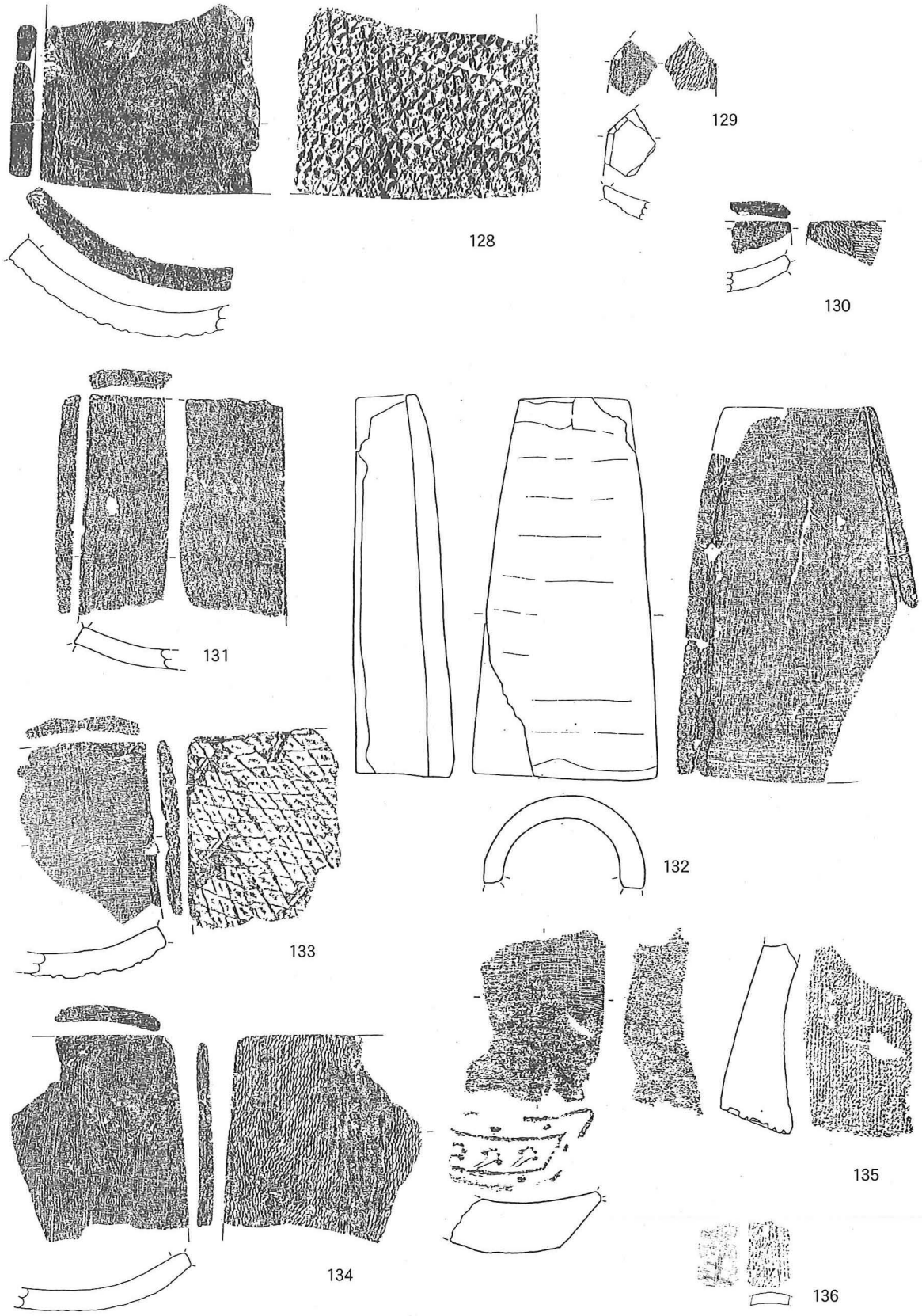
第13図　互集成県東部　⑬（S=1/6）



第 14 図　亙集成県東部　⑭（S=1/6）



第 15 図　亙集成県東部　⑮ (S=1/6)



第 16 図　亙集成県東部　⑯（S=1/6）

神奈川の中世城館（1）

中世プロジェクトチーム

はじめに

中世の城や館を題材とした研究は以前から注目され、近年さらにその進展は著しいといえる。本プロジェクトでは伝承地における発掘調査資料の増加に伴い、考古学による検討を加えることを目的として「神奈川の中世城館」と題し、今回から検討を行いたい。

神奈川県内には中世城館とされる伝承地は多く、県史・市史などで紹介されている。この中世城館の中から、今回はまず基礎資料の集成として、発掘調査が行われている遺跡を取り上げることとした。

例言

1．本集成で扱う中世城館とは、防御を目的として構築された城・砦・堀・土塁・柵などによって囲まれる施設・場所の総称であり、このほかそれらによって区画された屋敷・館・造成などを含めている。

2．本集成は、発掘調査が行われ、発掘調査報告書が刊行されている(2008年３月現在)神奈川県内の中世城館を対象としている。そのため、伝承地ではあるが、発掘調査が行われていない、発掘調査からは伝承地のような成果が得られていないといった遺跡は集成の対象としていない。

3．鎌倉市に関しては、武家屋敷地と推定される遺跡は数多く存在するが、中世都市として多様な土地利用があったことが、近年の発掘調査の成果や先行研究から分かってきており、遺跡名などから、一概に個々の遺跡の性格について断定できない状況がある。よって今回の集成では遺構などから武家屋敷地と概ね推定されている遺跡や可能性の高いと考えられる遺跡のみを取り上げた。

4．小田原市に関しては、発掘調査例が多く紙面の都合上次回以降への継続課題とした。そのため今回は集成の概要についてのみ報告する。

5．集成表の項目は以下の通りである。

(1)名称：名称は、原則的に伝承名や史料による呼称をそのまま使用し、呼称が複数ある城館については、最も一般的と思われる呼称を使用した。なお中世城館と報告されているが、名称が不明なものは空欄となっている。掲載順は、神奈川県の行政順とし、各市町の順番は五十音順で行った。

(2)遺跡名：原則的に発掘調査報告書に記載されている遺跡名を使用した。一部、現行の神奈川県埋蔵文化財包蔵地台帳に基づき、文献とは異なる遺跡名を使用しているものもある。

(3)所在地：発掘調査が行われた住所・地番を示している。なお、合併により変更となった住所・地番に関しては、新住所・新地番へ変更した。

(4)概要：発掘調査によって検出された遺構を中心にまとめ、記載内容は報告書に準じている。

(5)文献番号：末尾の文献一覧に対応する。

横浜市

名称	遺跡名	所在地	概　要	文献番号
茅ヶ崎城	茅ヶ崎城址	横浜市都筑区茅ヶ崎町 650 番付近	城址は、“じょうやま”と呼ばれ、早淵川南岸の低位台地にの先端部に位置する。中郭、北郭・西郭・東郭・東下郭・東北郭の 6 郭と根小屋地区で構成される。1990 年に、郭ごとにトレンチ調査が実施される。遺構は、空堀、土塁、溝状遺構、ピットを検出。遺物は、かわらけ、国産陶器、銭貨が出土。	1
		横浜市都筑区茅ヶ崎町 630 番付近	1993 年に、中郭と西郭でトレンチ調査が実施される。遺構は、空堀、土塁、柵列、溝状遺構、土坑、ピット、地業面を検出。遺物は、かわらけ、国産陶器、金属製品、銭貨が出土。	2
		横浜市都筑区茅ヶ崎東二丁目 25 番	1994・1995・1998 年に城跡の中郭、北郭・西郭・東郭・東下郭・東北郭の 6 郭でトレンチ調査が実施。遺構は、空堀、土塁、土橋、竪穴住居、掘立柱建物、道状遺構、柵列、溝状遺構、火葬墓、土坑、ピット、地業面を検出。遺物は、かわらけ、舶載磁器、国産陶器、鉄滓、金属製品、銭貨が出土。	3
		横浜市都筑区茅ヶ崎東二丁目 25 番	2003･2005 年にトレンチ調査が実施。遺構は、空堀、土塁、道状遺構、土坑、井戸、ピット、地業面を検出。遺物は、かわらけ、国産陶器、石製品が出土。	4
長尾砦	長尾砦	横浜市長尾台 350 番ほか	泥岩地業で平場を造り、段状に造成しているのを検出。城郭を形成する一施設とみられる。	5

川崎市

名称	遺跡名	所在地	概　要	文献番号
小沢城	小沢城跡	川崎市多摩区菅	尾根を削平し平場を開削して、堀割、切岸、土塁を構築している。堀をもって城の内外を区画している。	6

横須賀市

名称	遺跡名	所在地	概　要	文献番号
衣笠城	衣笠城跡	横須賀市衣笠町	城跡内の経塚の再発掘調査が実施される。出土遺物から、三浦氏との関連が指摘されている。	7
		横須賀市衣笠町 1161 番	横浜横須賀道路建設に伴いトレンチ調査が実施。土橋状遺構、平場、切岸が検出されている。	8
		横須賀市衣笠町	1981・1982 年度に実施された分布調査の結果として報告されている。	9
		横須賀市衣笠町 707 番 1	1991 年に宅地造成に伴い範囲確認調査が実施される。伝大手口から下段平場へ続く二つの谷に挟まれた丘陵上で、大手口方面の防御を意図した平場を検出。	10
	尾崎南地区遺跡	横須賀市衣笠町 746	1998 年に道路工事に伴い調査が実施。５ヶ所の平場と各平場間に位置する４ヶ所の切岸を確認。（概報）	11 12

佐原城	佐原城址	横須賀市佐原三丁目 1129 番ほか	平作川と矢部川を望む舌状台地上に位置する、三浦大介義明の七男佐原十郎義連の居館と伝えられる城跡。1991 年度に個人住宅建設のためにトレンチ調査を実施。小ピットを伴う削平面を確認。	13
		横須賀市佐原三丁目 1234 番 1 ほか	2001 年度に横浜横須賀道路建設に伴い調査が実施される。城跡に関連すると考えられる段切が検出される。遺物は、舶載磁器、国産陶器、かわらけ等が出土。	14
		横須賀市佐原三丁目 1131 番ほか	2007 年度に前回の横浜横須賀道路建設に伴った調査の残地部分として実施される。調査では、城跡に関係する遺構は検出されなかった。	15
太多和城	太多和館跡	横須賀市太田和	1994 年と 1995 年に確認調査を実施。遺構は未検出、丘陵の平坦面からかわらけを主体とした遺物が少量出土。	16
奴田城	吉井城山	横須賀市吉井 735 外	1978 年の確認調査では、泥岩塊で構築された炉跡、1992 年の確認調査では 2 条の空堀と土橋状遺構が発見されている。	17

平塚市

名称	遺跡名	所在地	概　要	文献番号
岡崎城	岡崎城跡	平塚市岡崎ほか	御殿、梯子郭、追手、二ノ郭、岡崎神社裏、屋敷、下谷戸で調査が行われ、堀、堀状遺構、溝状遺構、土塁状遺構などが検出された。土層断面などから各遺構は岡崎城と関連するものが大半。	18
	岡崎城跡Ａ	平塚市岡崎字王御住 5 番、897 番 1	溝 4 条、ピット 14 基が検出され、これらは通路を防衛する堀および柵である可能性も否定できないとする。	19
	岡崎城跡Ｂ	平塚市岡崎字桜畑 6205 番、3140 番ほか	曲輪状遺構とそれに伴う掘立柱建物跡 4 棟が検出された。城郭関連遺構であるならば、泥田状の低湿地によって扼された腰曲輪的な遺構と解釈される。	20
	桜畑遺跡	平塚市岡崎字桜畑 6376 番 5	館跡、溝状遺構、道路状遺構、柱列遺構、土塁状遺構が検出され、岡崎城との関連を考えるならば、立地から城南部の方形囲郭の一部と考えられ、外郭的性格を持つものとなろうか。	21
		平塚市岡崎字桜畑 6395 番ほか	外郭と推定される台地上から南側 3 段、北側 2 段の曲輪状遺構を確認。また、版築遺構も確認された。	22
		平塚市岡崎字宮上 2648 番 1 ほか	柵列を伴った掘立柱建物跡が確認される。岡崎城跡Ｂから検出された方形居館と関連する可能性もある。	23
	山王久保遺跡	平塚市山王久保 3652 ほか	切岸状遺構が検出された。現状の形態になったのは近世以降であるが、ローム削平自体は中世に遡る可能性がある。	24
	山王久保遺跡 岡崎城跡Ｂ	平塚市岡崎字山王久保 3658 番 12 ほか	台地の東向き斜面から曲輪の一部と考えられる遺構が検出された。	25
		平塚市岡崎字山王久保 3 番、653 番 1	三段に削平された切岸状遺構が検出された。腰郭の外側に造られた城郭関連遺構の可能性がある。	26

岡崎館	御所ヶ谷遺跡	平塚市岡崎字御所ヶ谷、字柳久保	掘立柱建物跡とそれを囲繞する溝が検出された。出土遺物から12世紀前半と考えられ、岡崎館と関連した居宅と考えられている。	27
片岡砦（城）	片岡遺跡	平塚市片岡字宮ノ前1250番ほか	現況で5つの郭と「入隅」状の屈曲が確認された。トレンチからは版築遺構、溝状遺構が検出され、溝は箱堀の可能性も考えられる。	28
			縦堀状遺構が検出された。断面形はU字状を呈し、底面に3段のテラスを持つ。	29
真田城	今宮遺跡	平塚市北金目1117番ほか	テラス状遺構が検出された。性格付けは困難であるが、外郭に関連する遺構の可能性も考えられる。	30
	大久保遺跡	平塚市北金目1117番ほか	確認した地業面は北方台地側で城郭遺構の法面に続くと思われ、真田城に関連する遺構と考えられる。この城郭遺構は王子ノ台遺跡の立地する舌状台地を取り巻いている可能性が強い。	31
	王子ノ台遺跡	平塚市北金目1117番ほか	台地端部の自然傾斜を利用して2段にわたって作り出したテラス状遺構が確認された。帯曲輪の一部であると考えられる。	32
		平塚市北金目1117番ほか	堀状遺構、テラス状遺構が検出されている。堀状遺構は位置・形状・規模から真田城との関連が考えられるが、構築時期が不明であることなどから判定には慎重を要する。	33
	真田・北金目遺跡群	平塚市真田25番ほか	真田城の中心域とされる天徳寺寺域周辺の調査を行い、版築状の盛土、溝などが検出されている。	34
		平塚市北金目字宮久保1422番2ほか	細長い入り口部と長方形の本体といった横穴状の遺構が検出された。真田城へと通じる道路際に位置することから、関連の遺構とも推測される。	35
		平塚市真田字寺尾59番ほか	城址と推定される台地の先端部である10区から関連遺構が発見されている。台地丘陵縁辺部を巡る堀や虎口などが確認されている。	36
		平塚市北金目1575番ほか	遺構を多数検出。真田城中心部分の10E区から検出の堀は、堀底に帯水していた可能性が指摘されている。主郭西側の32C区からは、硬化面とそれに伴う建物跡などが検出されている。	37
田村館	田村館跡	平塚市田村6252番8ほか	田村館跡推定地の東端にあたる。溝状遺構などが検出されている。	38
豊田館（豊田堀の内）	豊田本郷	平塚市豊田本郷	住居址や井戸のほか屋敷を巡る堀などが検出されている。居住的、生産的、信仰的な側面の遺構が錯綜して検出された。	39
堀ノ内館（藤問豊後守屋敷）	堀ノ内館跡	平塚市南金目字堀ノ内871番	堀状の水路の一部が検出されている。その堀状遺構の内側からは、土間状遺構、礎石が確認されている。	40
		平塚市南金目字堀ノ内871番3ほか	館の西側を巡る堀状遺構が検出された。堀は当時から冠水していたと推測される。	41

吉沢館	上吉沢市場地区遺跡群	平塚市上吉沢字市場 1495 番ほか	方形居館の北辺、東辺が調査され、土塁や堀が検出された。	42
	高林寺遺跡第 7 地点	平塚市四之宮字諏訪前 449 番、450 番ほか	第 7 ・ 9 地点検出の溝状遺構は再検討の結果、第 12 地点から検出された溝状遺構と一連の遺構であると推測される。検出された溝は方形の区画をなし、出土遺物から 13 世紀代と考えられる。溝は護岸と見られる土層が観察されることや、二段薬研に近い傾斜を示すことから、方形区画は居館の可能性が指摘されている。	43
	高林寺遺跡第 9 地点	平塚市四之宮字諏訪前 44 番 1		44
	高林寺遺跡第 12 地点	平塚市四之宮 445 番		45

鎌倉市

名称	遺跡名	所在地	概　要	文献番号
	今小路西遺跡	鎌倉市御成町 625 番 3	3 面から北側、南側武家屋敷を検出。特に北側屋敷は幕府重職クラスの邸宅とみられる。また貿易陶磁も大量に出土。	46
公方屋敷	公方屋敷跡	鎌倉市浄明寺三丁目 143 番 2	道路・側溝・井戸・かわらけ溜まりなどが検出される。	47
		鎌倉市浄明寺三丁目 151 番 1 外	六浦路の軸線を踏襲した 2 棟の建物址が検出される。	48
	杉本寺周辺遺跡群	鎌倉市二階堂字杉本 912 番 1	新旧 2 時期の大型の武家屋敷を検出。和田、杉本氏関連か。	49
玉縄城	玉縄城跡	鎌倉市城廻字城宿 357 番 2・15	南北方向に走る 3 段の犬走り状の平場を検出。本丸西隣の「くいちがい」平場に相当か。	50
		鎌倉市城廻字中村 654 番 1 外	切岸・通路・溝・やぐら等を検出。玉縄城関連の遺構と推定される。	51
		鎌倉市植木字相模陣 374 番ほか	堀 2 基、うち 1 基には土橋が付設される。玉縄城周辺に配されたとみられる 2 つの武家屋敷地を発見。掘立柱建物・礎石建物等を伴う。	52
		鎌倉市城廻字清水小路 673 番 10	岩盤を削平し、2 面の平坦面に、溝を造成した状況を確認。	53
		鎌倉市城廻字中村 478 番 3	主に近世の遺構を検出。直接玉縄城に関連する遺構はなし。	54
		鎌倉市植木字植谷戸 70 番 1 外	後世の削平が顕著で、中世の遺構は土坑 1 基のみ。	55
		鎌倉市植木字植谷戸 198 番の一部	5 面の地業面とそれに伴うピット・土坑・溝などを検出。溝によって軸方向が統一的な状況が確認される。	56
		鎌倉市植木字相模陣 425 番 3 外	土塁に囲まれた地業面・通路状遺構・溝状遺構・ピットなどを検出。南側の土塁が「えんしょうぐら」と御厩郭を画する土塁と想定される。	57
		鎌倉市植木字植谷戸内	掘立柱建物柱址・溝・土坑・井戸などの遺構群を検出。生活空間か寺院か。	58
北条時房・顕時邸	北条時房・顕時邸跡	鎌倉市雪ノ下一丁目 264 番 4	若宮大路沿いの有力御家人屋敷地と考えられ、3 面時などで三方に縁の付く大型の礎石建物が検出され、また大量のかわらけ廃棄がみられた。	59

藤沢市

名称	遺跡名	所在地	概　要	文献番号
御弊山砦	御弊山遺跡	藤沢市藤が岡四丁目１番１	掘立柱建物址、ピット群、土坑等を検出。主体は近世。	60
二伝寺砦遺跡	二伝寺砦遺跡	藤沢市渡内三丁目 563 番１外	（第３地点）古代住居址、近世溝、竪穴状遺構などを検出。直接城の一部の施設と考えられる遺構は見つかっていない。（第４地点）建物址・溝・土坑などを検出。近世の福原家屋敷地の変遷が明らかとなった。	61
		藤沢市渡内三丁目 563 番	南側に開口する平坦部奥に位置し、中世～近世の掘立柱建物址や、段切り状遺構を検出。	62
大庭城	大庭城址	藤沢市大庭	確認調査。丘陵全体が包蔵地と確認される。	63
			掘立柱建物址・堀切７基・土橋などを検出。大庭城関連の遺構と想定される。	64
	大庭城址公園内遺跡	藤沢市大庭 6264 番ほか	南からⅠ～Ⅳ郭に分けられ、Ⅳ郭では堀切・土塁・郭状遺構などを検出。	65
	西部 211 地点遺跡	藤沢市大庭	空堀・土橋・掘立柱建物址を検出。	66

逗子市

名称	遺跡名	所在地	概　要	文献番号
岩殿寺城郭遺構	逗子市№.71 遺跡	逗子市久木	谷戸奥の山腹の岩殿寺を中心とし、それを取り囲む標高 50 m前後の丘陵地形を利用した防御遺構。表面調査では、丘陵上に堀切状遺構、平場、塚状遺構が確認される。	67
神武寺城郭遺構	逗子市№.73 遺跡	逗子市沼間	1981・1982 年度に測量調査が実施される。神の岳とこんぴら山を中心として防御遺構が構築されている。報告書では、神武寺が自衛の必要上城郭としたか、近隣の豪族が城郭として構築したかのいずれかであろうとしている。	68
		逗子市沼間四丁目 1320 番 14	幼稚園建設に伴い調査が実施される。柱穴状遺構が検出される。	69
住吉城	住吉城趾	逗子市小坪	主郭は、平面馬蹄形の平場の「げんじがやと」を中心にして、これを取り囲む尾根上と山腹に数段の平場が確認される。部分的に切岸状遺構、土塁状遺構も確認できる。1964 年の湘南有料道路（現国道 134 号線）の開削により地形が大きく改変される。1979 年に測量調査が実施される。	70
		逗子市小坪五丁目 55 番１、240 番	2000 年度と 2002 年度に住宅建設に伴い「げんじがやと」「ぼんばたけ」内で調査が実施される。遺物は、かわらけ、国産陶器、石製品等が出土している。遺構は、土塁状遺構、溝状遺構、ピット、土丹面が検出されている。遺物は、かわらけ国産陶器等が出土している。	71
		逗子市小坪五丁目 240 番ほか	2002 年度に「ぼんばたけ」でトレンチ調査が実施された。調査では、土塁状遺構・溝状遺構・ピットが検出された。遺物は、国産陶器が出土。	72

	名越切通	逗子市久木・小坪七丁目1245番1、九丁目1867番ほか	鎌倉北条氏が、三浦一族に対する鎌倉の防衛上の要害地として防御遺構が構築される。やぐら群の分布・形状が報告。	73
			保存管理計画の立案に先立ち、トレンチ調査が実施される。尾根上と山腹の平場でのトレンチ調査が実施される。遺物は、かわらけ・国産陶器などが出土した。	74
			1996年度に開発に先立つ範囲確認調査として、尾根上と山腹の平場でのトレンチ調査が実施された。礎石・溝状遺構・柱穴・石列・葬送遺構・土坑などが検出された。遺物は、かわらけ・舶載磁器・国産陶器などが出土した。	75
			2001年と2002年度史跡整備のために、に尾根上と山腹の平場でのトレンチ調査が実施され、礎石・溝状遺構・柱穴・石列・葬送遺構・土坑などが検出された。遺物は、かわらけ・舶載磁器・国産陶器などが出土した。	76

相模原市

名称	遺跡名	所在地	概　要	文献番号
橋本城	橋本遺跡	相模原市元橋本町、橋本7番	テラス状遺構、柵列、掘立柱建物跡、地下式坑を合わせて砦のようなものを考慮すべきと思われ、橋本城と称されていた可能性もある。	77
津久井城	津久井城Ⅰ	相模原市津久井町根小屋字城坂223番ほか	御屋敷跡の調査では堀・建物址・石列・土坑群などを検出。津久井城関連から陣屋関連施設への移行が確認される。	78
	津久井城Ⅱ	相模原市津久井町根小屋字城坂223番ほか	御屋敷跡、しんでんの調査。御屋敷跡では土塁とそれに並行する石列を検出。	79
	津久井城Ⅲ	相模原市津久井町根小屋字城坂223番ほか	御屋敷跡1号堀の続き、2号堀・土坑・煙硝倉などを検出	80
	津久井城Ⅳ	相模原市津久井町根小屋字城坂223番ほか	東曲輪で柱穴群を検出し、焼土の広がりや鉄滓の出土などから鍛冶関連施設が近接することが指摘される。	81
	津久井城Ⅴ	相模原市津久井町根小屋字城坂223番ほか	Ⅰ～Ⅳまでの調査区を再調査。	82
	津久井城Ⅵ	相模原市津久井町根小屋字城坂223番ほか	御屋敷跡の周辺曲輪が御屋敷跡の防御の役割を担っていたことが想定される。	83
	津久井城Ⅶ	相模原市津久井町根小屋字城坂223番ほか	御屋敷跡の虎口や破城の痕跡と推定される痕跡などを検出。	84
	津久井城Ⅷ	相模原市津久井町根小屋字城坂223番ほか	御屋敷跡の東南曲輪群などの測量調査。	85
	津久井城Ⅸ	相模原市津久井町根小屋字城坂346番付近	東側馬場で上下2段に連ねた箱堀を検出。馬場でも城破りの痕跡が検出される。	86
	津久井城Ⅹ	相模原市津久井町根小屋字城坂346番	東側馬場で、北から南へ向かう竪堀、礫溜まり、溝を検出。	87

津久井城	津久井城 根小屋地区遺跡群	相模原市津久井町根小屋字 251 番・252 番ほか	しんでんの調査で、虎口遺構、礎石建物跡・掘立柱建物跡などを検出。	88

三浦市

名称	遺跡名	所在地	概　要	文献番号
新井城	新井城跡	三浦市三崎町小網代	大型の掘立柱建物が、3時期にわたって検出。また、多量の人骨や焼土層を確認。15 世紀末から 16 世紀代の陶磁器が出土。	89

秦野市

名称	遺跡名	所在地	概　要	文献番号
波多野氏館跡	東田原中丸遺跡	秦野市東田原	四面庇を有する総柱建物を主体として、舶載陶磁など優品も多く出土することから在地領主波多野氏の居館跡と推定されている。	90
波多野城址	波多野城址	秦野市立東中学校	1～7次まで調査。溝状遺構・井戸址などを検出した。城が小附にあったとされるが、主体になったのは別部分と想定される。	91

厚木市

名称	遺跡名	所在地	概　要	文献番号
	小野若宮遺跡	厚木市小野字若宮	中国磁器・宋銭などが出土。館跡と考えられる。	92
	御屋敷添遺跡第 3 地点	厚木市愛甲御屋敷添 365 番 1 ほか	竪穴状遺構・地下式坑・溝・土坑・ピット、4m幅の溝→屋敷地内の区画溝か。	93
七沢城	七沢神出遺跡	厚木市字神出一丁目 330 番 1 ほか	掘立柱建物址、竪穴状遺構、地下式坑、溝状遺構、土坑などを検出。扇ガ谷上杉氏関連の遺構か。	94

大和市

名称	遺跡名	所在地	概　要	文献番号
上和田城	上和田城山遺跡	大和市上和田 2557 番	城跡は、成立時期、存続期間、領有は不明である。1977 年に調査が行われ、火葬墓、地下式坑が検出されている。遺物は、かわらけ、鉄製品が出土している。城郭に直接結びつく遺構は検出されていない。	95
		大和市上和田 2557 番	1991 年に調査が行われ、道状遺構・溝状遺構が検出されている。遺物は、国産陶器、銭貨が出土している。城郭に直接結びつく遺構は検出されていないが、道状遺構と溝状遺構の延長上に城跡があると推定される。	96
下鶴間城	下鶴間城山 伝山中修理助貞信壘蹟	大和市下鶴間甲四号 727 番 2 ほか	山中修理助貞信壘蹟との伝承がある城跡で、土塁・腰郭・堀状遺構・掘立柱建物址・柵列・地下式坑・土坑・溝状遺構・柱穴が検出されている。遺物は、舶載磁器・国産陶器・石製品（茶臼）等、15 世紀代のものが出土している。	97

深見城	深見城趾	大和市深見 74 ほか	境川により形成された河岸段丘上に立地している。1984 ～ 86 年度にトレンチ調査が、主郭・外郭・内堀・外堀・天竺坂堀で実施された。調査では、主郭西虎口と東虎口で礎石と推定される平石、箱堀状の堀、土橋、地業層が確認された。遺物は、14 世紀～ 16 世紀の陶磁器が出土している。	98
		大和市深見 74 ほか	1999 ～ 2000 年にトレンチ調査が、主郭・内堀・外郭・天竺坂堀で実施される。井戸・土坑・竪穴状遺構・ピットが検出されている。遺物は、14 世紀～ 16 世紀の陶磁器が出土している。	99
	長堀南遺跡	大和市下鶴間乙五号 2702 番	遺跡の東側に隣接する深見城に関連を想定される溝状遺構・貼床状遺構が検出された。	100

伊勢原市

名称	遺跡名	所在地	概　要	文献番号
上杉定正館	御伊勢森遺跡（伝上杉定正館跡）	伊勢原市上粕屋字御伊勢ノ森	大溝・道路状遺構など検出。大溝の存在から防御的な機能を伴う居館の一部と推定される。	101
丸山城	第１東海自動車道遺跡No. 9・39	伊勢原市大字上粕屋字小山 250 番５ほか、241 番１ほか	中世後半期と思われる大規模な溝を検出。扇ガ谷上杉氏か後北条関連の施設か。	102
	弥杉・上ノ台遺跡	伊勢原市下糟屋 123 番外	テラス状遺構・道状遺構・ピット・土坑などを検出。直接城と結びつくような遺構はない。	103
	丸山城	伊勢原市	土塁が巡り、幅 16 m以上の障子堀を確認。	104
	成瀬第２地区遺跡群下糟屋Ｃ地区第１地点、Ｄ地区、丸山Ｅ地点	伊勢原市下糟屋	Ｃ：竪穴状遺構・地下式坑・区画墓・墓坑・道路遺構。Ｄ：幅８～ 15 m、深さ３～４ｍの規模の堀切・土塁など。丸山Ｅ：道路・溝状遺構・土坑・Ｌ字状掘立柱建物群・竪穴状遺構・ピットなど検出。地区ごとに様相の異なる状況が明らかにされた。	105
	下糟屋Ｃ地区第２地点	伊勢原市下糟屋	Ｃ第２：竪穴状遺構・掘立柱建物址・ピット・地下式坑・溝状遺構・土坑・墓坑。Ｃ第３：竪穴状遺構・地下式坑・かわらけ焼成遺構・土坑・墓坑・銭貨埋納遺構・溝状遺構・段切り等を検出。	106
	上粕屋・〆引北遺跡	伊勢原市大字上粕屋字〆引 907 番ほか	〆引北地点において、堀によって囲まれた中に土橋・柵列・門跡・掘立柱建物址などを検出。井戸の中から太刀や懸仏などが出土。武士の館跡と想定される。	107

海老名市

名称	遺跡名	所在地	概　要	文献番号
	上浜田遺跡	海老名市大谷	斜面を二段に造成して営まれた中世建物群が検出される。時期は 13 世紀中葉～ 14 世紀末とされ、溝や柵列によって区画され、豊富な舶載磁器が出土。渋谷氏関連か。	108

南足柄市

名称	遺跡名	所在地	概　要	文献番号
浜居場城	浜居場城跡	南足柄市内山及び矢倉沢	トレンチ調査により、堀が検出されている。また、部分的ながら主郭・西廓は自然地形を利用した平場と堀の造成がなされていることが確認されている。	109
沼田城	沼田城址	南足柄市沼田字牛ヶ窪597番付近ほか	2本のトレンチで堀（北大空堀）を検出。堀の傾斜角は47度で、埋土の堆積状況から土塁の一部を壊し、埋め立てたことが認められている。	110
		南足柄市沼田字城山421番1	堀（A・B）・土坑・柱穴等が検出されている。堀Aは箱堀に近く確認面幅3.5m、堀底幅2.1m、深さ90㎝を測り、掘方より20㎝上部に硬化面が確認され、道路としての利用も認められた。	111

綾瀬市

名称	遺跡名	所在地	概　要	文献番号
早川城	早川城跡	綾瀬市早川字清水934番外	堀切り・土塁・物見塚・曲輪・堀等を検出。堀は箱堀の様相を呈し、主郭北・東・南に土塁が築成されていた。また腰廓からは掘立柱建物が見つかっている。	112
	宮久保遺跡	綾瀬市早川字新堀淵2031番外	武士階層の居館とされる。柵列で囲まれた数多くの掘立柱建物・溝・井戸等が検出されている。中でも4×2間の24号掘立柱建物と4×3間の23号掘立柱建物が主屋としている。	113

松田町

名称	遺跡名	所在地	概　要	文献番号
松田城	松田城址	足柄上郡松田町松田庶子字城山3113番ほか	空堀・堀切・竪堀・溝状遺構・掘立柱建物・井戸・地下式坑等の遺構を検出。上・中・下段の曲輪からなる。	114

山北町

名称	遺跡名	所在地	概　要	文献番号
河村城	河村城跡	足柄上郡山北岸	16ｍをこえる大型の堀切をはじめ、郭の構成や内部の施設等、城郭の全体像が明らかとなった。	115 116

小田原市の中世城館について

現在全国的に中世城館研究が活発化する中で、関東においても後北条氏時代の城館をはじめ、多くの調査例、議論が行われ始めている。神奈川県についても後北条氏の本城である小田原城など数多くの中世城館が存在し、発掘調査が行われているため、本年度より中世城館調査例の集成から行うこととなった。

集成表については県内各市町村を対象にしているが、小田原市については小田原城の調査地点例が数多く存在し、資料的にも膨大な数量となるため、紙幅の関係上今年度は集成表を見送り、小田原市の中世城館についてその概要を示すこととした。

（1）小田原城

小田原城の調査は、1995年に刊行された『小田原市史　別編城郭』において集成が試みられているが、その後の調査事例増加に伴い『小田原城下　本町遺跡第Ⅲ地点』（2008年）の中で最新の調査地点集成表が作成されている。以下この集成表に基づき、若干の解説を加える。

小田原城は、伊勢宗瑞（北条早雲）以降後北条氏の本城として関東支配の拠点となった城郭である。2008年3月までで城下を含めて調査地点は314ヶ所にのぼり（試掘含む）、現在の本丸・二の丸・三の丸・八幡山古郭・三の丸外郭・総構・城下といった地域に大別できる。特に二の丸・三の丸周辺では後北条期の障子堀や近世期に築かれた石垣などが見つかっているほか、家臣の屋敷地とされる遺構も検出されている（住吉堀・御用米曲輪・屋敷曲輪・大久保雅楽介邸跡・藩校集成館跡など）。総構では、特に伝肇寺西第Ⅰ地点で上幅16.5mもの巨大な障子堀が検出され、その土木技術の高さが注目されている。

（2）石垣山城

天正18年(1590)に豊臣秀吉と後北条氏による小田原合戦の際に、秀吉が陣城としたのが石垣山城である。地元民に「一夜城」と親しまれているこの城は、現在も曲輪や石垣の跡が明瞭に残されている。

石垣山城は主に測量・詳細分布調査及び発掘調査が行われており、その内容は『史跡　石垣山』としてⅠ～Ⅲの報告書にまとめられている。発掘調査は、第1～10地点のトレンチを設定し本城曲輪を中心とした曲輪群に入れており、曲輪の盛土造成を検出している。また、瓦片が出土し、特に第6地点では瓦葺きの建物の存在を想定しているほか、天守台付近に設定された第10地点では瓦の出土から、瓦葺きの天守があった可能性を指摘している。

瓦については、天守台周辺の崩落した石垣周辺より、数多く表面採取されている。その中で、天正19年(1591)の銘が刻まれている平瓦が採集されており、石垣山城の作事について貴重な資料と評価されている。

（3）下堀方形居館

下堀方形居館は小田原市下堀に所在し、中世土豪であった志村氏居館と言われている。現在も部分的に土塁が残るほか、堀は用水路として利用されている。かながわ考古財団が2006・2008年に調査を行ったが、現在整理途中のため、調査概報及び現地説明会資料より概観しておく。

調査では堀、溝、井戸、土抗などが検出され、中世の船載磁器（青磁）や国産陶器（常滑焼など）、漆器（椀・蓋・櫛）などが見つかっている。特に堀については、現在用水路として利用されているものよりもさらに広い堀であった可能性が指摘されている。

小田原市の中世城館で、調査が行われ報告書及び概報等が出されているものについて概観を行った。特に小田原城については数多くの調査成果が報告書として刊行されている。今後の作業の中で、これらの調査成果の集成及び検討方法については次回までの課題としておきたい。

参考文献

横浜市

1　坂本彰 他　1991『茅ヶ崎城』横浜市埋蔵文化財センター

2　坂本彰 他　1994『茅ヶ崎城Ⅱ』財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会

3　坂本彰・伊藤薫　2000『茅ヶ崎城Ⅲ』財団法人横浜市ふるさと歴史財団

4　鹿島保宏・鈴木重信 2006『茅ヶ崎城址埋蔵文化財本発掘調査報告』財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市環境創造局

5　草柳卓治・平子順一　1981『長尾台遺跡調査報告書』　横浜市教育委員会

川崎市

6　赤星直忠　1966『川崎市小沢城』川崎市文化財調査集録２　川崎市教育委員会

横須賀市

7　小出義治　1981『住吉遺跡発掘調査報告書』　神奈川県土木部・住吉遺跡調査団

8　赤星直忠　1982『衣笠城跡・後山遺跡』　日本道路公団・横浜横須賀道路埋蔵文化財発掘調査団

9　赤星直忠　1987『衣笠城跡』横須賀市文化財調査報告書第15集　横須賀市教育委員会

10　中三川昇　1993『横須賀市文化財発掘調査概報集Ⅱ 衣笠城』横須賀市文化財調査報告書第27集　横須賀市教育委員会

11　中三川昇　1993『横須賀市文化財発掘調査概報集Ⅶ 衣笠城』横須賀市文化財調査報告書第33集　横須賀市教育委員会

12　軽部一一・川上久夫　1998『衣笠城跡 尾崎南地区遺跡』　衣笠城跡尾崎南地区遺跡調査団

13　中三川昇　1993『横須賀市文化財発掘調査概報集Ⅱ 衣笠城』横須賀市文化財調査報告書第27集　横須賀市教育委員会

14　上田薫・木村吉行　2002『佐原城跡遺跡』かながわ考古学財団調査報告130

15　齋藤真一・宮井香　2008『佐原城跡遺跡Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告228

16　佐藤明生　1996『太多和館跡』横須賀市文化財調査報告書第30集　横須賀市教育委員会

17　野内秀明　1999『吉井城山』横須賀市文化財調査報告書第34集　横須賀市教育委員会

平塚市

18　難波明・関恒久ほか　1985『相模岡崎城跡総合調査報告書』　平塚市教育委員会

19　栗山雄揮　1996「岡崎城跡Ａ第２地点」『林Ｂ遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ28　平塚市教育委員会

20　青地俊朗　1991「岡崎城跡Ｂ」『諏訪前Ａ・十七ノ域遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ18　平塚市教育委員会

21　安藤文一ほか　1982『桜畑遺跡』　平塚市

22　青地俊朗　1989「桜畑遺跡隣接地」『平塚市埋蔵文化財緊急調査報告書』２　平塚市教育委員会

23　若林勝司　1992「桜畑遺跡第５地点」『天神前・桜畑遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ21　平塚市教育委員会

24　青地俊朗　1990『山王久保遺跡』平塚市埋蔵文化財シリーズ17　平塚市教育委員会

25　上原正人　1994「山王久保遺跡、岡崎城跡Ｂ第５地点」『諏訪前Ａ・道半地遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ26　平塚市教育委員会

26　栗山雄揮　1996「山王久保遺跡第７地点、岡崎城跡Ｂ」『林Ｂ遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ28　平塚市教育委員会

27　大川清・河野一也ほか　1988『御所ヶ谷遺跡』　日本窯業史研究所

28　青地俊朗　1988「片岡遺跡」『平塚市埋蔵文化財緊急調査報告書』1　平塚市教育委員会

29　青地俊朗　1990「片岡遺跡第１・２地区」『梶谷原・高林寺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ 16　平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査会

30　田尾誠敏　1996「今宮遺跡」『東海大学校地内遺跡調査団報告』6　東海大学校地内遺跡調査委員会

31　田尾誠敏　1994「大久保遺跡発掘調査報告」『東海大学校地内遺跡調査団報告』2　東海大学校地内遺跡調査委員会

32　常木晃　1990「王子ノ台遺跡」『東海大学校地内遺跡調査団報告』1　東海大学校地内遺跡調査委員会

33　秋田かな子　1995「王子ノ台遺跡・真田大原遺跡」『東海大学校地内遺跡調査団報告』5　東海大学校地内遺跡調査委員会

34　日野一郎・関根孝夫ほか　1983『真田・北金目遺跡詳細分布確認調査報告』　真田・北金目遺跡調査団

35　若林勝司ほか　2001『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』2　都市基盤整備公団

36　河合英夫ほか　2003『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』4　都市基盤整備公団

37　若林勝司ほか　2008『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』6　独立行政法人都市再生機構

38　林原利明ほか　1995『田村館跡』　田村館発掘調査団

39　村山昇・明石新ほか　1985『豊田本郷』　豊田本郷遺跡発掘調査団

40　若林勝司　1989「南金目堀の内館遺跡」『諏訪前Ｂ・大縄橋遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ 13　平塚市教育委員会

41　若林勝司　1993「堀ノ内館跡第２地点」『平塚市埋蔵文化財緊急調査報告書』6　平塚市教育委員会

42　小川裕之　2000『上吉沢市場地区遺跡群発掘調査報告書』　平塚市

43　小島弘義　1988「四之宮高林寺遺跡（第７地点）」『諏訪前Ｂ・高林寺』平塚市埋蔵文化財シリーズ６　平塚市教育委員会

44　小島弘義　1990「高林寺遺跡第９地点」『梶谷原・高林寺遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ 16　平塚市教育委員会

45　小島弘義　1999「高林寺遺跡第 12 地点」『高林寺遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ 33　平塚市教育委員会

鎌倉市

46　河野眞知郎ほか　1990『今小路西遺跡（御成小学校内）発掘調査報告書』　今小路西遺跡発掘調査団・鎌倉市教育委員会

47　原廣志ほか　1994「浄明寺三丁目 143 番２地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 10（第２分冊）』鎌倉市教育委員会

48　宮田眞　1996『公方屋敷跡発掘調査報告書　浄明寺三丁目 151 番１外地点』　公方屋敷跡発掘調査団

49　馬淵和雄ほか　2002『杉本寺周辺遺跡群　二階堂字杉本 912 番１ほか発掘調査報告書』　杉本寺周辺遺跡群発掘調査団・鎌倉市教育委員会

50　宮田眞　2000『玉縄城跡発掘調査報告書』　玉縄城跡発掘調査団

51　大河内勉　1988「玉縄城跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書４』　鎌倉市教育委員会

52　大河内勉　1994『玉縄城跡発掘調査報告書　植木字相模陣 374 番他地点』　玉縄城跡発掘調査団

53　大河内勉　1999「城廻字清水小路 673 番 10 地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 15（第２分冊）』鎌倉市教育委員会

54　大河内勉　2001「城廻字中村 473 番 8」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 17(第 2 分冊)』　鎌倉市教育委員会

55　原廣志ほか　2004「植木字植谷戸 70 番 1 外」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 20(第 1 分冊)』　鎌倉市教育委員会

56　継実　2004「植木字植谷戸 198 番の一部」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 20(第 1 分冊)』　鎌倉市教育委員会

57　原廣志ほか　2006「植木字相模陣 425 番 3 外」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 22』　鎌倉市教育委員会

58　大畑明子　1999「玉縄城址（№.63）植谷戸地点発掘調査報告書」『東国歴史考古学研究所所報』第 3 号東国歴史考古学研究所

59　福田誠　2005「北条時房・顕時邸跡　雪ノ下一丁目 264 番 4 地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 21(第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会

藤沢市

60　飯塚美保ほか　2006『御弊山遺跡』かながわ考古学財団調査報告 202

61　滝澤友子ほか　2007『二伝寺砦遺跡　第 3 地点・第 4 地点』　株式会社盤古堂

62　秋山重美ほか　1996『神奈川県藤沢市二伝寺砦遺跡発掘調査報告書』　二伝寺遺跡発掘調査団

63　奥田直栄　1968『第 1 次大庭城址発掘調査概報』　大庭城址発掘調査団

64　奥田直栄　1968『第 2 次大庭城址発掘調査概報』　大庭城址発掘調査団

65　寺田兼方　1975『大庭城山遺跡発掘調査概報』藤沢市文化財調査報告第 10 集　藤沢市教育委員会

66　加藤信夫ほか　1991『大庭城址公園内遺跡発掘調査報告書』　大庭城址公園整備事業区域内埋蔵文化財発掘調査会

逗子市

67　佐藤仁彦・菊池信吾　2004『埋蔵文化財試掘確認調査報告 2(平成 12 ～ 14 年度)　岩殿寺城郭遺構(逗子市№.71)』神奈川県逗子市埋蔵文化財調査報告書 3　逗子市教育委員会

68　赤星直忠　1983『神武寺の城郭遺構』逗子市文化財調査報告書第十二集　逗子市教育委員会

69　佐藤仁彦・菊池信吾　2004『埋蔵文化財試掘確認調査報告 2(平成 12 ～ 14 年度)　神武寺城郭遺構(逗子市№.73)』神奈川県逗子市埋蔵文化財調査報告書 3　逗子市教育委員会

70　赤星直忠ほか　1980『逗子市住吉城址』逗子市教育委員会

71　佐藤仁彦・菊池信吾　2004『埋蔵文化財試掘確認調査報告 2(平成 12 ～ 14 年度)　住吉城址(逗子市№.16)』神奈川県逗子市埋蔵文化財調査報告書 3　逗子市教育委員会

72　安藤龍馬・宮田真　2005『住吉城址発掘調査報告書』　株式会社博通

73　赤星直忠　1972『名越切通』逗子市文化財調査報告書第三集　逗子市教育委員会

74　赤星直忠　1979『逗子市名越遺跡 －中世の切通・城郭・葬送遺構－』　逗子市教育委員会

75　佐藤仁彦　1997『神奈川県逗子市名越遺跡範囲確認調査報告書』　逗子市教育委員会

76　佐藤仁彦・菊池信吾ほか　2004『史跡名越切通確認調査報告』神奈川県逗子市埋蔵文化財発掘調査報告書 4　逗子市教育委員会

相模原市

77　大貫英明・土井永好・青木豊ほか　1986『橋本遺跡Ⅷ　歴史時代編』　相模原市橋本遺跡調査会

78　津久井城遺跡調査会・津久井城遺跡調査団　1997『津久井城の調査Ⅰ』

79　津久井城遺跡調査会・津久井城遺跡調査団　1998『津久井城の調査Ⅱ』

80　津久井城遺跡調査会・津久井城遺跡調査団　1999『津久井城の調査Ⅲ』

81　津久井城遺跡調査会・津久井城遺跡調査団　2000『津久井城の調査Ⅳ』

82　津久井城遺跡調査会・津久井城遺跡調査団　2001『津久井城の調査Ⅴ』

83　津久井城遺跡調査会・津久井城遺跡調査団　2002『津久井城の調査Ⅵ』

84　津久井城遺跡調査会・津久井城遺跡調査団　2004『津久井城の調査Ⅶ』

85　津久井城遺跡調査会・津久井城遺跡調査団　2005『津久井城の調査Ⅷ』

86　相模原市教育委員会　2007『津久井城の調査Ⅸ』

87　相模原市教育委員会・津久井城遺跡調査団　2008『津久井城の調査Ⅹ』

88　池田治ほか 2004『津久井城根小屋地区遺跡群』かながわ考古学財団調査報告 166

三浦市

89　武藤康弘　1997『新井城』東京大学構内遺跡調査研究年報 1996 年度　東京大学埋蔵文化財調査室

秦野市

90　霜出俊浩　2004『秦野の遺跡 1　東田原中丸遺跡 2000 － 03』　秦野市教育委員会

91　秦野市教育委員会　1991『波多野城址発掘調査報告書』秦野の文化財 27

厚木市

92　日野一郎・江藤昭　1976『小野若宮遺跡』　厚木市小野若宮遺跡調査団

93　西川修一ほか　1998『御屋敷添遺跡第 3 地点・第 4 地点・第 5 地点・高森一の崎遺跡・高森窪谷遺跡』かながわ考古学財団調査報告 33

94　七沢神出遺跡発掘調査団　1994『七沢神出遺跡発掘調査報告書』

大和市

95　中村喜代重・曽根博明　1979『上和田城山』大和市文化財調査報告書第 2 集　大和市教育委員会

96　有馬多恵子ほか　1994『上和田城山遺跡 第 4 次調査』　大和市上和田城山遺跡調査会

97　堀田孝博ほか　1998『下鶴間城山』大和市文化財調査報告書第 66 集　大和市教育委員会

98　大和市教育委員会　1988『深見城趾』大和市文化財調査報告書第 30 集

99　戸田哲也・高橋勝也・小笠原清　2001『大和深見城跡発掘調査報告書』　大和市教育委員会

100　小林義典ほか　1987『長堀南遺跡発掘調査報告書』　大和市北部処理場建設予定地内遺跡調査団

伊勢原市

101　吉田章一郎ほか 1979『神奈川県伊勢原市御伊勢森遺跡（伝上杉定正館跡）の調査』　御伊勢森遺跡発掘調査団

102　西川修一・天野賢一・堀田孝博　1999『上粕屋・小山遺跡（№. 9 ・39）　三宮下御領原遺跡（№. 12 西）　上粕屋・〆引東遺跡（№. 40）　上粕屋・〆引南遺跡（№. 41)』かながわ考古学財団調査報告 52

103　田尾誠敏・宮田明子　1995『伊勢原市下糟屋　弥杉・上ノ台遺跡　－東海大学健康科学部校舎建設に先立つ調査－』東海大学校地内遺跡調査委員会

104　井上淳ほか　1987『成瀬第 2 地区遺跡群詳細分布調査概報』　伊勢原市教育委員会

105　小松清ほか　2002『成瀬第 2 地区遺跡群下糟屋Ｃ地区第 1 地点　Ｄ地区・丸山Ｅ地区発掘調査報告』　成瀬第 2 地区遺跡調査会・都市基盤整備公団

106　小松清ほか　2001『成瀬第 2 地区遺跡群下糟屋Ｃ地区第 2 地点・第 3 地点発掘調査報告書』　成瀬第 2 地区遺跡調査会・都市基盤整備公団

107　宍戸信悟・宮坂淳一・三瓶裕司　1999『上粕屋・上尾崎遺跡（№. 10）　上粕屋・〆引北遺跡（№. 11）　上粕屋・〆

引西遺跡（№.12 東）』かながわ考古学財団調査報告 56

海老名市

108　神奈川県教育委員会　1979『上浜田遺跡』　神奈川県立埋蔵文化財調査報告 15　神奈川県教育庁社会教育部文化財保護課

南足柄市

109　南足柄市教育委員会　1992『浜居場城跡－その測量と発掘調査の記録－』

110　南足柄市教育委員会　1975『南足柄市文化財調査報告書－沼田城址－』

111　沼田城跡発掘調査団　1995『沼田城跡発掘調査概要報告書』

綾瀬市

112　小滝勉ほか　1997『早川城跡発掘調査報告書』　早川城跡調査会

113　國平健三ほか　1988『宮久保遺跡Ⅱ』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告

松田町

114　東海自動車道松田町内埋蔵文化財発掘調査団・松田城址発掘調査団　1989『松田城址』

山北町

115　砂田佳弘ほか 2007『河村城跡』神奈川県山北町文化財調査報告 1　神奈川県足柄上郡山北町教育委員会

116　砂田佳弘ほか 2008『河村城跡』神奈川県山北町文化財調査報告 2　神奈川県足柄上郡山北町教育委員会

小田原市

塚田順正ほか　1991『史跡石垣山Ⅰ　－ 1988 年度測量調査報告－』　小田原市教育委員会

塚田順正ほか　1992『史跡石垣山Ⅱ　－ 1989 年度詳細分布調査報告－』　小田原市教育委員会

塚田順正ほか　1993『史跡石垣山Ⅲ　－ 1990 年度詳細分布調査－』　小田原市教育委員会

小笠原清ほか　1995『小田原市　別編城郭』　小田原市

財団法人かながわ考古学財団 2007　『小田原市下堀地区 No271 遺跡・No272 遺跡成田地区 No273 遺跡発掘調査概報』　財団法人かながわ考古学財団

諏訪間順ほか　2008　『小田原城下　本町遺跡第Ⅲ地点』　小田原市教育委員会

近世民家の集成（6）

近世プロジェクトチーム

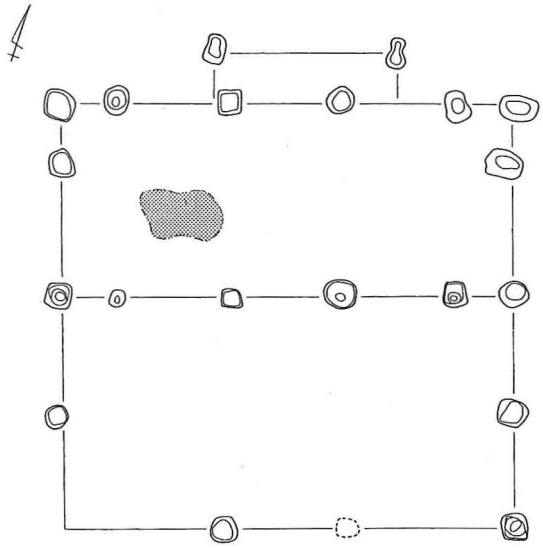
はじめに

県内の近世民家の集成の第６回目である。本プロジェクトチームでは、これまでに横浜市、川崎市、横須賀市、鎌倉市、平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、逗子市、小田原市、相模原市、綾瀬市、厚木市、伊勢原市、大和市、津久井町、愛川町の集成を行い147棟分のデータを蓄積してきた。今回は清川村宮ヶ瀬遺跡群の上村遺跡、北原（№.９、№.10・11北）遺跡、南（№.２）遺跡の集成を行い39棟分を追加した。

凡　例

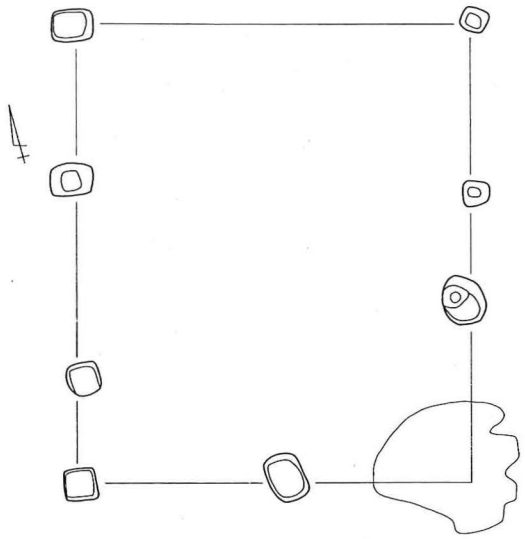
・資料№.は近世民家の集成（１）からの続き番号である。
・遺構名は報告書の記載に基づく。
・建物の縮尺は 1/100 とし、スケールを省略したが、規模の大きいものについては適宜縮尺を変え、図面ごとにスケールを示した。
・梁間、桁行の間数は単に柱穴の数ではなく、柱間距離から概略割り出した１間の梁間及び桁行寸法で換算した数値を示している。
・坪数は梁間×桁行の面積を、現行の一坪 3.3 ㎡で除したものである。
・建物の機能・構築時期については、報告書の記載に準じているが、母屋と付属建物の別が明確なもの、出土遺物から時期が推定できるものについては記載した。

資料№.	148	遺跡名	上村遺跡				所在地	清川村宮ヶ瀬字上村	
遺構名	K1号掘立柱建物址	構築場所	段丘平坦地						
規模	梁間	6.8 m	桁行	7.2 m	3 × 3 間		面積	49 ㎡	坪数 14.8 坪
柱穴の形状	方形	柱間距離	梁	1.8 ～ 2.1 m	桁	1.8 ～ 2.6 m	主軸方位	N－ 72 °－E	
出土遺物			付属施設						
建物の機能			構築時期						
備考	K 17 号掘立柱建物址と重複、北側に半間の廂、中央西側に粘土・焼土が分布								

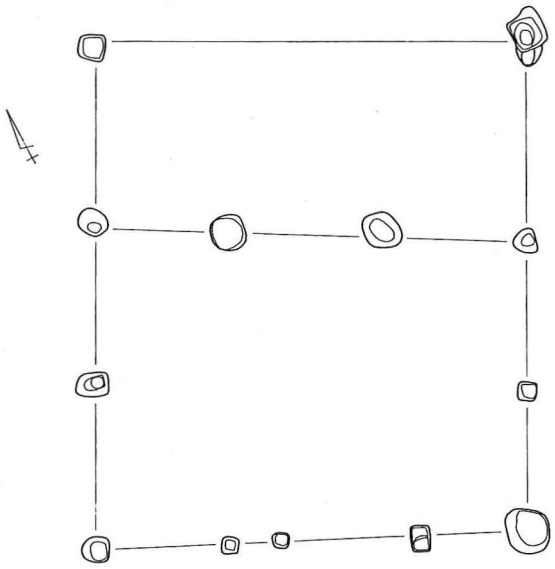


〔S：1／120〕

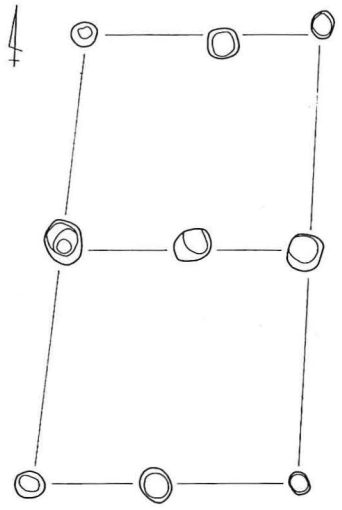
資料No.	149	遺跡名	上村遺跡				所在地	清川村宮ヶ瀬字上村		
遺構名		K3号掘立柱建物址		構築場所	段丘平坦地					
規模		梁間	5.2 m	桁行	6.3 m	2 × 3 間	面積	32.8 ㎡	坪数	9.9 坪
柱穴の形状		方形		柱間距離	梁	2.45・2.75 m	桁	1.4 ～ 2.65 m	主軸方位	N－ 17 °－E
出土遺物					付属施設					
建物の機能					構築時期					
備考		K 4・9・10 号掘立柱建物址と重複								



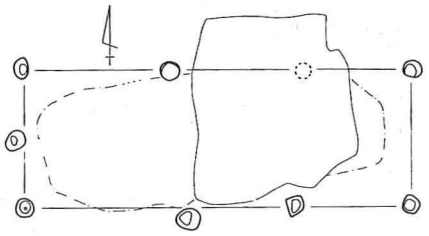
資料No.	150	遺跡名	上村遺跡				所在地	清川村宮ヶ瀬字上村		
遺構名		K 4 号掘立柱建物址		構築場所	段丘平坦地					
規模		梁間	5.7 m	桁行	6.65 m	3 × 3 間	面積	37.9 ㎡	坪数	11.5 坪
柱穴の形状		方形・不整形		柱間距離	梁	1.75 ～ 2.05 m	桁	2.1 ～ 2.35 m	主軸方位	N－ 30 °－E
出土遺物					付属施設					
建物の機能					構築時期					
備考		K 3・9・10 号掘立柱建物址と重複								



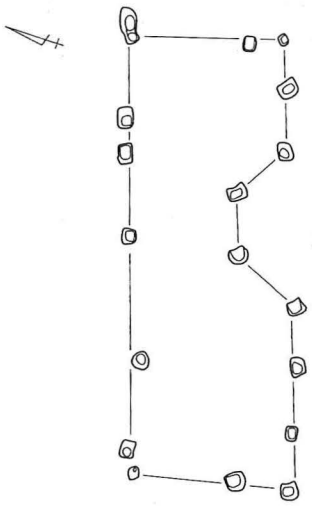
資料No.	151	遺跡名	上村遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字上村		
遺構名	K5号掘立柱建物址	構築場所	段丘平坦地								
規模	梁間	3.6 m	桁行	6.0 m	2 × 2 間			面積	21.6 ㎡	坪数	6.5 坪
柱穴の形状	方形・楕円形	柱間距離	梁	1.25・1.9 m	桁	1.8 m		主軸方位	N－11°－E		
出土遺物				付属施設							
建物の機能				構築時期							
備考	K 6・15 号掘立柱建物址と重複										



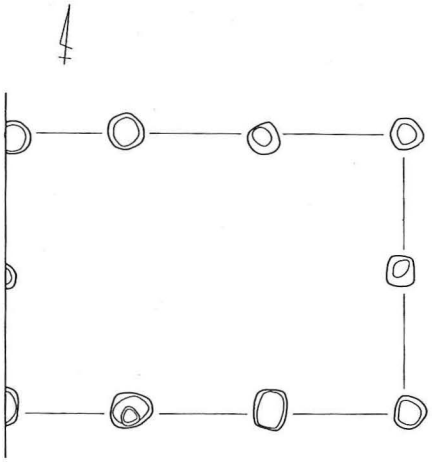
資料No.	152	遺跡名	上村遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字上村		
遺構名	K6号掘立柱建物址	構築場所	段丘平坦地								
規模	梁間	1.8 m	桁行	5.1 m	1 × 3 間			面積	9.2 ㎡	坪数	2.8 坪
柱穴の形状	方形・楕円形	柱間距離	梁	1.8 m	桁	1.4 ～ 2.2 m		主軸方位	N－88°－E		
出土遺物				付属施設							
建物の機能				構築時期							
備考	K 5・15 号掘立柱建物址と重複										



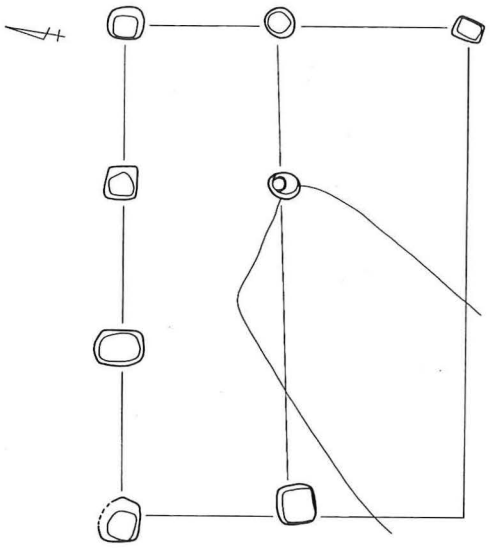
資料No.	153	遺跡名	上村遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字上村		
遺構名		K7号掘立柱建物址		構築場所	段丘平坦地						
規模		梁間	2.1 m	桁行	5.9 m	1 × 4 間		面積	12.4 ㎡	坪数	3.8 坪
柱穴の形状		方形		柱間距離	梁	2.1 m	桁	1.1 ～ 1.65 m	主軸方位	N－ 71 °－E	
出土遺物					付属施設						
建物の機能					構築時期						
備考											



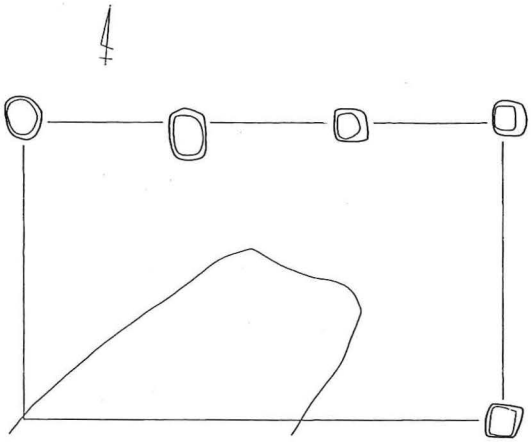
資料No.	154	遺跡名	上村遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字上村		
遺構名		K8号掘立柱建物址		構築場所	段丘平坦地						
規模		梁間	3.7 m	桁行	5.3 m	2 × 3 間		面積	19.6 ㎡	坪数	5.9 坪
柱穴の形状		方形・円形		柱間距離	梁	1.8・1.9 m	桁	1.65 ～ 1.95 m	主軸方位	N－ 85 °－E	
出土遺物		石臼片 1 点			付属施設						
建物の機能					構築時期						
備考											



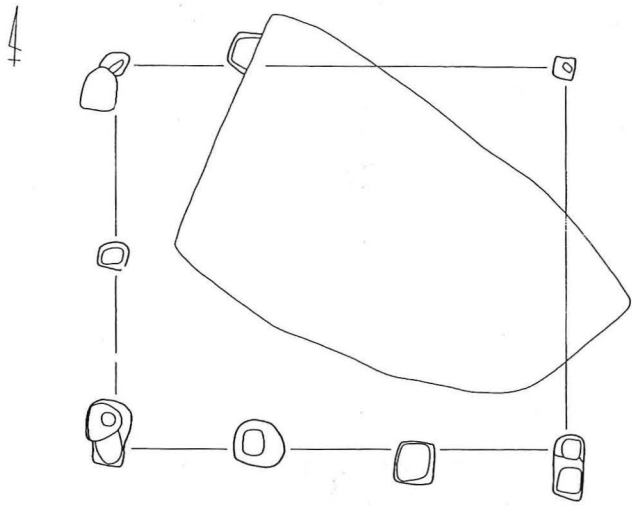
資料No.	155	遺跡名	上村遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字上村		
遺構名		K9号掘立柱建物址		構築場所	段丘平坦地						
規模		梁間	4.6 m	桁行	6.6 m	2 × 3 間		面積	30.4 ㎡	坪数	9.2 坪
柱穴の形状		方形・円形		柱間距離	梁	2.05・2.55 m	桁	2.1 ～ 2.3 m	主軸方位	N－ 81 °－E	
出土遺物					付属施設						
建物の機能					構築時期						
備考		K 3・4・10 号掘立柱建物址と重複									



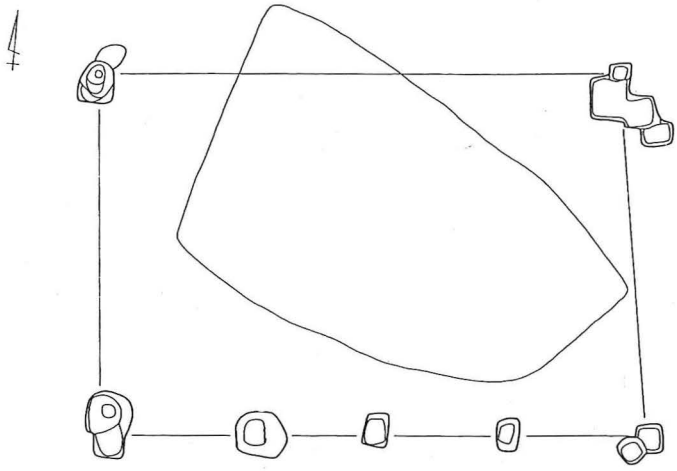
資料No.	156	遺跡名	上村遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字上村		
遺構名		K10号掘立柱建物址		構築場所	段丘平坦地						
規模		梁間	4.0 m	桁行	6.4 m	2 × 3 間		面積	25.6 ㎡	坪数	7.8 坪
柱穴の形状		方形		柱間距離	梁	4.0 m	桁	2.0 ～ 2.2 m	主軸方位	N－ 81 °－E	
出土遺物					付属施設						
建物の機能					構築時期						
備考		K 3・4・9 号掘立柱建物址と重複、梁行は中間 1 間の吹放ち									



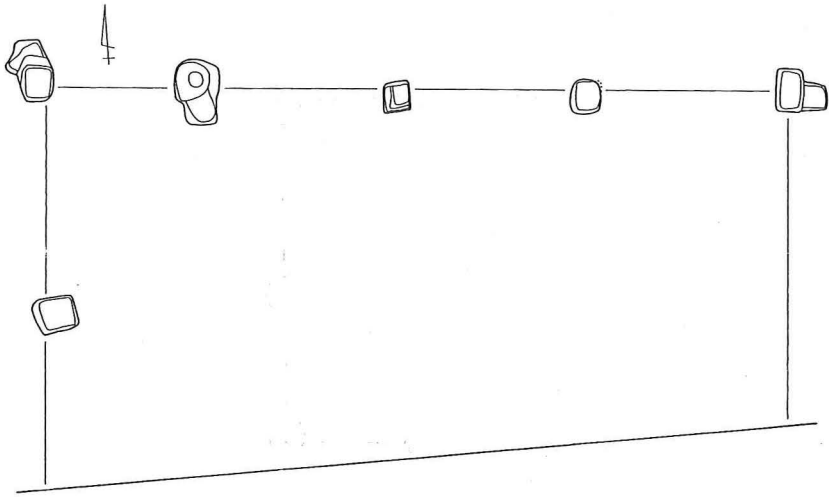
資料No.	157	遺跡名	上村遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字上村		
遺構名		K11号掘立柱建物址		構築場所	段丘平坦地						
規模	梁間	5.0 m	桁行	6.0 m	2 × 3 間			面積	30 ㎡	坪数	9.1 坪
柱穴の形状	方形		柱間距離	梁	2.5 m	桁	1.8 ～ 2.2 m	主軸方位	N－ 86 °－E		
出土遺物				付属施設							
建物の機能				構築時期							
備考	K 12・13 号掘立柱建物址と重複										



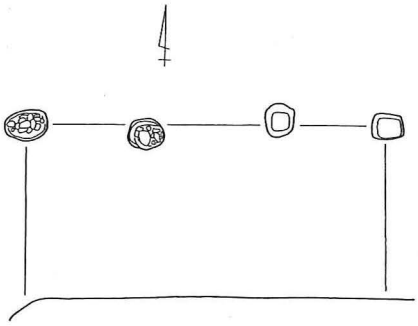
資料No.	158	遺跡名	上村遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字上村		
遺構名		K12号掘立柱建物址		構築場所	段丘平坦地						
規模	梁間	4.75 m	桁行	7.2 m	2 × 4 間			面積	34.2 ㎡	坪数	10.4 坪
柱穴の形状	方形		柱間距離	梁	4.75 m	桁	1.6 ～ 1.9 m	主軸方位	N－ 85 °－E		
出土遺物				付属施設							
建物の機能				構築時期							
備考	K 11・13 号掘立柱建物址と重複										



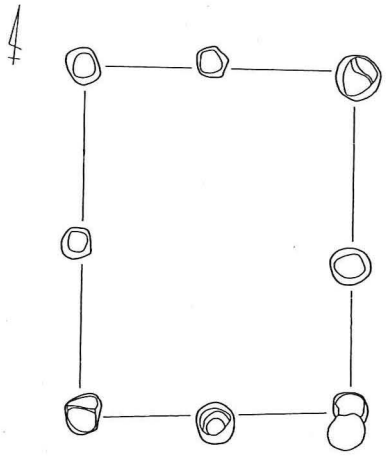
資料No.	159	遺跡名	上村遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字上村	
遺構名	K13号掘立柱建物址	構築場所	段丘平坦地							
規模	梁間	5.3 ～m	桁行	9.8 m	2～ × 4 間	面積	㎡	坪数	坪	
柱穴の形状	方形	柱間距離	梁	3.1 m	桁	2.1 ～ 2.75 m	主軸方位	N－ 86 °－E		
出土遺物		付属施設								
建物の機能		構築時期								
備考	K 11・12 号掘立柱建物址およびK 1号礎石建物址と重複									



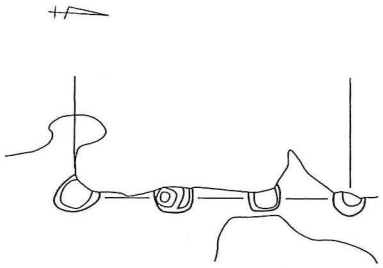
資料No.	160	遺跡名	上村遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字上村	
遺構名	K14号掘立柱建物址	構築場所	段丘平坦地							
規模	梁間	2.3 ～m	桁行	4.8 m	1～ × 3 間	面積	㎡	坪数	坪	
柱穴の形状	方形	柱間距離	梁	2.3 ～m	桁	1.45 ～ 1.75 m	主軸方位	N－ 90 °－E		
出土遺物		付属施設								
建物の機能		構築時期								
備考	2穴に河原石充填									



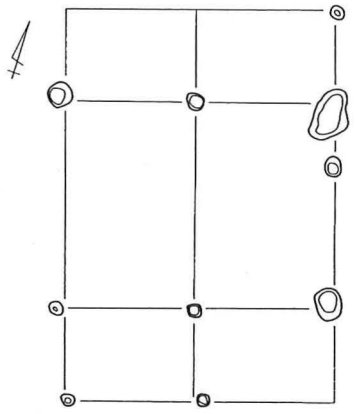
資料No.	161	遺跡名	上村遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字上村		
遺構名		K15号掘立柱建物址		構築場所	段丘平坦地						
規模		梁間	3.6 m	桁行	4.6 m	2 × 2 間		面積	16.6 ㎡	坪数	5 坪
柱穴の形状		方形・円形		柱間距離	梁	1.7・1.9 m	桁	2.2・2.4 m		主軸方位	N－5°－W
出土遺物						付属施設					
建物の機能						構築時期					
備考		K 5・6 号掘立柱建物址と重複									



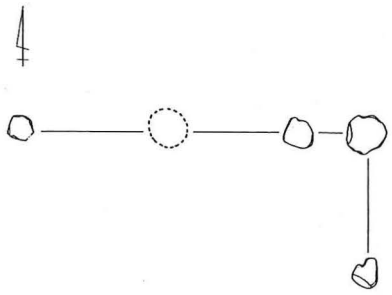
資料No.	162	遺跡名	上村遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字上村		
遺構名		K16号掘立柱建物址		構築場所	段丘平坦地						
規模		梁間	1.5 ～m	桁行	3.6 m	1 ～ × 3 間		面積	㎡	坪数	坪
柱穴の形状		方形・円形		柱間距離	梁	m	桁	1.1 ～ 1.35 m		主軸方位	N－3°－W
出土遺物		土瓶破片				付属施設					
建物の機能						構築時期					
備考											



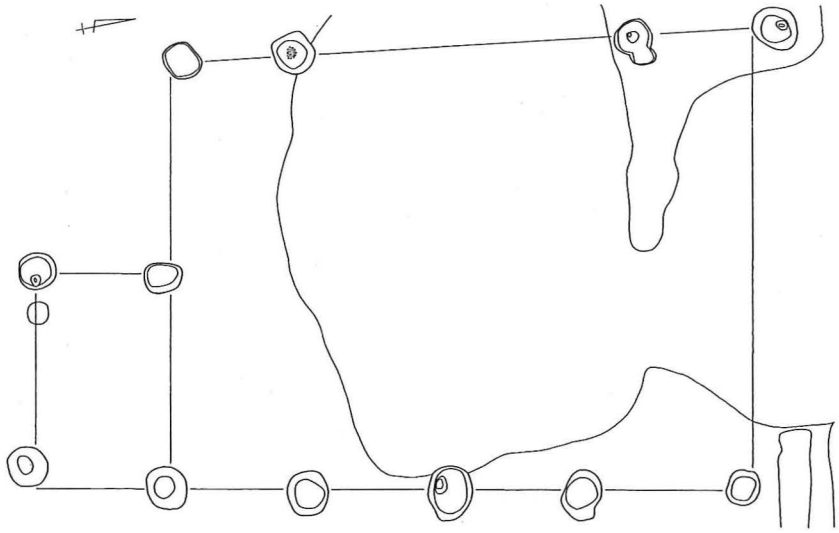
資料No.	163	遺跡名	上村遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字上村		
遺構名	K17号掘立柱建物址	構築場所	段丘平坦地								
規模	梁間	3.55 m	桁行	5.15 m	2 × 3 間	面積	18.3 ㎡	坪数	5.5 坪		
柱穴の形状	円形・不整形	柱間距離	梁	1.7・1.85 m	桁	1.2・2.8 m	主軸方位	N－18°－W			
出土遺物		付属施設									
建物の機能		構築時期									
備考	K 1 号掘立柱建物址と重複										



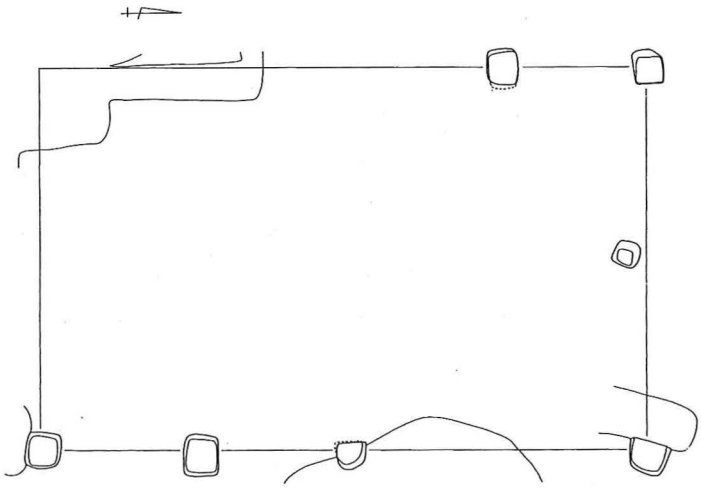
資料No.	164	遺跡名	上村遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字上村		
遺構名	K1号礎石建物址	構築場所	段丘平坦地								
規模	梁間	1.8 ～m	桁行	4.6 ～m	2～ × 3～ 間	面積	㎡	坪数	坪		
柱穴の形状		柱間距離	梁	1.85 m	桁	0.9 ～ 1.9 m	主軸方位	N－89°－W			
出土遺物		付属施設									
建物の機能		構築時期									
備考	K 13 号掘立柱建物址と重複、直径 40 cm前後の偏平な河原石利用										



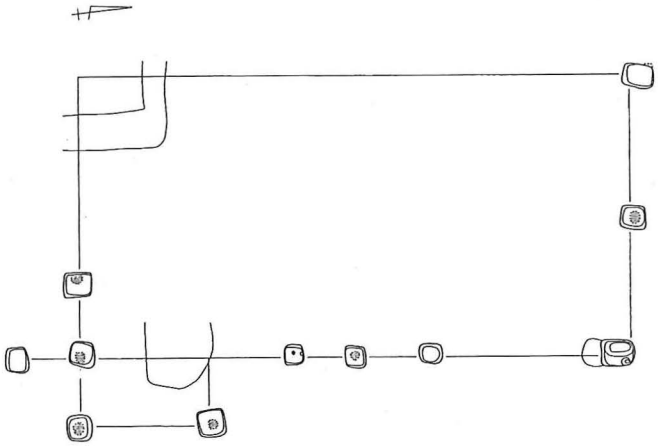
資料No.	165	遺跡名	北原（No.9）遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字北原	
遺構名	K1号掘立柱建物址	構築場所	緩斜面							
規模	梁間	6.1 m	桁行	8.0 m	2 × 4 間	面積	45 ㎡	坪数	13.6 坪	
柱穴の形状	円形	柱間距離	梁	2.6・2.8 m	桁	1.6 ～ 2.2 m	主軸方位	N－10°－E		
出土遺物	肥前陶磁器				付属施設	南側に廂				
建物の機能					構築時期					
備考										



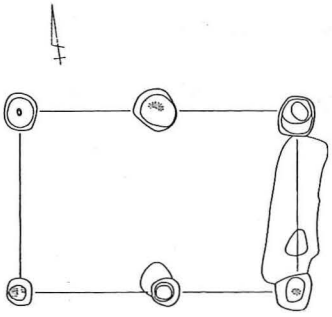
資料No.	166	遺跡名	北原（No.9）遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字北原	
遺構名	K2号掘立柱建物址	構築場所	緩斜面							
規模	梁間	5.1 m	桁行	7.9 m	2 × 4 間	面積	40 ㎡	坪数	12.1 坪	
柱穴の形状	方形	柱間距離	梁	2.5・2.6 m	桁	2.0 m	主軸方位	N－3°－E		
出土遺物					付属施設					
建物の機能					構築時期					
備考	K3・4号掘立柱建物址と重複									



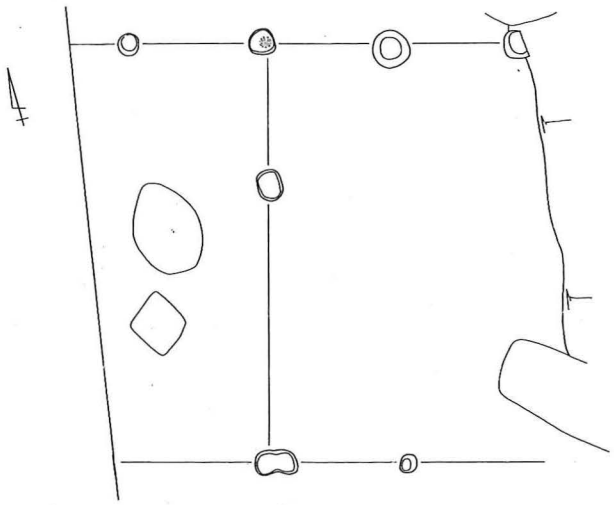
資料No.	167	遺跡名	北原（No.9）遺跡				所在地	清川村宮ヶ瀬字北原		
遺構名		K3号掘立柱建物址		構築場所	緩斜面					
規模	梁間	3.7 m	桁行	7.4 m	2 × 4 間		面積	27 ㎡	坪数	8.2 坪
柱穴の形状	方形		柱間距離	梁	1.8・1.9 m	桁	0.8 ～ 2.9 m	主軸方位	N－5°－E	
出土遺物					付属施設	東列の南端に半間の廂				
建物の機能					構築時期					
備考	K 2・4 号掘立柱建物址と重複									



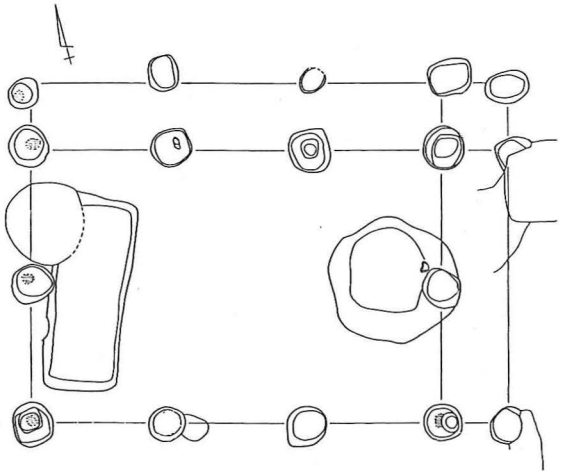
資料No.	168	遺跡名	北原（No.9）遺跡				所在地	清川村宮ヶ瀬字北原		
遺構名		K4号掘立柱建物址		構築場所	緩斜面					
規模	梁間	2.4 m	桁行	3.65 m	1 × 2 間		面積	9 ㎡	坪数	2.7 坪
柱穴の形状	円形		柱間距離	梁	1.8 m	桁	1.8 m	主軸方位	N－82°－W	
出土遺物					付属施設					
建物の機能					構築時期					
備考	K 2・3 号掘立柱建物址と重複									



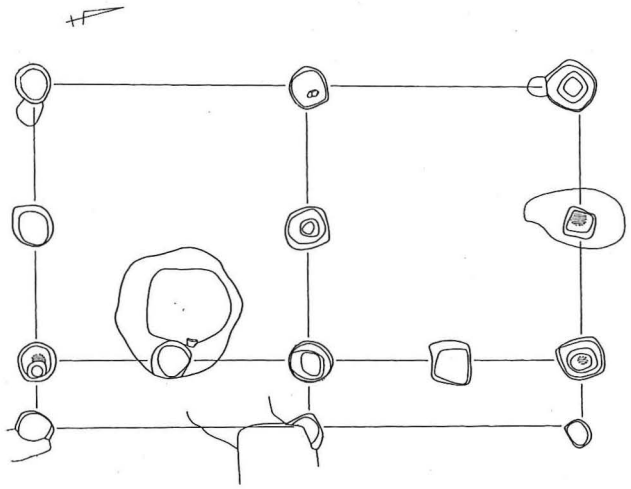
資料No.	169	遺跡名	北原（No.9）遺跡				所在地	清川村宮ヶ瀬字北原		
遺構名		K5号掘立柱建物址		構築場所	平坦面					
規模		梁間	5.5 m	桁行	5.2 m	3 × 4 間	面積	29 ㎡	坪数	8.8 坪
柱穴の形状		円形		柱間距離	梁	1.8・3.7 m	桁	1.7 ～ 1.8 m	主軸方位	N－73°－W
出土遺物					付属施設					
建物の機能					構築時期					
備考										



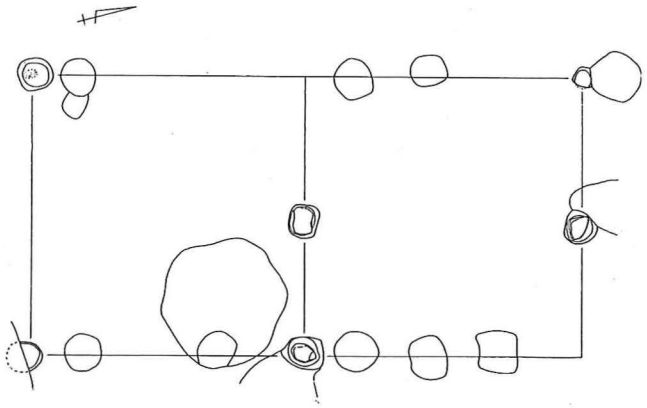
資料No.	170	遺跡名	北原（No.9）遺跡				所在地	清川村宮ヶ瀬字北原		
遺構名		K6号掘立柱建物址		構築場所	東南崖面縁辺の平坦面					
規模		梁間	3.6 m	桁行	5.45 m	2 × 3 間	面積	20 ㎡	坪数	6.1 坪
柱穴の形状		円形		柱間距離	梁	1.85・2.0 m	桁	1.80 m	主軸方位	N－73°－W
出土遺物		寛永通宝3点			付属施設	北・東列に半間の廂				
建物の機能					構築時期					
備考										



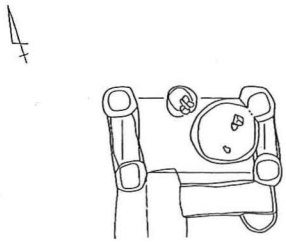
資料No.	171	遺跡名	北原（No.9）遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字北原		
遺構名		K7号掘立柱建物址		構築場所	東南崖面縁辺の平坦面						
規模		梁間	3.8 m	桁行	7.2 m	2 × 4 間		面積	27 ㎡	坪数	8.2 坪
柱穴の形状		円形		柱間距離	梁	1.8 m	桁	1.8 m	主軸方位	N－12°－E	
出土遺物					付属施設	東面の 0.5 間の廂					
建物の機能					構築時期						
備考		南側の 2 間× 2 間分はK 6 号掘立柱建物址の柱穴を利用									



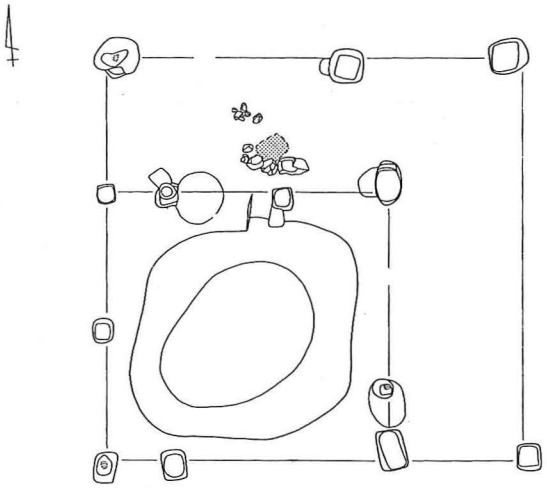
資料No.	172	遺跡名	北原（No.9）遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字北原		
遺構名		K8号掘立柱建物址		構築場所	東南崖面縁辺の平坦面						
規模		梁間	3.7 m	桁行	7.3 m	2 × 4 間		面積	27 ㎡	坪数	8.2 坪
柱穴の形状		円形		柱間距離	梁	1.80 m	桁	3.60 m	主軸方位	N－14°－E	
出土遺物					付属施設						
建物の機能					構築時期						
備考		柱穴底面に偏平な河原石、一部地表に礎石を置いて柱を立てた建物址									



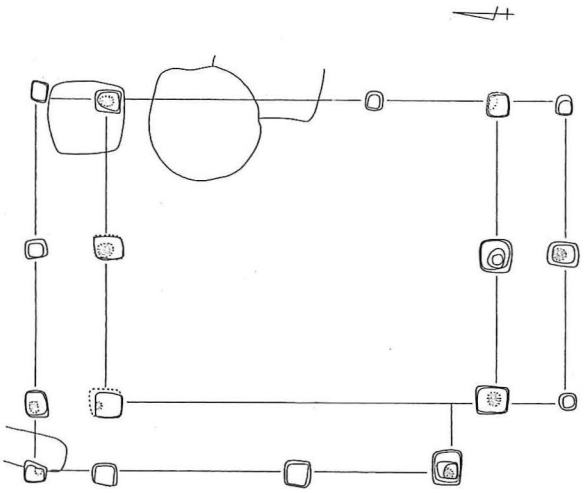
資料No.	173	遺跡名	北原（No.9）遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字北原		
遺構名		K9号掘立柱建物址		構築場所	東南崖面縁辺の平坦面						
規模		梁間	0.9 m	桁行	1.8 m	0.5 × 1 間		面積	1.6 m²	坪数	0.5 坪
柱穴の形状		方形		柱間距離	梁	m	桁	m	主軸方位	N－17°－W	
出土遺物					付属施設	K 7 土坑は厠として機能					
建物の機能					構築時期						
備考		K 6 号掘立柱建物址と同時並存、深さ 20 cm弱の溝を持つ布堀り									



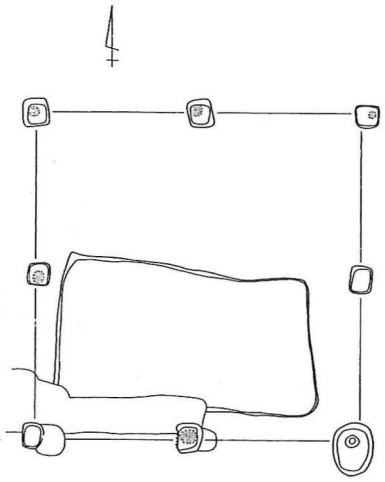
資料No.	174	遺跡名	北原（No.9）遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字北原		
遺構名		K10号掘立柱建物址		構築場所	段切り造成された平坦面						
規模		梁間	5.4 m	桁行	5.6 m	3 × 3 間		面積	30 m²	坪数	9.1 坪
柱穴の形状		方形		柱間距離	梁	0.9 ～ 2.9 m	桁	2.3 ～ 3.3 m	主軸方位	N－85°－W	
出土遺物		染付磁器碗1点			付属施設	K 9 号土坑					
建物の機能					構築時期						
備考		建物址北寄りには長軸 40 cm・短軸 30 cmの範囲に焼土・灰の堆積									



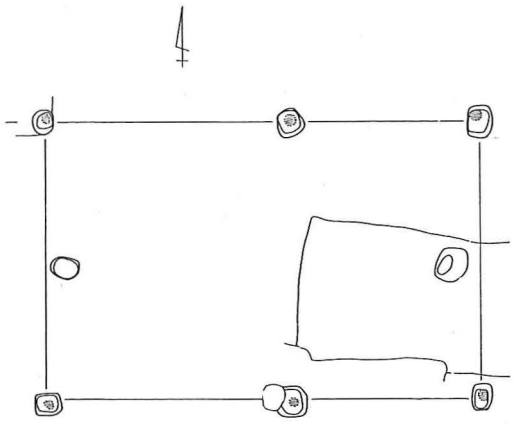
資料No.	175	遺跡名	北原（No. 9）遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字北原		
遺構名		K11号掘立柱建物址		構築場所	緩斜面						
規模		梁間	4.0 m	桁行	5.15 m	2 × 3 間		面積	21 m²	坪数	6.4 坪
柱穴の形状		方形		柱間距離	梁	1.9・2.1 m	桁	2.0 m	主軸方位	N－0°－E	
出土遺物					付属施設	東面を除く3面に半間の廂					
建物の機能					構築時期						
備考											



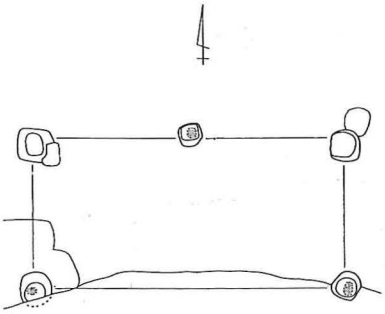
資料No.	176	遺跡名	北原（No.9）遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字北原		
遺構名		K12号掘立柱建物址		構築場所	緩斜面						
規模		梁間	4.3 m	桁行	4.3 m	2 × 2 間		面積	18 m²	坪数	5.5 坪
柱穴の形状		楕円形・方形		柱間距離	梁	2.15 m	桁	2.15 m	主軸方位	N－1°－E	
出土遺物					付属施設	K 43 土坑					
建物の機能					構築時期						
備考		K13 号掘立柱建物址と重複、5 穴の柱穴底面は硬化している									



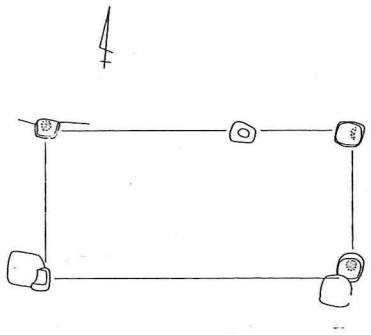
資料No.	177	遺跡名	北原（No.9）遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字北原		
遺構名		K13号掘立柱建物址		構築場所	緩斜面						
規模	梁間	3.8 m	桁行	5.8 m	2 × 2 間	面積	22 ㎡	坪数	6.7 坪		
柱穴の形状	方形	柱間距離	梁	1.9 m	桁	3.3・2.5 m	主軸方位	N－90°－W			
出土遺物				付属施設							
建物の機能				構築時期							
備考	K 12 号掘立柱建物址と重複、本建物址が古い、柱穴底面硬化										



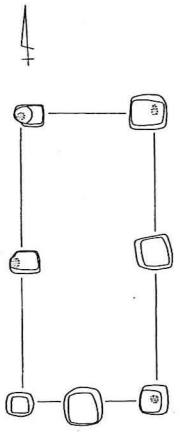
資料No.	178	遺跡名	北原（No. 9）遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字北原		
遺構名		K14号掘立柱建物址		構築場所	やや急な斜面						
規模	梁間	2.0 m	桁行	4.15 m	1 × 2 間	面積	8.3 ㎡	坪数	2.5 坪		
柱穴の形状	方形	柱間距離	梁	2.0 m	桁	2.15 m	主軸方位	N－88°－E			
出土遺物				付属施設							
建物の機能				構築時期							
備考	K 15 号掘立柱建物址重複、本建物址が新しい										



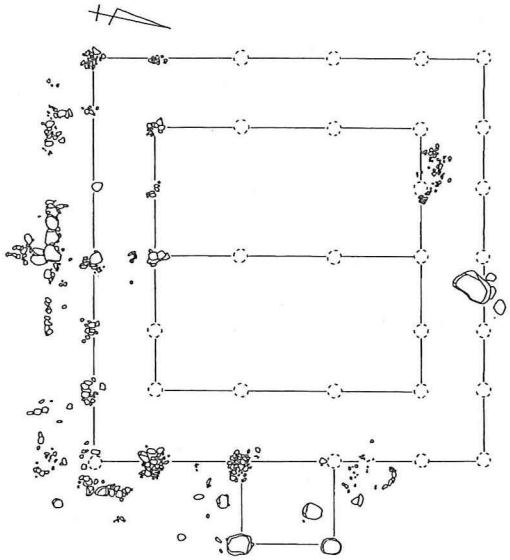
資料No.	179	遺跡名	北原（No.9）遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字北原		
遺構名		K15号掘立柱建物址		構築場所	やや急な斜面						
規模		梁間	1.9 m	桁行	4.05 m	1 × 2 間		面積	7.7 m²	坪数	2.3 坪
柱穴の形状		方形		柱間距離	梁	1.45 m	桁	2.6 m	主軸方位	N－84°－E	
出土遺物					付属施設	K 7 土坑は厠として機能					
建物の機能					構築時期						
備考		K 14 号掘立柱建物址と重複、K 4 号掘立柱建物址の北側に接しており、本建物址が新しい									



資料No.	180	遺跡名	北原（No.9）遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字北原		
遺構名		K16号掘立柱建物址		構築場所	段切り造成された緩斜面						
規模		梁間	1.8 m	桁行	3.8 m	1 × 2 間		面積	6.8 m²	坪数	2.1 坪
柱穴の形状		方形		柱間距離	梁	1.9 m	桁	1.9 m	主軸方位	N－2°－E	
出土遺物					付属施設						
建物の機能					構築時期						
備考		底面には柱を据えた硬化面を持つものが 4 穴、梁行南列には 0.5 間の補助柱穴									

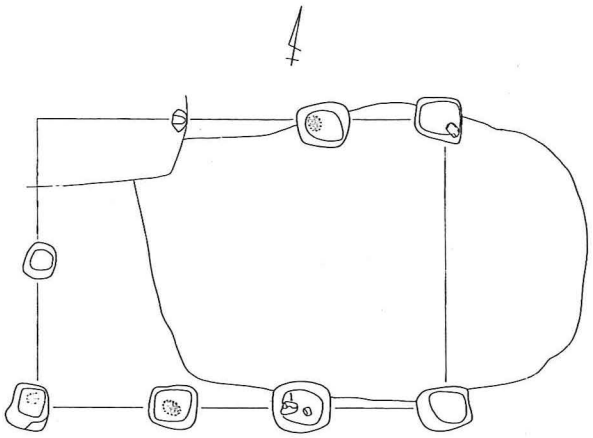


資料No.	181	遺跡名	北原（No.9）遺跡					所在地	清川村宮ヶ瀬字北原		
遺構名		1号礎石建物址		構築場所	地業面						
規模	梁間	10.7 m	桁行	6.3 m	6 × 3 間	面積	67.4 ㎡	坪数	20.4 坪		
柱穴の形状	方形	柱間距離	梁	1.4 ～ 2.0 m	桁	1.6 ～ 2.4 m	主軸方位	N－ 78 °－ E			
出土遺物			付属施設								
建物の機能	観音堂		構築時期								
備考	3間堂、堂の周囲には雨落ちの石組溝が巡っていたと推定										

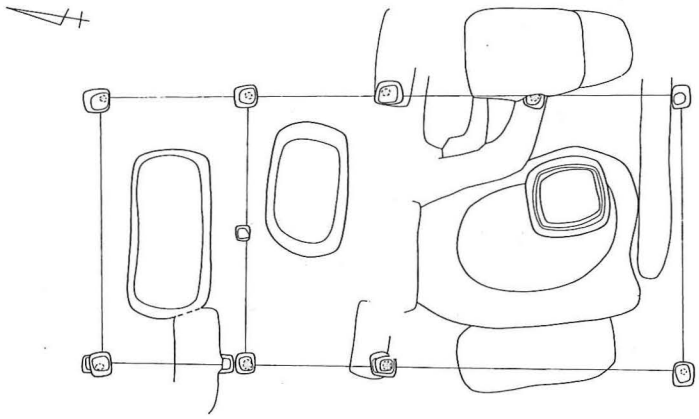


〔S：1／200〕

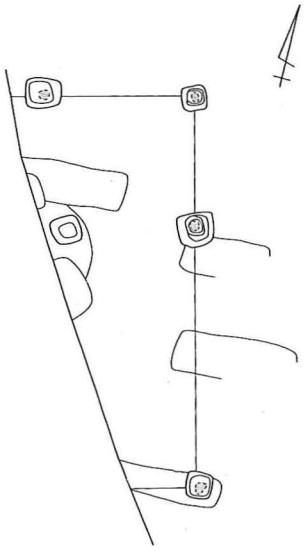
資料No.	182	遺跡名	北原（No.9）遺跡内長福寺址					所在地	清川村宮ヶ瀬字北原		
遺構名		1号掘立柱建物址		構築場所	地業面						
規模	梁間	3.8 m	桁行	5.4 m	2 × 3 間	面積	20.5 ㎡	坪数	6.2 坪		
柱穴の形状	隅丸長方形	柱間距離	梁	1.8 m	桁	1.8 m	主軸方位	N－ 80 °－ E			
出土遺物			付属施設								
建物の機能			構築時期								
備考	柱穴底面は硬化、石臼片を根固石として利用										



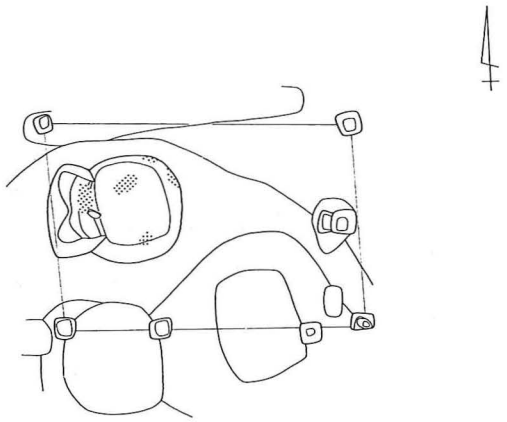
資料No.	183	遺跡名	北原（No. 10・11 北）遺跡				所在地	清川村宮ヶ瀬字北原	
遺構名	K1号掘立柱建物址	構築場所	平坦面						
規模	梁間	3.65 m	桁行	7.75 m	2 × 4 間	面積	28 ㎡	坪数	8.5 坪
柱穴の形状	方形	柱間距離	梁	1.8・1.85 m	桁	1.85 ～ 2.0 m	主軸方位	N－ 9 °－ W	
出土遺物				付属施設	K 1 竪穴状遺構、K1･8･9 土坑				
建物の機能				構築時期					
備考									



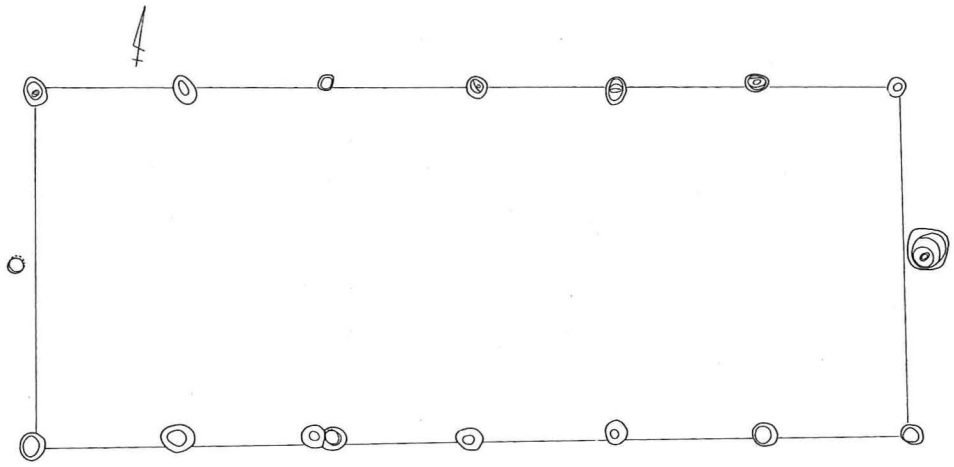
資料No.	184	遺跡名	北原（No. 10・11 北）遺跡				所在地	清川村宮ヶ瀬字北原	
遺構名	K 2 号掘立柱建物址	構築場所	平坦面						
規模	梁間	2.4 ～m	桁行	5.5 m	2 ～ × 3 間	面積	㎡	坪数	坪
柱穴の形状	方形	柱間距離	梁	2.0 m	桁	1.7 m	主軸方位	N－ 14 °－ W	
出土遺物				付属施設					
建物の機能				構築時期					
備考									



資料No.	185	遺跡名	北原（No.10・11北）遺跡				所在地	清川村宮ヶ瀬字北原	
遺構名		K3号掘立柱建物址	構築場所	平坦面					
規模	梁間	3.65 m	桁行	7.75 m	2 × 4.1 間	面積	11 ㎡	坪数	3.3 坪
柱穴の形状	方形	柱間距離	梁	1.3・1.4 m	桁	0.75～2.0 m	主軸方位	N－89°－W	
出土遺物			付属施設						
建物の機能			構築時期						
備考	K2土坑を伴う可能性あり								



資料No.	186	遺跡名	南（No.2）遺跡				所在地	清川村宮ヶ瀬字馬場	
遺構名		K1号掘立柱建物跡	構築場所	緩斜面					
規模	梁間	4.8 m	桁行	11.5 m	2 × 6 間	面積	53.9 ㎡	坪数	16.3 坪
柱穴の形状	不整円形	柱間距離	梁	2.4 m	桁	2.1 m	主軸方位	N－83°－E	
出土遺物			付属施設						
建物の機能	母屋		構築時期						
備考									



研究紀要14

かながわの考古学

発　行　日　2009(平成21)年３月16日
発　　行　財団法人かながわ考古学財団
〒232-0033　横浜市南区中村町３-191-１
tel (045)-252-8689　fax (045)-262-8162
http:/Kaf@kaf.or.jp
印　　刷　野崎印刷紙器株式会社

KANAGAWA NO KOUKOGAKU

Vol.14

(Bulletin of KANAGAWA Archaeology Foundation)

CONTENTS

Project Team for Paleolithic Studies: Paleolithic Artifacts in Kanagawa Prefecture Distribution (2) Layer L1S～L1H (2) 1

Project Team for Jômon Period Studies: Change of the Jômon Culture in Kanagawa Prefecture (Ⅶ): An Example in the earliest Late Period. An Aspect of the Shomyoji-Type Pottery Period, Part 4: Cultural Aspect (2) 17

Project Team for Yayoi Period Studies: The Corpus of Yayoi Era Metal tool in Kanagawa Prefecture 31

Project Team for Kofun Period Studies: Track of Dr. Naotada Akaboshi, A Pioneer of Archaeological Research in Kanagawa Prefecture (6): A Report of Materials of the Kofun Period in the So-called "Akaboshi Note". 43

Project Team for Nara-Heian Period Studies: Aspect of Tile of Village Ruins excavated in Kanagawa Prefecture (2) 59

Project Team for Medieval Age Studies: Castle Site in the Medieval Age in Kanagawa Prefecture 81

Project Team for Early Modern Age Studies: The Corpus of Common Houses in the Early Modern Age (6) 97

March, 2009

KANAGAWA Archaeology Foundation

Yokohama, Japan